

		理学療法学科 昼間部			
科目	哲学	単位	2	コマ数	15
担当講師	米村 豊	学 年		1 年生	
資格	理学療法士、教職（社会）				

科目概要	医療倫理をはじめ、リハビリテーションに必要な哲学的思考と実践について学んでいく。 種々の社会的問題に関して、哲学的思考を深められるようにする。 対話を通してコミュニケーションについても考えていく。 この授業を通して、論理的思考・哲学的思考が実践できることを目指す。				
学習の留意点	理学療法では常に問題解決スキルが求められる。その前提として、そもそもの問題点は何かを特定する必要がある。 問題点の特定のためには、「なぜ〇〇なのか」や、「〇〇は本当か」「そもそも〇〇とは何か」など、物事の本質的な部分を捉える必要がある。 この授業では様々なテーマに沿って、上記のように考えを深めることを意識していく必要がある。				
到達目標	倫理や社会問題に関わる重要な概念や論点を踏まえながら、自身の考えを深め、それを適切に表現することができる。 演習を通して哲学的思考、コミュニケーションを実践することができる。				
授業形態	講義・グループワーク			対面	
関連科目	他の科目全般				

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	ガイダンス	授業の概要・進め方・評価方法、哲学的思考とは何かを理解する。
2回	権利	人の権利に関して、グループワークを通じて哲学的思考を深められる。
3回		
4回	正義、罰	正義や罰に関して、グループワークを通じて哲学的思考を深められる。
5回		
6回	権威	権威というものに関して、グループワークを通じて哲学的思考を深められる。
7回		
8回	差別、男女の性	差別や男女の性に関して、グループワークを通じて哲学的思考を深められる。
9回		
10回	倫理・医療倫理	一般的な倫理、および医療倫理に関して、グループワークを通じて哲学的思考を深められる。
11回		
12回	知識、真実	知識や真実に関して、グループワークを通じて哲学的思考を深められる。
13回		
14回	心、人間	人の心、人間という存在に関して、グループワークを通じて哲学的思考を深められる。
15回		

成績評価	①各講義での課題の提出状況・内容 ②学期末レポートの評価 状況により修正あり
課題やレポートに関するフィードバック	適宜
使用教材 教科書	随時レジュメを使用予定。
オフィスアワー	授業前後

		理学療法学科 昼間部			
科目	教育学	単位	2	コマ数	15
担当講師	米村 豊	学 年		1年生	
資格	理学療法士、教職（社会）				

科目概要	医学教育（教育学、臨床教育学、人間発達学、教育心理学など）を中心に社会人、医療従事者、理学療法士として必要な思考やマインドについて学んでいく。 対話を通してコミュニケーションについても考えていく。 この授業を通して、医学教育の知識を学び、実践で実施できることを目指す。				
学習の留意点	社会人、医療従事者、理学療法士として必要な思考やマインドについて学んでいくためには、自分の頭で考え、それをグループで共有することが重要となる。 そのためには、自分自身の考えをまとめるにはどうすればよいか、それを伝えるにはどうすればよいか、他者の発言に耳を傾けてそれを理解することなどが求められる。 授業全体を通じて、そのことを意識して取り組む必要がある。				
到達目標	自分自身の理解をはじめ、社会における医療のあり方、医療従事者として何が必要かなどについて自身の考えを深め適切に表現することができる。 演習を通して種々の思考やコミュニケーションを実践することができる。				
授業形態	講義・グループワーク			対面	
関連科目	他の科目全般				

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	ガイダンス	授業の概要、教育学・医学教育を学ぶ意義を理解する。
2回	内省	自分・他者のアイデンティティについて理解を深める。 対話を通じて他者との違いについて理解を深める。
3回		
4回	聴くこと、伝えること	「聴くこととは、伝えることとは」について理解を深める。対話やグループワークを通じて実践できるようにする。
5回		
6回	マインドセット	マインドセットとはなにか、成長マインドのためには何が必要かを学び、実践できる。
7回		
8回	仕事論	社会人として、医療従事者として人生１００年時代をどう生き抜くべきかを考えられる。
9回		
10回	思考法	医療（おもにリハビリ）の実践において必要な思考方法について理解する。 問題解決のために必要な思考力をグループワークを通じて身につける。
11回		
12回	認知	人の認知機能の特徴について理解する。 自分自身の認知にかかわる理解と、認知の歪みに対する解決方法を実践できる。
13回		
14回	モチベーション、意志力	モチベーションを左右するものは何か、目標達成には意志の力が必要であることを理解する。
15回		

成績評価	①各講義での課題の提出状況・内容 ②学期末レポートの評価 状況により修正あり
課題やレポートに関するフィードバック	適宜
使用教材 教科書	随時レジュメを使用予定。
オフィスアワー	授業前後

		理学療法学科 昼間部			
科目	情報科学	単位	1	コマ数	15
担当講師	下村	学 年		1年生	
資格	理学療法士				

科目概要	本科目では、理学療法士に必要な情報リテラシーと情報活用スキルを習得する。具体的には、情報の収集・整理、論文検索、Wordを用いた文書作成、Excelによる表計算・グラフ作成、PowerPointによるプレゼン資料作成などを学ぶ。さらに、情報倫理やセキュリティについても理解を深め、医療現場で適切に情報を活用できる能力を養う。				
学習の留意点	情報科学の学習では、医療現場での活用を常に意識し、倫理的な情報利用を心がけましょう。授業内容を自分事として捉え、積極的に質問し理解を深めることが大切です。習得したスキルは他の科目や実習で実践し、医療情報に関する自主学習も積極的にいきましょう。				
到達目標	授業目標を毎回確認 疑問点を即質問 演習で手を動かす 課題は期日内提出 スキルを実践活用				
授業形態	講義			対面	
関連科目	その他全般				

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	情報の概念 メモとまとめ	情報の整理、メモ作成
2回	ジャーナル・論文の検索	論文検索スキル習得
3回	文書入力、記号入力	正確な文書入力
4回	文書要約とレイアウト	要約・レイアウト作成
5回	レポートの作成	報告書作成能力向上
6回	表計算	表計算ソフト活用
7回	簡単な関数	簡単な関数を使いこなす
8回	グラフの作成	グラフ作成スキル習得
9回	スライドによる表現方法、見やすい資料	見やすい資料作成
10回	発表課題の作成	発表課題を作成
11回	プレゼンテーション（グループ）	グループで協力し発表
12回	プレゼンテーション（グループ）	グループ発表スキル向上
13回	レジュメの作成	レジュメ作成スキル習得
14回	レジュメの作成	効果的なレジュメ作成
15回	画像処理プログラムの使い方	画像加工スキル習得

成績評価	グループワーク発表内容 授業に対する姿勢
課題やレポートに関するフィードバック	適宜、個人及び全体に実施。□
使用教材 教科書	配布資料
オフィスアワー	下村：授業前後及びメール（s-shimomura@nichireha.ac.jp）

		理学療法学科 昼間部			
科目	物理学	単位	2	コマ数	15
担当講師	手塚雅之	学 年		1年生	
資格	作業療法士・健康運動実践指導者・修士（学術） 三等航空整備士・操縦教育証明（滑空機上級）				

科目概要	理学療法では物理的な物体である「身体」に、外力を使って「徒手」で働きかけたり「器具」で働きかけたりする。そのため基本的な力学的概念が必要となるので、力学を中心に物理学を理解する。また「物理療法」を通じて、温熱・光線・電気・マッサージなどの手段を用いて治療も行うため、その基礎としての物理知識も紹介する。				
学習の留意点	高校まで「物理学」を履修して来なかった方がいることを前提に、なるべく身近な例を元に解説を進めます。難度の高い計算問題は扱いませんが、基本的な計算能力は必要となります。				
到達目標	（１）ベクトルの概念、作用・反作用、モーメント・重心・てこ、などの力学的テーマを説明できるようになる。（２）物理学（力学）に関連した国家試験の問題に対応できるようにになる。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	物理療法	運動学		運動療法	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	物理量と単位	物理学で扱う量とその特徴、単位
2回	力とは	作用・反作用、力の合成、分解、牽引、摩擦
3回	物体の運動（１）	位置と変位、速度、加速度
4回	物体の運動（２）	運動の法則、仕事、仕事量
5回	物体の運動（３）	仕事率、力学的エネルギー
6回	物体の運動（４）	仕事量
7回	てこ（１）	てことは。第一、第二、第三のてこ。
8回	てこ（２）	てこの問題
9回	滑車と車軸	定滑車、動滑車、輪軸の特徴
10回	力のモーメント（１）	力のモーメントとは
11回	力のモーメント（２）	重心の求め方
12回	力学のまとめ（１）	力学の重要ポイント
13回	力学のまとめ（２）	力学の問題
14回	物体の状態、電気、波、	基本的な物理現象の理解
15回	物理療法と物理学	現場への応用

成績評価	小テストで8割、レポートで2割、の割合で評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックは全体に実施する。
使用教材教科書	「物理 重要公式が面白いほど使える本」 合田哲也著 KADOKAWA
オフィスアワー	木曜日以外の平日9時～18時、メールでも相談可。

		理学療法学科 昼間部			
科目	保健体育	単位	2	コマ数	15
担当講師	小平 健太郎	学 年		1 年生	
資格	NSCA-CSCS, NSCA-CPT, 体育学修士				

科目概要	運動の重要性は近年特に叫ばれているが、方法によっては逆効果にもなるリスクも潜んでいるため対象者に合わせた適切な方法を経験則だけでなく知見として習得していくことが専門職としても求められる。 また、自身の動作での課題の発見や適した改善を図ることは自身の健康を保つためにも必要である。 講義における基礎知識の習得だけでなく演習やグループディスカッションを通じて、多方面から運動や動作について考える時間を設ける。				
学習の留意点	講義を踏まえて運動が身体にもたらす影響について総合的に考察したものを課題として出題する。 講義内では授業課題に沿った課題を出題する。				
到達目標	①現代社会において運動が必要とされている背景を説明できる。 ②運動の有効性だけでなくリスクについて説明できる。 ③障がい者スポーツについてその起源や必要性について説明できる。 ④様々な形のスポーツについて説明できる。 ⑤感覚に制限がある中で運動を体験し、その感覚を説明できる。 ⑥既存のスポーツに対して対象者に合わせた柔軟な変更を試行できる。				
授業形態	講義・演習		対面と遠隔の併用授業		
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	運動の有効性	現代で運動が求められる理由が説明できる/運動の有効性を説明できる
2回	運動のリスク	運動が身体にもたらすリスクを学び、知っておくべき安全配慮や応急手当を説明できる。ウォーミングアップの重要性とその内容について説明できる
3回	体育館実技（障がい者スポーツ疑似体験）	障がい疑似体験を通して感覚を体感し説明できる
4回	体育館実技（レクリエーションスポーツ）	バスケットボールやバレーボールを参加者のレベルに応じて楽しむための方法を試行・実践する
5回	体力チェック	体力チェックを通して自身の体の状態を説明できる
6回	障がい者スポーツ（歴史と競技の理解）	障がい者スポーツの歴史と競技を知り、説明できる
7回	動作改善演習①（柔軟性・可動性改善演習）	柔軟性と可動性の違いを理解し、改善のための手段を実践する
8回	睡眠のメカニズム	睡眠のメカニズムを説明できる
9回	動作改善演習③（トレーニングフォーム、動作改善演習）	トレーニングフォーム、動作の改善を実践する
10回	嗜好品の影響	嗜好品が心身に与える影響を知る
11回	体育館実技（障がい者スポーツ疑似体験）	障がい疑似体験を通して感覚を体感し説明できる
12回	体育館実技（レクリエーションスポーツ）	バスケットボールやバレーボールを参加者のレベルに応じて楽しむための方法を試行・実践する
13回	行動変容	運動・スポーツへの参加を促すための行動変容手法を学びながら、コミュニケーションスキルを身に付ける
14回	様々なスポーツの形	レクリエーションスポーツやゆるスポーツの位置づけを通して様々なスポーツの形を説明できる
15回	総合演習	運動が身体にもたらす影響について総まとめとしての課題に取り組むことができる

成績評価	レポート試験：70%、講義内課題30%の合計100%で評価する。 授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。
課題やレポートに関するフィードバック	FBは全体に対して実施する
使用教材 教科書	百寿時代の運動・スポーツのトリセツ ―日本臨床スポーツ医学会からの提案― (著書名:日本臨床スポーツ医学会学術委員会/出版社名:有限会社ナップ)
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		理学療法学科 昼間部			
科目	人間関係学	単位	1	コマ数	15
担当講師	塚本奈々子、保坂裕子	学 年		1年生	
資格	理学療法士				

科目概要	対人援助職を目指す者にとって、人間関係やコミュニケーションの学習は必須である。本科目では、その基礎を学ぶ。 対人援助の基本や自己理解、コミュニケーションの概念を座学と演習を通じて学び、実践力を養う。後半は臨床現場を想定した演習を行い、実習に向けたスキルを高める。				
学習の留意点	理学療法士には、専門知識や技術だけでなく、患者や家族、多職種と適切に関わる力が求められます。良好な人間関係を築くことは、治療の効果を高め、信頼を得るためにも重要です。本講義では、人間関係やコミュニケーションの基礎を学び、実践的なスキルを養います。 学習にあたっては、以下の点を意識してください。 ・自己理解を深める：自身の対人関係の傾向を把握する。 ・相手の立場を考える：相手の気持ちを尊重し、適切な言葉や態度を選ぶ。 ・演習に積極的に参加する：実践を通じて学び、フィードバックを生かす。 ・クラスメートとの関係を大切にする：クラス内の協力関係も、臨床現場でのチーム医療の基礎となるため、授業を通じて良好な関係を築くことを意識する。 本講義を通じて、単なる知識習得にとどまらず、実際の現場で生かせる対人スキルを身につけられるよう、積極的に取り組んでください。				
到達目標	・対人援助に必要なコミュニケーションの基礎を理解し、適切に活用できる。 ・自己の対人関係の特徴を把握し、円滑な人間関係を築くための工夫ができる。 ・演習を通じて、臨床現場で求められる対話や協働のスキルを実践できる。				
授業形態	講義、演習			対面	
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	コミュニケーションについて	対人援助職のコミュニケーションについて学ぶ
2回	コミュニケーションについて	自分のコミュニケーションの傾向について学ぶ
3回	リーダーシップ、チーム	集団の形とリーダーシップについて学ぶ
4回	リーダーシップ、チーム	集団の形とリーダーシップについて学ぶ
5回	コミュニケーションの基本的知識	言語的、非言語的コミュニケーションについて学ぶ
6回	医療者になるために必要なこと	メタ認知、自立と自律について学ぶ
7回	相手を知るための観察①	観察の仕方、聞き方、伝え方について学ぶ
8回	相手を知るための観察②	観察の仕方、聞き方、伝え方について学ぶ
9回	自分に出会う	自己理解の方法について学ぶ
10回	社会における対人関係	社会で求められる対人関係について学ぶ
11回	法的制約	情報，プライバシー，守秘義務，著作権などについて学ぶ
12回	コーチングスキル	コーチングの理論とスキルについて学ぶ
13回	動機づけと人間関係	動機づけの要素、環境要因について学ぶ
14回	実習で求められる学生像	模範的な学生の行動をロールプレイで体感する
15回	実習で求められる学生像	模範的な学生の行動をロールプレイで体感する

成績評価	課題レポート100％
課題やレポートに関するフィードバック	全体に実施する
使用教材 教科書	配布資料 参考文献：PT・OT・STのためのコミュニケーション実践ガイド
オフィスアワー	授業前後の休憩時間に声をかけてください

		理学療法学科 昼間部			
科目	解剖学Ⅰ	単位	1	コマ数	15
担当講師	春原 正隆	学 年		1年生	
資格	歯科医師・博士（医学）				

科目概要	人体の正常構造を理解するために理学療法士に必要となる解剖学的基礎知識を修得するため、人体を構成する諸器官を系統別に学習する。解剖学Ⅰでは、人体各部位の骨格および関節・靱帯を講義・課題を通して3次元的に理解する。		
学習の留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には 単位を認定しない。		
到達目標	1) 基礎医学の最重要科目である解剖学の定義および目的について説明できる。 2) 人体の構成要素および発生のメカニズムについて説明できる。 3) 運動器系を構成する人体各部位の骨の名称および関節の構成・形態的特徴および働きについて説明できる。		
授業形態	対面授業	講義	
関連科目	運動学Ⅰ・Ⅱ, 検査測定法Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ, 整形外科学Ⅰ・Ⅱ, 運動療法学Ⅰ・Ⅱ リハビリテーション医学概論Ⅰ・Ⅱ疾患別理学療法Ⅰ, PT技術論全般		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	解剖学総論	解剖学とは（定義・目的），解剖学用語，人体の区分，人体の腔所（p.3～8）について説明ができる
2回	人体の構成	細胞，組織，器官・器官系・個体（p.9～20）について説明ができる
3回	人体の発生①	胚子の発生，器官系の発生①（p.21～34）について説明ができる
4回	人体の発生②	器官系の発生②，胎児の発生，出生後（p.24～36）について説明ができる
5回	骨格総論	骨の形態，骨の構造，骨の血管と神経，骨の機能，骨の発生，骨のモデリング（p.37～45）について説明ができる
6回	骨格各論①	頭蓋骨（p.46～57）について説明ができる
7回	骨格各論②	脊柱，胸郭（p.58～67）について説明ができる
8回	骨格各論③	上肢の骨（p.68～77）について説明ができる
9回	骨格各論④	下肢の骨（p.78～92）について説明ができる
10回	関節靱帯総論	骨の連結，関節の構造と機能（p.97～112）について説明ができる
11回	関節靱帯各論①	頭蓋の連結，脊柱，脊柱と頭蓋および胸郭の連結（p.113～122）について説明ができる
12回	関節靱帯各論②	上肢の連結①（p.123～136）について説明ができる
13回	関節靱帯各論③	上肢の連結②（p.123～136）について説明ができる
14回	関節靱帯各論④	下肢の連結①（p.137～154）について説明ができる
15回	関節靱帯各論⑤	下肢の連結②（p.137～154）について説明ができる

成績評価	定期試験
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項なし
使用教材 教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 解剖トレーニングノート
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		理学療法学科 昼間部			
科目	解剖学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	春原 正隆	学 年		1年生	
資格	歯科医師・博士（医学）				

科目概要	人体の正常構造を理解するために理学療法士に必要となる解剖学的知識を修得するため、人体を構成する諸器官を系統別に学習する。解剖学Ⅱでは、人体各部の筋系および神経系を中心に講義・課題を通して3次元的に理解する。	
学習の留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には 単位を認定しない。	
到達目標	1) 生体を構成する各筋の名称を列挙し、筋の形態的特徴、起始・停止および作用について説明できる。 2) 神経系の構成および中枢・末梢神経の区分について説明できる。 3) 脳・脊髄の形態的特徴や働きについて説明できる。 4) 各脳神経の名称、構造、分布、働きおよび特徴について説明できる。	
授業形態	対面授業	講義
関連科目	運動学Ⅰ・Ⅱ, 検査測定法Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ, 整形外科学Ⅰ・Ⅱ, 運動療法学Ⅰ・Ⅱ リハビリテーション医学概論Ⅰ・Ⅱ疾患別理学療法Ⅰ, PT技術論全般	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	筋系総論①	筋組織の種類と特徴，骨格筋の構造（p. 161～170）について説明ができる
2回	筋系総論②	骨格筋の作用，骨格筋の神経支配（p. 171～176）について説明ができる
3回	筋系各論①	体幹の筋①（p. 177～195）について説明ができる
4回	筋系各論②	体幹の筋②（p. 177～195）について説明ができる
5回	筋系各論③	上肢の筋①（p. 196～210）について説明ができる
6回	筋系各論④	上肢の筋②（p. 196～210）について説明ができる
7回	筋系各論⑤	下肢の筋①（p. 211～227）について説明ができる
8回	筋系各論⑥	下肢の筋②（p. 211～227）について説明ができる
9回	神経系総論①	神経系の区分，神経系の構成（p. 229～234）について説明ができる
10回	神経系総論②	髄膜と脳室系，神経系の発生（p. 235～240）について説明ができる
11回	中枢神経系①	脊髄，脳幹①（p. 241～251）について説明ができる
12回	中枢神経系②	脳幹②，小脳（p. 245～255）について説明ができる
13回	中枢神経系③	大脳（p. 256～267）について説明ができる
14回	末梢神経系①	脳神経①（p. 300～310）について説明ができる
15回	末梢神経系②	脳神経②，自律神経系（p. 300～314）について説明ができる

成績評価	定期試験
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項なし
使用教材 教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 解剖トレーニングノート
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		理学療法学科 昼間部			
科目	解剖学Ⅲ	単位	1	コマ数	15
担当講師	春原 正隆	学 年		1年生	
資格	歯科医師・博士（医学）				

科目概要	人体の正常構造を理解するために理学療法士に必要となる解剖学的知識を修得するため、人体を構成する諸器官を系統別に学習する。解剖学Ⅲでは、神経系、感覚器系および内臓器系を中心に講義・課題を通して3次元的に理解する。	
学習の留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には 単位を認定しない。	
到達目標	1) 脊髄神経の構成および分布、働きについて説明できる。 2) 神経系の主要な伝導路について説明できる。 3) 感覚器の種類、形態的特徴および働きについて説明できる。 4) 体循環・肺循環および心臓の基本構造について説明できる。 5) リンパの流路およびリンパ節の構造について説明できる。 6) 消化管と消化腺の区分、各臓器の形態的特徴および働きについて説明できる。 7) 呼吸器・泌尿器の構成および内分泌腺・各種ホルモンについて説明できる。	
授業形態	対面授業	講義
関連科目	運動学Ⅰ・Ⅱ, 検査測定法Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ, 整形外科学Ⅰ・Ⅱ, 運動療法学Ⅰ・Ⅱ リハビリテーション医学概論Ⅰ・Ⅱ疾患別理学療法Ⅰ, PT技術論全般	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	末梢神経系③	脊髄神経①（p. 278～300）について説明ができる
2回	末梢神経系④	脊髄神経②（p. 278～300）について説明ができる
3回	中枢神経系④	神経路（p. 268～277）について説明ができる
4回	感覚器系①	外皮，視覚器（p. 319～326）について説明ができる
5回	感覚器系②	平衡聴覚器，嗅覚器，味覚器（p. 326～330）について説明ができる
6回	循環器系①	血管系①（総論）（p. 335～340）について説明ができる
7回	循環器系②	血管系②（動脈）（p. 341～349）について説明ができる
8回	循環器系③	血管系③（静脈，リンパ系）（p. 350～357）について説明ができる
9回	呼吸器系①	鼻，咽頭，喉頭（p. 360～365）について説明ができる
10回	呼吸器系②	気管と気管支，肺，胸膜と縦隔（p. 366～369）について説明ができる
11回	内臓器系総論消化器系①	内臓器官の基本構造（p. 333～334） 消化管（口腔，咽頭，食道，胃，小腸，大腸）（p. 370～377）について説明ができる
12回	消化器系②	消化腺（肝臓，胆嚢，膵臓，腹膜）（p. 378～380）について説明ができる
13回	泌尿生殖器系①	泌尿器系（p. 384～389）について説明ができる
14回	泌尿生殖器系②	生殖器系（p. 390～396）について説明ができる
15回	内分泌系	ホルモンおよび標的器官，内分泌腺の種類（p. 398～404）について説明ができる

成績評価	定期試験
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項なし
使用教材 教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 解剖トレーニングノート
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		理学療法学科 昼間部			
科目	解剖学実習	単位	1	コマ数	15
担当講師	岩田 衣世	学 年		1年生	
資格	医学部解剖学教員（15年）、博士（農学）				

科目概要	神経系・感覚器系の損傷部位とその症候との関連を理解するため、神経系と感覚系の基本的な構造と機能を理解することを目的とする。解剖学の神経系と感覚器系を学ぶ科目である。	
学習の留意点	神経系は、感覚器系を介して外部環境と内部環境の情報を得て情報処理し、各器官に指令する重要な器官系である。神経系は覚えることも多く、解剖学の中でも難しい分野ではあるが、様々な図譜を用いて想像しやすいよう解説するので、講義をきちんと聞くことを勧める。	
到達目標	①神経系と感覚器系の基本的な構成について理解する。②脊髄と脳の構造と機能を説明できる。③末梢神経の名前とその機能を説明できる。④感覚と運動に関わる伝導路を理解する。⑤感覚器の構造とその基本的機能を理解する。	
授業形態	講義	対面
関連科目	”リハビリテーション医学概論Ⅰ・Ⅱ,内科老年学Ⅰ・Ⅱ,生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ,検査測定法Ⅲ,運動療法学Ⅰ・Ⅱ,疾患別理学療法Ⅱ・Ⅲ”	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	神経系の組織学・神経系の肉眼的区分	神経系の区分/神経系を構成する細胞や構造について説明できる
2回	髄膜と脳室系、神経系の発生	髄膜/脳室系/神経系の発生について説明できる
3回	脊髄	中枢神経系の基準面/方向を説明できる。脊髄の構造について説明できる。
4回	脳幹（延髄・橋・中脳）	脳幹の構造と機能を説明できる
5回	小脳	小脳の構造と機能を説明できる
6回	大脳（１）間脳・終脳	間脳と終脳の構造と機能を説明できる
7回	大脳（２）大脳皮質の機能局在	大脳皮質の構造を理解する。大脳皮質の機能局在を説明できる。大脳基底核の構造と機能を説明できる。
8回	神経路	上行性/下行性の伝導路について説明できる
9回	脊髄神経（頸神経叢、腕神経叢、胸神経）	脊髄神経の基本的な構造を説明できる。末梢神経の支配領域と機能を説明できる。
10回	脊髄神経（腰神経叢、仙骨神経叢）	末梢神経の支配領域と機能を説明できる
11回	脳神経（Ⅰ～Ⅵ）	脳神経の構造と機能について説明できる
12回	脳神経（Ⅶ～Ⅻ）	脳神経の構造と機能について説明できる
13回	自律神経系、外皮	自律神経系の構造と機能を説明できる。皮膚の構造について説明できる
14回	外皮、視覚	外皮の構造と機能を説明できる。視覚器の構造を説明できる。視覚の神経路を説明できる。
15回	聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚	聴覚/平衡覚/嗅覚/味覚に関わる構造と神経路を説明できる

成績評価	定期試験 6 割以上のものを合格とする
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項なし
使用教材教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 医学書院
オフィスアワー	講義前、講義の間の休憩時間、講義後

		理学療法学科 昼間部			
科目	機能解剖学 I	単位	1	コマ数	15
担当講師	村井、土手、TA	学 年		1年生	
資格	理学療法士				

科目概要	・将来、理学療法士として働くうえで、筋骨格を理解する必要性は極めて高いです。2次元でとらえがちな解剖学を、骨指標を基に3次元で捉え、実際に確認していきます。主に体表解剖および筋の起始・停止・走行を確認する。 ・講義は2～3人一組で実技を行う。				
学習の留意点	将来、理学療法士として働くうえで、筋骨格を理解する必要性は極めて高い。2次元でとらえがちな解剖学を、骨指標を基に3次元で捉え、実際に確認しく。主に体表解剖および筋の起始・停止・走行を確認する。 実施内容を十分に記述することで理学療法記録を作成するのと同様の経験もしていただきたいと思います。 クラスメイト同士で行うとはいえ、丁寧に触らないとお互い学び合うことはできないので、爪切りやアクセサリの管理を徹底してください。またお互い十分に学ぶために不快なく、動かしやすい格好をしてください。 小テストで理解を深めていただきますので復習しましょう。				
到達目標	・講義を通して筋肉の起始・停止を理解できるようにする。その中で3次的に筋肉がどのように走向しているかを学んでいく。				
授業形態	実習			対面	
関連科目	解剖学	検査測定法		PT技術論Ⅱ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション	人の体を触れることの大事さを理解させる
2回	肩甲骨の触察（１）	肩甲骨を触察できるようにする
3回	肩甲骨の触察（２）	肩甲骨を触察できるようにする
4回	筋触察の基本（最長筋）	筋触察の基本（最長筋）について理解する
5回	棘下筋の触察	棘下筋の触察ができるようになる
6回	小円筋・大円筋の触察	小円筋・大円筋の触察ができるようになる
7回	肩甲骨周囲筋の復習	肩甲骨に付着する筋の位置関係を確認できる。
8回	僧帽筋の触接	僧帽筋の触接ができるようになる
9回	肩甲挙筋・大小菱形筋の触接	肩甲挙筋・大小菱形筋の触接ができるようになる
10回	三角筋の触察	三角筋の触察ができるようになる
11回	広背筋の触察	広背筋の触察ができるようになる
12回	上腕二頭筋の触察	上腕二頭筋の触察ができるようになる
13回	上腕三頭筋の触察	上腕三頭筋の触察ができるようになる
14回	腕橈骨筋の触察	腕橈骨筋の触察ができるようになる
15回	総復習	ファイル作成確認

成績評価	実技・口頭試問85％ 授業中の実技小テスト15％
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	運動療法のための 機能解剖学的触診技術 動画プラス 上肢
オフィスアワー	

		理学療法学科 昼間部			
科目	機能解剖学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	村井、土手、TA	学 年		1年生	
資格	理学療法士				

科目概要	・将来、理学療法士として働くうえで、筋骨格を理解する必要性は極めて高いです。2次元でとらえがちな解剖学を、骨指標を基に3次元で捉え、実際に確認していきます。主に体表解剖および筋の起始・停止・走行を確認する。 ・講義は2～3人一組で実技を行う。				
学習の留意点	将来、理学療法士として働くうえで、筋骨格を理解する必要性は極めて高い。2次元でとらえがちな解剖学を、骨指標を基に3次元で捉え、実際に確認しく。主に体表解剖および筋の起始・停止・走行を確認する。 実施内容を十分に記述することで理学療法記録を作成するのと同様の経験もしていただきたいと思います。 クラスメイト同士で行うとはいえ、丁寧に触らないとお互い学び合うことはできないので、爪切りやアクセサリの管理を徹底してください。またお互い十分に学ぶために不快なく、動かしやすい格好をしてください。 小テストで理解を深めていただきますので復習しましょう。				
到達目標	・講義を通して筋肉の起始・停止を理解できるようにする。その中で3次的に筋肉がどのように走向しているかを学んでいく。				
授業形態	実習			対面	
関連科目	解剖学	検査測定法		PT技術論Ⅱ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション	人の体を触れることの大事さを理解させる
2回	骨盤の触察（１）	骨盤の触察ができるようになる
3回	骨盤の触察（２）	骨盤の触察ができるようになる
4回	腰方形筋の触察	腰方形筋の触察ができるようになる
5回	大殿筋・中殿筋の触察	大殿筋・中殿筋の触察ができるようになる
6回	梨状筋の触察	梨状筋の触察ができるようになる
7回	骨盤周囲筋の復習	骨盤に付着する筋の位置関係を確認できる。
8回	大腿筋膜張筋の触察	大腿筋膜張筋の触察ができるようになる
9回	大腿直筋の触察	大腿直筋の触察ができるようになる
10回	縫工筋の触察	縫工筋の触察ができるようになる
11回	半腱様筋・半膜様筋の触察	半腱様筋・半膜様筋の触察ができるようになる
12回	大腿二頭筋の触察	大腿二頭筋の触察ができるようになる
13回	前脛骨筋・長腓骨筋の触察	前脛骨筋・長腓骨筋の触察ができるようになる
14回	下腿三頭筋の触察	下腿三頭筋の触察ができるようになる
15回	総復習	ファイル作成確認

成績評価	実技・口頭試問85％ 授業中の実技小テスト15％
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックは全体に実施する。
使用教材教科書	運動療法のための 機能解剖学的触診技術 動画プラス 下肢
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		理学療法学科 昼間部			
科目	生理学Ⅰ	単位	1	コマ数	15
担当講師	黒澤 美枝子	学 年		1年生	
資格	理学療法士				

科目概要	「生理学」は「生きている身体の仕組み」を知る学問です。「生理学」では健常なヒトででの仕組みを学びます。「正常」から逸脱した状態が「病的な状態」であり、これから皆さんが学ぶ学問の基本になります。生理学Ⅰでは、人体の生理機能のうち、動物機能（神経系・筋・運動・感覚）について学んでいきます。		
学習の留意点	生理学Ⅰで学ぶ「神経系（神経系一般、運動、自律神経系、感覚）」は、生理学の他分野、例えば、消化器や泌尿器などと違いイメージしづらく、初めて生理学を学ぶ皆さんにとっては、理解が難しい内容も多く含まれると思います。しかし、国家試験で出題される頻度が高く、リハビリテーション効果の基礎ともいえる内容を含み、他の教科との関連も深い分野となります。そのため、生理学全体の講義の中で多くの時間をこの「神経系」にとり、一つ一つ丁寧に解説していきたいと思います。		
到達目標	①神経系機能の基礎を説明できる。 ②筋収縮の仕組みを説明できる。 ③運動（反射と随意運動）の仕組みを説明できる。 ④自律神経系の機能の特徴を説明できる。 ⑤感覚機能の仕組みと特徴を説明できる。		
授業形態	講義	遠隔	
関連科目	生理学Ⅱ・Ⅲ・実習, 解剖学Ⅲ・Ⅳ, 疾患別理学療法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ, 神経内科学, 内科老年学Ⅰ・Ⅱ, 検査測定法Ⅲ		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	総論（生理学の基礎）	身体の成り立ち、生体恒常性、細胞、物質代謝等、生命現象の概要を説明できる
2回	神経機能の基礎－膜電位	神経系の分類、ニューロンの機能（膜電位）を説明できる
3回	神経機能の基礎－興奮の発生と伝導	ニューロンの機能（活動電位の発生と伝導）を説明できる
4回	シナプス伝達、中枢神経機能	ニューロンの機能（シナプス伝達）を説明できる 主な中枢神経機能を説明できる
5回	筋収縮	骨格筋の構造と働き、筋の収縮の仕組み、筋のエネルギー供給の仕組みを説明できる
6回	運動単位	骨格筋の運動神経支配、運動単位を説明できる
7回	骨格筋の受容器と伸張反射	骨格筋の受容器と感覚神経、伸張反射を説明できる
8回	骨格筋の種々の反射性調節	屈曲反射、交叉性伸展反射など様々な反射とその仕組みを説明できる
9回	運動に関わる脳機能	運動の調節に関わる脳領域（脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質）とその機能を説明できる
10回	自律神経系支配の特徴	自律神経系による調節の特徴を説明できる
11回	自律神経系の中枢と反射	自律神経系の中枢と内臓反射を説明できる
12回	感覚一般の特徴、体性感覚	感覚の分類と一般的特徴、体性感覚の仕組みを説明できる
13回	視覚	視覚の仕組みを説明できる
14回	聴覚	聴覚の仕組みを説明できる
15回	総復習	これまで学習した重要ポイントを説明できる

成績評価	①リアクションペーパーの提出（不定期）10％ ②定期試験 90％
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックは講義時間内で全体に実施する。
使用教材教科書	生理学第3版 医歯薬出版 内田さえ・原田玲子ほか
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		理学療法学科 昼間部			
科目	生理学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	黒澤 美枝子	学 年		1年生	
資格	理学療法士				

科目概要	「生理学」は「生きている身体の仕組み」を知る学問です。「生理学」では健常なヒトででの仕組みを学びます。「正常」から逸脱した状態が「病的な状態」であり、生理学はこれから皆さんが学ぶ学問の基本になります。生理学Ⅱでは、人体の生理機能のうち、植物機能（血液・循環・生体の防御・呼吸・消化と吸収・栄養代謝・体温・排泄・内分泌）を学んでいきます。		
学習の留意点	生理学Ⅱでは血液、循環、生体の防御、呼吸、消化と吸収、栄養代謝、体温、排泄、内分泌など広く植物機能を学びます。そして、各機能の調節をする「神経系」（生理学Ⅰで講義）についても生理学Ⅱで再び勉強することになります。範囲が広い分1回の授業で学ぶ内容も多くなります。そのため、各分野において特に重要な点を中心に解説していきたいと思います。生理学Ⅰと生理学Ⅱで教科書1冊を学び終えます。		
到達目標	①循環・呼吸の機能を説明でき、血圧調節や呼吸調節の仕組みを説明できる。 ②生体の防御の仕組みを説明できる。 ③消化・吸収、栄養代謝の仕組みを説明できる。 ④体温調節の仕組みを説明できる。 ⑤排泄の仕組みを説明できる。 ⑥代表的なホルモンの生理機能、分泌調節を説明できる。		
授業形態	講義	遠隔	
関連科目	生理学Ⅱ・Ⅲ・実習,解剖学Ⅲ・Ⅳ,疾患別理学療法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ,神経内科学,内科老年学Ⅰ・Ⅱ,検査測定法Ⅲ		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	血液の機能	血液の組成と働き、血球の生成・分化、止血作用を説明できる
2回	生体の防御機能	白血球の機能、自然免疫、獲得免疫を説明できる
3回	心臓の機能	心臓の構造と機能を説明できる
4回	血管機能と動脈圧調節	血管機能、動脈圧の反射性調節を説明できる
5回	呼吸の機能（内呼吸）	ガスの交換と運搬を説明できる
6回	呼吸運動の調節と肺気量	呼吸運動とその調節の仕組み、肺気量を説明できる
7回	消化管の運動機能	胃・小腸・大腸の運動、排便の仕組みを説明できる
8回	消化液の機能、栄養素吸収	唾液・胃液・膵液・胆汁をその分泌調節、栄養素の吸収を説明できる
9回	栄養素の働きと代謝	栄養素の働きとその代謝を説明できる
10回	体温調節	産熱と放熱の仕組み、体温調節の仕組みを説明できる
11回	排泄機能	腎臓の尿生成機構、蓄尿と排尿の仕組みを説明できる
12回	ホルモンの分類と分泌の調節	ホルモンの分類、分泌刺激、分泌調節の仕組みを説明できる
13回	ホルモンの各論	視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモン、下垂体後葉ホルモンの種類とその作用、分泌調節を説明できる
14回	ホルモンの各論	甲状腺ホルモン、膵臓ホルモン、副腎髄質ホルモン、副腎皮質ホルモンの種類とその作用、分泌調節を説明できる
15回	総復習	これまで学習した重要ポイントを説明できる

成績評価	①リアクションペーパーの提出（不定期）10％ ②定期試験 90％
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックは講義時間内で全体に実施する。
使用教材教科書	生理学第3版 医歯薬出版 内田さえ・原田玲子ほか
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		理学療法学科 昼間部			
科目	生理学Ⅲ	単位	1	コマ数	15
担当講師	小平 健太郎	学 年		1年生	
資格	体育学修士、CSCS, NSCA-CPT				

科目概要	生理学の知識を基に運動時に体の各器官・器官系がどのように適応するのかを学びます。 そしてその適応を用いて、目的に応じた運動処方を作成するために必要な知識を座学・演習を通じて学習していく科目です。		
学習の留意点	少子高齢化の中で、健康長寿は今後ますます重要になる課題です。 運動が身体にもたらす好影響は単なる身体能力の向上だけでなく様々なことが挙げられていますが、適切なものでなくては逆効果にもなってしまうリスクも持っています。 生理学Ⅰ、Ⅱの内容をベースに運動時にみられる調節反応を説明していきますので、それぞれの科目についても復習しながら臨んでほしいと考えています。 これまでに自身が行ってきた、あるいは現在行っている運動では体内でどのようなことが起こっているのか、またさらなる改善点なども考えてみてもらえたらより身近に感じられるかなと思います。		
到達目標	”①筋収縮に伴うエネルギー代謝を説明できる、②運動に伴う呼吸循環系の適応を説明できる ③筋力発揮に影響を与える要因について説明できる、④運動刺激に応じた内分泌調節を説明できる ⑤環境が運動に与える影響を説明できる、⑥運動と発育発達、加齢老化について説明できる ⑦目的に応じた運動処方の概要を説明できる”		
授業形態	講義	対面	
関連科目	生理学Ⅰ・Ⅱ・実習, 解剖学Ⅲ, 運動生理学		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	運動処方の必要性、トレーニングの原理原則	適切な運動処方が必要な理由と、運動処方のために必要な要素・トレーニングの原理原則について説明できる
2回	エネルギー代謝	筋収縮メカニズムと無酸素的エネルギー供給系の概要について説明できる
3回	エネルギー代謝②	有酸素系エネルギー供給、無酸素性作業閾値とエネルギー供給系相互の関係について説明できる
4回	運動と筋力①	筋線維の組成と運動単位、筋力の規定要因について説明できる
5回	運動と筋力②	伸張反射など神経－筋の協調性について説明できる
6回	運動と呼吸循環系①	安静時と比較して呼吸循環系各指標の変化、適応のための調節について説明できる
7回	運動と呼吸循環系②	酸素摂取量、酸素借について説明できる
8回	運動と代謝、運動処方①	心拍数や血圧の変化から、運動時にかかっている負荷を計算できる。無酸素性作業閾値を挟んだ適応の違いを説明できる
9回	運動と代謝、運動処方②	運動時代謝についてRMR, METsを用いて実施できる。健康を保つために必要な運動強度、運動量を説明できる
10回	運動と内分泌①	運動強度、時間の変化に伴うホルモン分泌の変化を説明できる。
11回	運動と内分泌②	運動と糖代謝、糖代謝疾患に対する運動の有効性を説明できる
12回	運動と疲労、回復	筋疲労をもたらす要因について説明できる 回復を促進する要因について説明できる
13回	運動と加齢・老化、発育発達	加齢・老化、発育発達に伴う身体機能の変化について説明できる
14回	運動と環境	高地・暑熱環境への適応について説明できる
15回	運動と生活習慣病	サルコペニア、ロコモティブシンドローム、メタボリックシンドロームの要因と運動の効果について説明できる

成績評価	平常点評価（講義内小テスト、授業姿勢等）30点、期末試験70点の合計100点で評価を行い、60点以上を合格とする 授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックについては全体に対して行う
使用教材 教科書	勝田茂「入門運動生理学第4版」杏林書院
オフィスアワー	講義時間の休憩時間

		理学療法学科 昼間部			
科目	生理学実習	単位	1	コマ数	15
担当講師	渡辺 信博	学 年		1年生	
資格					

科目概要	生理学実習はグループ学習が基本となります。ヒトの生理機能の基本となる、血圧や心拍数、心電図、皮膚感覚、筋電図を自身の体で測定し、安静時や負荷（刺激）を与えた時の変化を調べます。生理機能の変化を体験することに加え、グループ内でデータを比較することで個体差についても学びます。測定機器の操作を習得し、実施した内容をレポートに文章や図でまとめることを通じて、生理学で学んだ内容の理解をより深めることが本実習の目的です。		
学習の留意点	実習に臨むにあたり、実習書をあらかじめ読み、各実習の目的や手順などを理解しておいてください。さらに生理学生理学の座学で学んだことに基づき、結果を予想しておいてください。もし予想した結果が得られなかった場合や失敗してしまった場合でも、その原因をよく考察することが重要です。 各実習で得た結果は各自がレポートにまとめ、必ず提出してください（〆切は実習の翌週の授業開始までです）。		
到達目標	人体の生理機能について理解を深める。		
授業形態	対面授業		
関連科目	〃生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 解剖学Ⅲ・実習, 神経内科学, 整形外科学Ⅰ・Ⅱ, 内科老年学Ⅰ・Ⅱ, 検査測定法Ⅲ, 疾患別理学療法Ⅱ・Ⅲ		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	実習の一般的解説	生理学実習における注意事項や実習の進め方について理解する。
2回	実習①～③の解説	実習①～③の目的や実施内容、方法を理解する。
3回	実習①：血圧と心拍数 1	血圧と心拍数を測定し、安静時及び体位変換の影響を理解する。
4回	実習①：血圧と心拍数 1	血圧と心拍数を測定し、安静時及び体位変換の影響を理解する。
5回	実習②：血圧と心拍数 2	血圧と心拍数を測定し、運動負荷と寒冷負荷の影響を理解する。
6回	実習②：血圧と心拍数 2	血圧と心拍数を測定し、運動負荷と寒冷負荷の影響を理解する。
7回	実習③：心電図	心電図を記録し、心電波形の意味を理解する。深呼吸や暗算が心拍数に及ぼす影響とそのしくみを考察する。
8回	実習③：心電図	心電図を記録し、心電波形の意味を理解する。深呼吸や暗算が心拍数に及ぼす影響とそのしくみを考察する。
9回	実習④、⑤の解説	実習④、⑤の目的や実施内容、方法を理解する。
10回	実習④の準備、実習④：皮膚感覚	実習④で使用する刺激毛を作製する。2点弁別閾を測定する。
11回	実習④：皮膚感覚	皮膚の感覚点を測定する。皮膚の部位による感覚点の分布の違いや皮膚冷却の影響を理解する。
12回	実習④：皮膚感覚	皮膚の感覚点を測定する。皮膚の部位による感覚点の分布の違いや皮膚冷却の影響を理解する。
13回	実習⑤：筋電図	等張性運動時や等尺性運動時の筋電図を測定し、屈筋と伸筋のはたらきを理解する。
14回	実習⑤：筋電図	等張性運動時や等尺性運動時の筋電図を測定し、屈筋と伸筋のはたらきを理解する。
15回	発表会	生理学実習で取り組んだ内容について、グループ毎に発表する

成績評価	実習レポートの内容（90％）と発表の取り組み（10％）により評価します。総合で6割以上の場合に単位取得を認めます。なお、授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えることはできません。
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックは講義時間内におこないます。
使用教材 教科書	生理学実習NAVI 第3版 医歯薬出版株式会社 大橋敦子 生理学 第3版 医歯薬出版株式会社 内田さえ・原田玲子ほか
オフィスアワー	授業前後および休み時間

		理学療法学科 昼間部			
科目	運動学Ⅰ	単位	1	コマ数	15
担当講師	臼杵	学 年		1年生	
資格	理学療法士				

科目概要	運動学Ⅰは、理学療法士を目指す上で基礎となる人体の構造と機能（特に上肢・体幹）を学びます。骨・関節・筋の構造と役割、運動のメカニズムを理解し、正常運動の観察・分析の基礎を習得することを目的とします。				
学習の留意点	授業で学んだ知識を、日常生活の動作やスポーツの場面と結びつけ、運動学を「使える知識」として定着させましょう。演習では、遠慮せずに積極的に取り組み、正確な技術を習得しましょう。グループ学習や教え合いも活用し、理解を深めてください。				
到達目標	学生が講義と演習を通じて、人体の構造と運動の基礎を理解し、触診・観察・分析の基本スキルを習得できることを目指します。知識の暗記だけでなく、臨床場面を想定した応用力、問題解決能力を養うことを重視した目標を設定します。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	機能解剖学	運動療法学		運動学Ⅱ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	身体各部の名称、骨の名称	身体各部の名称、骨の名称を説明できる
2回	身体運動の面と軸、運動法則、身体とてこ	身体運動の面と軸、運動法則、身体とところを説明できる
3回	関節の種類と運動軸、筋収縮の種類	関節の種類と運動軸、筋収縮の種類を説明できる
4回	上肢帯の構造と種類、運動	上肢帯の構造と種類、運動を説明できる
5回	上肢帯の筋と作用	上肢帯の筋と作用を説明できる
6回	肩関節の構造と種類、運動	肩関節の構造と種類、運動を説明できる
7回	肩関節の筋と作用	肩関節の筋と作用を説明できる
8回	肘関節の構造と種類、肘関節と前腕の運動	肘関節の構造と種類、肘関節と前腕の運動を説明できる
9回	肘関節・前腕の筋と作用	肘関節・前腕の筋と作用を説明できる
10回	手関節および手の関節の構造と種類、手関節と手の運動	手関節および手の関節の構造と種類、手関節と手の運動を説明できる
11回	腱鞘、指の運動と指背腱膜、手関節の筋と作用	腱鞘、指の運動と指背腱膜、手関節の筋と作用を説明できる
12回	手の筋と作用、手のアーチ、手の把持動作、手の変形	手の筋と作用、手のアーチ、手の把持動作、手の変形を説明できる
13回	椎骨の構造、椎骨の運動、椎間円盤、頸椎の運動と筋の作用	椎骨の構造、椎骨の運動、椎間円盤、頸椎の運動と筋の作用を説明できる
14回	胸郭の構造、呼吸運動と筋の作用	胸郭の構造、呼吸運動と筋の作用を説明できる
15回	腰椎の構造、腰椎の運動と筋の作用	腰椎の構造、腰椎の運動と筋の作用を説明できる

成績評価	定期試験100%
課題やレポートに関するフィードバック	適宜、個人及び全体に実施。
使用教材 教科書	PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 運動学 第2版 担当教員が作成した配布プリントを使用 毎回、リフレクションシートを使用 随時、ワークシートなどを配布
オフィスアワー	研修日（木曜日） メールでの連絡は随時（h-usuki@nichireha.ac.jp）

		理学療法学科 昼間部			
科目	運動学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	臼杵	学 年		1年生	
資格	理学療法士				

科目概要	運動学Ⅱは、運動学Ⅰに続き、理学療法士の基礎となる人体の構造と機能（特に骨盤・下肢）を学びます。さらに、姿勢や正常歩行の観察・分析の基礎を習得します。講義と実技を通じ、正常な運動を理解し、異常を見抜く基礎を築きます。				
学習の留意点	授業で学んだ知識を、日常生活の動作やスポーツの場面と結びつけ、運動学を「使える知識」として定着させましょう。演習では、遠慮せずに積極的に取り組み、正確な技術を習得しましょう。グループ学習や教え合いも活用し、理解を深めてください。				
到達目標	学生が講義と演習を通じて、人体の構造と運動の基礎を理解し、触診・観察・分析の基本スキルを習得できることを目指します。知識の暗記だけでなく、臨床場面を想定した応用力、問題解決能力を養うことを重視した目標を設定します。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	機能解剖学	運動療法学		運動学Ⅱ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	骨盤と股関節の構造と種類、靱帯と作用	骨盤と股関節の構造と種類、靱帯と作用を説明できる
2回	股関節の運動と筋の作用	股関節の運動と筋の作用を説明できる
3回	股関節の安定性、片脚立位時の股関節の力学的特性	股関節の安定性、片脚立位時の股関節の力学的特性を説明できる
4回	膝関節の構想と種類、靱帯と作用、半月の作用、膝蓋骨の作用	膝関節の構想と種類、靱帯と作用、半月の作用、膝蓋骨の作用を説明できる
5回	膝関節運動と筋の作用	膝関節運動と筋の作用を説明できる
6回	足関節および足の関節の構造と種類、足関節と足の運動	足関節および足の関節の構造と種類、足関節と足の運動を説明できる
7回	足関節の筋と作用	足関節の筋と作用を説明できる
8回	足のアーチと機能、足の変形	足のアーチと機能、足の変形を説明できる
9回	姿勢の種類、名称、姿勢の安定条件、身体重心、重心線	姿勢の種類、名称、姿勢の安定条件、身体重心、重心線を説明できる
10回	立位時の筋活動、姿勢制御、反射・反応、戦略	立位時の筋活動、姿勢制御、反射・反応、戦略を説明できる
11回	歩行周期、従来の用語・新しい用語	歩行周期、従来の用語・新しい用語を説明できる
12回	歩行のメカニズム、身体の動き	歩行のメカニズム、身体の動きを説明できる
13回	歩行時の筋活動、ロッカーファンクション	歩行時の筋活動、ロッカーファンクションを説明できる
14回	異常歩行、歩行分析、歩行まとめ	異常歩行、歩行分析、歩行まとめを説明できる
15回	復習	（復習）講義全体の復習ができる

成績評価	定期試験100%
課題やレポートに関するフィードバック	適宜、個人及び全体に実施。
使用教材 教科書	PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 運動学 第2版 観察による歩行分析 担当教員が作成した配布プリントを使用 毎回、リフレクションシートを使用、随時、ワークシートなどを配布
オフィスアワー	研修日（木曜日） メールでの連絡は随時（h-usuki@nichireha.ac.jp）

		理学療法学科 昼間部			
科目	人間発達学	単位	1	コマ数	15
担当講師	黒木光	学 年		1年生	
資格					

科目概要	ヒトの一生涯における発達を、身体的・精神的・社会的な視点からその特徴を説明し、自身や他人の思考や行動を通して理解を深める。幅広い世代で医療を実践するために、各年代での機能の特徴を理解し、行動を実践するためのプロフェッショナルな視点について教授する。				
学習の留意点	この講義を最大限に活かすために、皆さんには、以下の点を意識し工夫していただきたいと思います。まず、講義へ積極的に参加することで、学びを深める第一歩を踏み出しましょう。質問や意見交換を通して理解を深めると共に、講義内容を自分の経験や周囲の事例と関連付け、現実世界とのつながりを見出すことで、より深い理解が得られます。講義内容をノートにまとめたり、参考文献を読んだりするなど、能動的な学習も心がけましょう。また、様々な発達段階や背景を持つ人々への理解を深め、多様性を尊重する視点を持つことも重要です。そして、わからないことはそのままにせず、積極的に質問し、疑問点を解消するように努めましょう。これらの点を意識することで、講義内容の理解が深まり、人間発達学の知識をより効果的に活用できるようになるでしょう。				
到達目標	①乳幼児期から老年期までの各発達段階における身体的、心理的、社会的特徴を説明できる。 ②主要な発達理論（例：ピアジェ、エリクソン）を理解し、具体的な事例に適用して、説明できる。 ③遺伝、環境、文化など、発達に影響を与える様々な要因を分析し、説明できる。 ④乳児の運動発達を身体運動、描画を通じて、説明できる。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	運動学	解剖学		生理学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	発達の概念	①発達期の区分を説明できる ②発育の個性を説明できる ③発達の原則を説明できる
2回	発達理論	①発達理論（エリクソン、ピアジェ、フロイト、その他）を説明できる。
3回	胎児・新生児期	①胎児・新生児の感覚や運動の発現時期を説明できる。 ②胎児の特徴を調べ、説明できる ③新生児の特徴を調べ、説明できる。
4回	乳児期	①原始反射の特徴・姿勢反応を調べ、説明できる。 ②歩くまでの運動発達を説明できる ③言語、社会性の発達を説明できる
5回	幼児期	①発達表を元に粗大運動、巧緻性運動を理解し、説明できる。 ②発達理論を元に行動特性を説明できる。
6回	原始反射／平衡反応、幼児期までのまとめ	①原始反射の特徴・姿勢反応を調べ、説明できる。 ②胎児期～幼児期までの内容を復習し、再学習する。
7回	運動発達	①3か月までの乳児の運動発達を描画し、運動の特徴を説明できる
8回	運動発達	①6か月までの乳児の運動発達を描画し、運動の特徴を説明できる
9回	運動発達	①12か月までの乳児の運動発達を描画し、運動の特徴を説明できる
10回	学童期の発達	①学童期の社会性の発達について説明できる。
11回	青年期の発達	①第二性徴について、説明できる。 ②脳の発達と行動について、説明できる。
12回	成人期の発達	①生活の変化、ストレス、疾患を理解し、説明できる。 ②社会における役割の変化について、説明できる。
13回	老年期の発達	①老化について、説明できる。 ②認知能力の特徴について、理解し、説明できる。
14回	学童期～老年期のまとめ	①学童期から老年期までの内容を復習し、説明できる。
15回	総復習	すべての発達期の内容を振り返り、説明できる。

成績評価	定期試験で6割以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	授業時に復習機会を設けてフィードバックする
使用教材 教科書	イラストでわかる人間発達学 リハのための人間発達学 第3版
オフィスアワー	毎週月曜日17時～18時

		理学療法学科 昼間部			
科目	リハビリテーション医学概論Ⅰ	単位	2	コマ数	15
担当講師	草野 修輔	学 年		1年生	
資格	リハビリテーション専門医				

科目概要	この授業では、リハビリテーション概論に関する基本的知識を習得する。 各種社会的福祉制度、各種障害、補装具、リハビリテーション関連用語などについて理解する	
学習の留意点	各講義に即したミニテストを理解度の確認とする	
到達目標	リハビリテーションに関連する基本的概念、制度、障害評価、治療法などについて理解する	
授業形態	講義	対面
関連科目		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	リハビリテーションの概念・理念・定義	リハビリテーションの概念、歴史的変遷、理念、定義を理解する
2回	障害分類とリハビリテーションの種類	障害分類とリハビリテーションの種類について理解する
3回	リハビリテーション関連職種	リハビリテーション関連職種について理解する
4回	リハビリテーション関連用語	リハビリテーション関連用語について理解する
5回	ADL・IADL・QOL	ADL・IADL・QOLの概念と評価法について理解する
6回	物理療法	各種物理療法について理解する
7回	補装具・義肢装具・自助具	補装具・義肢装具・自助具について理解する
8回	急性期リハ・回復期リハ・生活期リハ	急性期リハ・回復期リハ・生活期リハについて理解する
9回	障害者総合支援法・地域包括ケアシステム・在宅医療	障害者総合支援法・地域包括ケアシステム・在宅医療について理解する
10回	社会福祉制度・介護保険	各種社会福祉制度・介護保険制度について理解する
11回	緩和医療・終末期医療	緩和医療・終末期医療について理解する
12回	運動障害・感覚障害・高次脳機能障害	運動障害・感覚障害・高次脳機能障害について理解する
13回	代表的疾患のリハビリテーション	代表的疾患のリハビリテーションについて理解する
14回	健康寿命の延伸	健康寿命の延伸について理解する
15回	総まとめ	総まとめ

成績評価	定期試験：筆記試験50%＋レポート課題50%
課題やレポートに関するフィードバック	毎回講義内容に則したミニテストを行うことで理解度をチェックする。また復習の確認にも用いよう。
使用教材教科書	なし 参考書：医学生・コメディあるのための手引き書 リハビリテーション概論 田島文博 編著
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		理学療法学科 昼間部			
科目	理学療法概論	単位	1	コマ数	15
担当講師	高林礼子	学 年		1年生	
資格					

科目概要	この授業では理学療法業務、理学療法士の役割を理解し、説明できるようになることを目的とする。医療・福祉分野における理学療法業務を実施するために、様々な業務の特徴を理解すること、プロフェッショナルの視点を持つための基礎を築くことが求められる。				
学習の留意点	理学療法とは、理学療法士とは、その職業や欠かせないことなどを学ぶので、しっかり自分の将来を学べるように講義を形成していく。				
到達目標	理学療法業務、理学療法士の役割について理解し、説明することができる。理学療法士の倫理観、行動規範について理解し、説明することができる。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	リハビリテーション医学概論				

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	理学療法の概念と歴史について学ぶ	理学療法とは何かを認識し、その歴史について理解する。
2回	理学療法士に取り巻く現状について学ぶ	理学療法士に関する法律について学ぶ。
3回	理学療法士の関連法規	理学療法や理学療法士とは何か、法律で決められている。それについて学ぶ。
4回	理学療法の対象と方法について	理学療法士はどのような方を対象に理学療法を行うのか。またどのようにして治療していくのかについて学ぶ。
5回	理学療法の免許と業務	理学療法士の免許と業務について講義する
6回	理学療法の業務-2	理学療法士の業務について、さらに詳しく述べていく。
7回	理学療法における診療報酬	理学療法の診療報酬を知ることで、医療にける理学療法の位置、重さが図られる。
8回	医療事故	患者に対して絶対医療事故をおこ押してはならない。どのような事故がどのような原因で起こるのかについて学ぶ。
9回	各障害の理解（調べる）	身体障害者、知的障害者、精神障害者について、グループに分かれてP Cや本を使って調べる。
10回	各障害の理解（まとめる）	調べたものを、P o w e r P o i n t にて発表するべくまとめる。
11回	各障害の理解（発表）	まとめたものを各グループごとに発表する。
12回	地域リハビリテーションと理学療法	理学療法士の働く現場は病院や施設だけではない。自宅に行って理学療法を行う機会も多い。理学療法士として地域にどのように貢献していくかについて学ぶ。
13回	個人情報の管理と対象者の権利	理学療法士は治療をさせていただく場面で、患者のプライバシーやいろんな情報を知ることとなるので、それをいかに守るか、について学ぶ。
14回	見学実習に向けて準備すること一心構え	実習に向けて、何を見るべきか。実習においてどのような心構えて臨むべきかについて学ぶ。
15回	見学実習に向けて準備することーコミュニケーション力	実習において、指導者や、スタッフ、患者などコミュニケーションをとらねばならないが増える。失礼のないようにどのようにコミュニケーションをとるかについて学ぶ。

成績評価	毎回、A4用紙1枚程度のレポートを書いてもらいます。それが3割。試験が7割。合わせて6割以上の点数となったものを合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	毎回、A4用紙1枚程度のレポートの内容をチェックし、返却する。
使用教材 教科書	教科書：理学療法学テキストⅠ 理学療法概論第4版 監修 千住秀明 神陵文庫 使用教材：P T入門イラストでわかる理学療法概論 監修 上杉雅之 医歯薬出版株式会
オフィスアワー	メールでの連絡は随時r-takabayashi@nichireha.ac.jp 担当授業の前後

		理学療法学科 昼間部			
科目	P B Lセミナー I	単位	1	コマ数	15
担当講師	塚本奈々子、高林礼子、他	学 年		1年生	
資格	理学療法士				

科目概要	1年次に学んだ解剖学・生理学・評価の知識を、患者の評価や治療にどのように活用するかを、症例検討を通じて学ぶ。 自己学習やグループワーク、他学年との交流を通じて、主体的に問題を発見し、解決に向けて自律的に行動できる力を養う。				
学習の留意点	この授業では、自己学習に加え、学生同士のグループワークを通じて協力しながら問題を乗り越え、共通の目標に向かって取り組むことを学びます。医療者としての心身を鍛え、グループに対する責任感と奉仕の精神を身につけることも重要です。これにより、将来、医療の専門職として社会に貢献するために必要な専門職連携の基盤を育成します。 また、グループでの実技や他学年との交流を経験することで、チームとして明確な目標を持ち、チーム内でのコミュニケーションを大切にしながら、チームワークの重要性を学びます。 ＊他学年との日程調整や教員配置人数により、授業内容は多少前後することがあります。				
到達目標	・グループにおける自分の役割を自覚し、主体的に行動できる。 ・自ら疑問をもち、解決に向けてグループメンバー同士協力して活動できる。				
授業形態	演習、実技			対面	
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション	PBLのルールや課題内容について理解、実施できる
2回	リスク管理	リスク管理について実施できる
3回	課題：バイタルサイン①	バイタルサインについて基準値やメカニズムなどの基礎知識を理解、説明できる
4回	課題：バイタルサイン②	疾患とバイタルサインの異常値との関連を理解、説明できる
5回	実技練習（1年実技復習）	整形疾患に関わる、かつ1年時に実施したROM-TやMMTなど評価を復習、実施できる
6回	他学年合同授業（課題・実技発表）	学んだ知識や実技を他学年にわかりやすく伝えられる
7回	課題：血液データの読み解き方	血液データについて疾患と異常値の関連や理学療法時の注意点を考えられるようになる
8回	講義、課題：画像の読み解き方	理学療法に必要な主要画像について、種類や異常所見を説明できるようになる
9回	症例検討；整形疾患基礎知識の復習-個人-	個人で模擬カルテのわからない部分を調べ、学習できる
10回	症例検討；整形疾患基礎知識の復習-グループワーク-	グループで円滑に調べた内容を共有できる
11回	症例検討；整形疾患口頭試問	9.10回で学んだ内容について、口頭試問に答えられる
12回	症例検討；整形疾患課題	9-11回を踏まえ、模擬症例の課題について考えることができる
13回	症例検討；整形疾患課題、発表の準備	課題について、グループで討論できる
14回	症例検討；整形疾患課題発表	発表で、グループの意見をわかりやすく伝えられる
15回	症例検討；整形疾患シナリオ解説、PBLふりかえり	解説から課題の疑問点を解決できる、課題を通して成長できたところをふりかえる

成績評価	課題や合同授業・発表への参加で成績をつけます。 合計100点満点で、60点以上を合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	全体に実施する
使用教材 教科書	配布資料、評価の授業で使用した教科書や資料 （オリエンテーションや事前メールでお伝えします） パソコン
オフィスアワー	基本的に授業前後に声をかけてください。それ以外は以下のメールアドレスまでお願いします。 n-tsukamoto@nichireha.ac.jp r-takabayashi@nichireha.ac.jp

		理学療法学科 昼間部			
科目	理学療法セミナーⅠ	単位	2	コマ数	30
担当講師	佐藤和世 保坂裕子	学 年		1年生	
資格	理学療法士				

科目概要	専門領域の学習の導入として、学習方法を学んだ上で、解剖学・運動学・生理学を含めた基礎科目についてグループワークを中心に復習し、理解を深めていきます。				
学習の留意点	学習を進める上では、講義、発表、討論など、あらゆる活動に積極的に参加し、主体的に学習を進めることが重要です。受け身の姿勢ではなく、自ら考え、発言し、行動して欲しいと思います。課題作成、発表準備など、事前に必要な準備を行い、質の高い成果物を提出するようにしましょう。準備不足は、学習効果を低下させます。				
到達目標	①効率的なグループワークの実施方法について説明できる。 ②各授業で学習した内容について概要を説明できる。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	PBLⅠ				

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション	授業の目的と実施内容について説明できる
2回	学習法	臨床理学療法に必要な知識を説明できる
3回	学習法	メモとノートの取り方について説明できる
4回	学習法	KJ法 プレインストーミングについて説明できる
5回	学習法	PDCAサイクルについて説明できる
6回	学習法	レポートの書き方について説明できる
7回	学習法	グループワークの実施方法を説明できる
8回	神経系一般	ニューロンの機能について説明できる
9回	運動	骨格筋の神経支配、運動単位について説明できる
10回	自律神経系	自律神経系について説明できる
11回	血液と循環	心血管系、血液循環について説明できる
12回	呼吸	ガス交換、呼吸運動について説明できる
13回	消化と吸収	消化管の運動、消化液の分泌について説明できる
14回	栄養と代謝	栄養素の働きと代謝について説明できる
15回	総復習	前回までの内容について復習できる
16回	内分泌	各ホルモンの分類と特徴について説明できる
17回	内分泌	各ホルモンの働きについて説明できる
18回	骨格筋の作用、神経支配	骨格筋の作用と神経支配について説明できる
19回	関節運動と筋活動	関節の種類と運動軸、筋収縮の種類について説明できる
20回	上肢帯	上肢帯の構造と運動について説明できる
21回	肩関節	肩関節の構造、筋の作用について説明できる
22回	肘関節	肘関節の構造、筋の作用について説明できる
23回	手関節	手関節の構造、筋の作用について説明できる
24回	脊椎 骨盤	脊椎・骨盤の構造、筋の作用について説明できる
25回	股関節	股関節の構造、筋の作用について説明できる
26回	膝関節	膝関節の構造、筋の作用について説明できる
27回	足関節	足関節の構造、筋の作用について説明できる
28回	歩行	歩行周期について説明できる
29回	歩行	歩行のメカニズム、筋活動について説明できる
30回	総復習	前回までの内容について復習できる

成績評価	試験 8 割、提出物 2 割
課題やレポートに関するフィードバック	全体もしくは個別にフィードバックします
使用教材 教科書	配布資料
オフィスアワー	授業前後またはメール 佐藤：k-sato@nichireha.ac.jp 保坂：y-hosaka@nichireha.ac.jp

		理学療法学科 昼間部			
科目	検査測定法Ⅰ	単位	1	コマ数	30
担当講師	木下修、塩澤和人	学 年		1年生	
資格	木下：義肢装具士43年、理学療法士33年 塩澤：理学療法士19年				

科目概要	理学療法における評価の意義、目的、過程、情報収集等の総論、バイタルサイン、形態測定、知覚検査を学習する。				
学習の留意点	理学療法の評価の意義、目的等を講義、演習等を通じて理解してもらう。ICFでは症例を通じて評価してもらう。バイタルサイン、形態測定、知覚検査は実技を通して修得してもらう。記録については実際の評価表に記入する。				
到達目標	①評価の意義、目的、過程を説明できる。 ②バイタル測定、形態測定、知覚検査ができる。 ③検査結果を記録し、解釈できる。				
授業形態	実習			対面	
関連科目	解剖学	運動学		検査測定法Ⅱ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	評価学総論①	評価の意義、目的、過程等を説明できる。
2回	評価学総論②	ICIDHとICFの違いを説明できる。ICFを作成できる。
3回	評価学総論③	一般的評価事項と情報収集を理解できる。
4回	評価学総論④	評価の手順、記録、検査尺度を説明できる。
5回	バイタルサイン①	バイタルサインを説明できる。意識障害を評価できる。脈拍を測定できる。
6回	バイタルサイン②	血圧を測定できる。高血圧の基準を説明できる。
7回	バイタルサイン③	呼吸、経皮的酸素飽和濃度を説明できる。
8回	バイタルサイン④	体温、リスク管理を説明できる。
9回	形態測定①	四肢長および肢節長の測定できる。
10回	形態測定②	四肢周径の測定ができる。
11回	形態測定③	形態測定の総復習として、誤差なく測定できる。
12回	感覚検査①	知覚の分類、検査手順、知覚の伝導路を説明できる。表在感覚を検査できる。
13回	感覚検査②	表在感覚、深部感覚を検査できる。
14回	感覚検査③	深部感覚、複合感覚を検査できる。
15回	総復習	脈拍、血圧、形態測定、知覚検査が正確に測定できる。

成績評価	筆記試験100%
課題やレポートに関するフィードバック	全体へのフィードバックとともに、必要に応じて個別にも行う。
使用教材 教科書	理学療法評価学 第6版補訂版
オフィスアワー	担当授業の前後およびメール o-kinoshita@nichireha.ac.jp k-shiozawa@nichireha.ac.jp

		理学療法学科 昼間部			
科目	検査測定法Ⅱ【MMT・ROM】	単位	2	コマ数	23
担当講師	高橋 豊 保坂 裕子	学 年		1年生	
資格	理学療法士				

科目概要	検査測定・評価の意義と方法を理解することを目的とし、対象者に対して適切な評価を行えるよう学習する。 理学療法評価の中でも行う頻度の高い関節可動域測定について学ぶ。 理学療法評価の中でも行う頻度の高い徒手筋力検査法について学ぶ。				
学習の留意点	①理学療法の臨床における評価について学ぶ。 ②検査に必要な、基礎的な解剖学・運動学用語を学ぶ。 ③教員の実演と教科書を確認することで、検査方法を理解する。 ④患者様をイメージしながら、学生同士で正しく検査・模倣を行う。 ⑤安全で効率的に検査を実施する。				
到達目標	①関節可動域測定の意義・目的・方法を理解し、実技・記録ができる。 ②徒手筋力検査法の意義・目的・方法を理解し、実技・記録ができる。 ③患者様をイメージしながら、学生同士で正しく検査・模倣を行い、安全で効率的に検査を実施する。				
授業形態	実習		対面		
関連科目	解剖学	運動学		生理学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	関節可動域測定概要	関節可動域検査の定義・意義・目的が理解できる
2回	上肢関節可動域検査	肩甲帯・肩関節の関節可動域が測定できる
3回	上肢関節可動域検査	肘関節の関節可動域が測定できる
4回	上肢関節可動域検査	手関節の関節可動域が測定できる
5回	復習	上肢の関節可動域検査の復習
6回	下肢関節可動域検査	股関節の関節可動域が測定できる
7回	下肢関節可動域検査	膝関節の関節可動域が測定できる
8回	下肢関節可動域検査	足関節・足部の関節可動域が測定できる
9回	復習	下肢の関節可動域検査の復習
10回	体幹関節可動域検査	頸部・胸腰部の関節可動域が測定できる
11回	その他の関節可動域検査	顎関節・指関節などの関節可動域が測定できる
12回	関節の変形	関節の変形について理解できる
13回	徒手筋力検査概要	徒手筋力検査法の定義・意義・目的が理解できる
14回	上肢筋力検査	肩甲帯・肩関節の筋力が測定できる
15回	上肢筋力検査	肩関節の筋力が測定できる
16回	上肢筋力検査	肘関節の筋力が測定できる
17回	上肢筋力検査	手関節・手指の筋力が測定できる
18回	下肢筋力検査	股関節の筋力が測定できる
19回	下肢筋力検査	膝関節の筋力が測定できる
20回	下肢筋力検査	足関節・足趾の筋力が測定できる
21回	頭部・頸部・体幹の筋力検査	頭部・頸部・体幹の筋力が測定できる
22回	脳神経支配筋筋力検査	脳神経支配筋の筋力が理解できる
23回	総復習	関節可動域・徒手筋力検査が実施できる

成績評価	筆記60％ 実技30％ 小テスト10%
課題やレポートに関するフィードバック	実技演習に関しては、机間巡回中に行う。またリフレクションシートには、質問欄を設けているので、その記載に合わせてフィードバックを行う。疑問・質問に関しては、メールで随時対応、時間外にも対応する。
使用教材 教科書	理学療法評価学 第6版補訂版 新・徒手筋力検査法 原著第10版 担当教員が作成した配布プリントを使用
オフィスアワー	高橋：授業前後及びメール（y-takahashi@nichireha.ac.jp） 保坂：授業前後及びメール（y-hosaka@nichireha.ac.jp）

		理学療法学科 昼間部			
科目	運動療法学 I	単位	1	コマ数	15
担当講師	吉葉則和	学 年		1年生	
資格	理学療法士免許				

科目概要	理学療法の中で主となる運動療法を安全かつ効果的に実施できるよう各治療の方法、頻度、期間、リスク管理を学ぶ。				
学習の留意点	理学療法にとって運動療法は代表となるアプローチである。機能障害に対する運動療法や能力障害に対する運動療法など、クライアントに適した運動療法を処方できることが、我々の役目である。そこで、骨格筋系、神経系、感覚器系、併せて器官の働きを理解し、原因となる障害を改善に導くためターゲットに合わせた運動療法を提供することを目指す。				
到達目標	①四肢、並びに頭部体幹の関節運動機能を理解する。 ②関節可動域や筋力強化などの基本的な運動療法を理解する。 ③リスク管理や禁忌事項等の理解する。				
授業形態	実習			対面	
関連科目	解剖学	運動学		生理学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	運動療法の概念	理学療法に含まれる運動療法についての背景を理解する
2回	運動とトレーニング	疾患に対するもの、健康維持に対するものの違いを理解する
3回	運動療法の効果 バイタルについて	各器官にどのような効果をもたらすのかを理解する
4回	リスク管理 疼痛・骨折・脱臼肢位	処方するにあたりリスク管理の必要性を理解する
5回	リスク管理 JCS・急性期・回復期・生活期	意識レベルの理解と時期によるリスクを理解する
6回	運動療法の目的 ポジショニングと体位変換	早期離床の必要性を理解する
7回	関節について	関節構造を理解し正しい固定と運動の関係を理解する
8回	拘縮と強直 骨と筋の関係	拘縮と強直の判断と運動療法の効果について理解する
9回	筋収縮のメカニズム	生理学的に収縮のメカニズムを知ることにより疾患別で起こりうる筋収縮の特徴を理解する
10回	α - ガンマ連関 自原抑制	生理学的に収縮のメカニズムを知ることにより疾患別で起こりうる筋収縮の特徴を理解する
11回	エネルギー代謝	生命維持に必要な代謝について理解する
12回	関節可動域訓練	凹凸の法則の理解 LPP・CPPの理解をする
13回	運動負荷について	運動負荷について収縮様式と頻度、回数、時期を理解する
14回	関節運動まとめ	総合的に四肢の運動を理解する
15回	痛みと伝導路のまとめ	感覚伝導路の理解をする

成績評価	筆記試験を実施し、その他演習等を総合して判断いたします。
課題やレポートに関するフィードバック	後日提示
使用教材教科書	配布資料と運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版
オフィスアワー	後日提示

		理学療法学科 昼間部			
科目	運動療法学Ⅱ	単位	6	コマ数	15
担当講師	内山 結城	学 年		1年生	
資格	内山：実務経験18年。IPNFA(国際PNF協会)認定セラピスト。 病院施設スポーツ整形クリニック等での経験後、現在はスポーツトレーナーとしても選手のケアや技術向上に携わっている。				

科目概要	運動療法は理学療法の主たる武器である。その武器を用いるためには解剖・生理・運動学などを統合し、リスク禁忌を学んでいく必要がある。実技を実際行うことで、相手に対する行動として、理学療法士のたしなみや配慮の必要性を学習する。この授業を通して患者に対してアプローチするための理学療法技術を身につける。 本授業は「講義」、「実技」、「グループ（ペア）ワーク」で構成される。				
学習の留意点	PTは自らの手の感覚をも使い武器である運動療法を使用し、、クライアントと対峙していきます。その武器の使用上の注意や、正しい使い方、武器の特性、禁忌などを知らないと適切に安全にその武器を使用することはできません。 この授業では上記の事項を講義で学びながら、その武器である運動療法の種類や方法を実技で学んでいきます。				
到達目標	各病態を理解し基本的な運動療法を学習する。 ①運動療法の意義・目的を説明できる。 ②必要に応じた運動療法を選択することができる ③各病態を理解し基本的な運動療法を実施することができる。=授業設計シート!D33				
授業形態	講義		対面		
関連科目	解剖学	生理学		運動学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	運動療法の総論	運動療法の種類と効果を説明できる
2回	コンディショニング講義	コンディショニングとデコンディショニングについて説明できる
3回	コンディショニング実技	呼吸誘導、ストレッチの種類を説明し、実施できる
4回	関節可動域訓練 講義	副運動と関節遊びおよび法則を説明できる
5回	関節可動域訓練 実技	副運動および関節遊びの促通を実施できる
6回	筋力増強・筋持久力訓練 講義	筋収縮の種類、1RM, 10RM、運動強度の説明ができる
7回	筋力増強訓練 実技	RMの測定、筋力増強と強化を実施できる
8回	全身持久力 講義	好気呼吸、嫌気呼吸、AT、運動強度の説明ができる
9回	感覚訓練 講義	感覚の区分と運動との関係について説明できる
10回	感覚訓練 実技	表在感覚と固有受容器の促通を実施できる
11回	協調性障害 講義	協調性障害疾患の代表例とその特徴を説明できる
12回	協調性障害 実技	協調性障害の特徴をふまえモビリティーとスタビリティーの促通が実施できる
13回	バランス 講義	随意運動と姿勢制御の関係性について説明ができる
14回	バランス 実技	安定性限界の改善を実施できる
15回	まとめ	講義、実技の復習と補足

成績評価	筆記試験50％ 小テスト30％ グループ（ペア）ワーク10％ 欠席要件：学則および実技授業の規定に反しているものは党授業には参加できない 欠格要件：授業時間1/3以上の結石者には単位を与えない
課題やレポートに関するフィードバック	授業序盤あるいは終盤に小テストを行う。
使用教材教科書	担当教員が作成した配布プリントを使用、随時、評価記録用紙などを配布
オフィスアワー	基本火曜日15：30～17：00 ※木曜日以外のスケジュールが空いている時間は対応いたします

		理学療法学科 昼間部			
科目	日常生活活動学Ⅰ	単位	1	コマ数	15
担当講師	鍋城 武志	学 年		1年生	
資格	理学療法士免許				

科目概要	日常生活動作（以下ADL）の知識と技術の基礎を学習する。この教科の基本概念となる生活の質（QOL）について理解し、関連した知識を学び、寝返りや歩行・炊事や買い物のような日常生活を医療的視点から見つめ直す。日常生活を論理的・現実的に分類するために国際生活機能分類（ICF）を学ぶ。日常生活の変化を評価し理学療法に反映させるためのツールとしてバーセルインデックス（BI）・機能的自立度評価表（FIM）を学ぶ。				
学習の留意点	普段行われている基本動作、日常生活を項目ごとに分類し評価ができるよう学習します。グループワークを実施し内容をまとめますので積極的に授業に参加してください。 介助方法などの実技の際は動きやすい服装を準備し、患者役、セラピスト役双方に怪我のないよう注意をしながら実施し、方法を獲得するまで繰り返し行ってください。				
到達目標	○リハビリテーションにおけるADLの関わりを理解している ○ICFの分類とBI・FIMの採点を行える ○車椅子駆動・杖歩行や介護に関して相手に説明しながら行える				
授業形態	講義		対面		
関連科目	リハビリテーション医学概論	理学療法概論		運動学Ⅰ・Ⅱ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	ADLと概念	ADLの位置づけ、概念、分類を説明できる
2回	ADLと概念	QOLと構造を説明できる
3回	障がいの定義と分類	障がいの定義、ICIDH・ICFについて説明できる
4回	障がいの定義と分類	ICFの分類法を説明できる
5回	ADL評価	ADL評価の目的、役割を説明できる
6回	ADL評価	Barthel Indexの特徴・配点を理解できる
7回	ADL評価	FIMの特徴・判定基準を理解できる
8回	ADL評価	FIMの特徴・判定基準を理解できる
9回	ADL評価	その他の評価法、評価の実際を理解できる
10回	歩行補助具	歩行補助具の分類と使用方法、杖歩行の指導を理解できる
11回	車椅子	車椅子の分類と使用方法、車椅子駆動の指導を理解できる
12回	体験演習	杖歩行と車椅子駆動の体験演習を実施する
13回	介助法	基本動作の介助法（床上動作）を理解できる
14回	介助法	基本動作の介助法（車椅子移乗）を理解できる
15回	介助法	基本動作の介助法（歩行、階段昇降）を理解できる

成績評価	定期試験100点満点中60点以上で合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	後日提示
使用教材教科書	医学書院 標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第6版
オフィスアワー	水曜日が研修日のため、それ以外の日は対応可能 詳細は後日提示 学校メール：t-nabeki@nichireha.ac.jp

		理学療法学科 昼間部			
科目	臨床見学実習Ⅰ	単位	1	コマ数	45
担当講師	理学療法学科全教員	学 年		1年生	
資格	理学療法士				

科目概要	病院や診療所、介護施設で見学実習を実施する。医療機関・介護施設における理学療法士の役割や仕事の内容、関連職種との連携、チーム医療への理解を学習する。基礎知識の確認や実技演習などを中心に行う。 ・臨床現場の理学療法士の役割、具体的な仕事内容を説明できる。 ・医療・介護・福祉現場で働く専門職としての心構えを理解し説明できる。 ・見学実習をとして、今後の基礎学習に取り組むべきかを明確にし説明できる。				
学習の留意点	実習前に、学生紹介書の書き方や挨拶・提出物の起源を守ること、報告・連絡・相談などを徹底して指導しておりますので、それを踏まえてご指導下さい。 また実習後には感想文やお礼状を書き、郵送させてます。文章の不備等がないか指導していきます。 学内に戻り、発表形式で実習な難をまとめさせておりますので、多くのことを見学できるようご配慮下さい。				
到達目標	理学療法士の仕事内容について理解し、説明できる。 リハビリテーションの考え方がどのように医療現場や介護福祉施設で実践されているのか理解できる。i				
授業形態	実習			対面	
関連科目	人間関係学	解剖学・生理学 ・運動学		検査測定法	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	1）病院・施設の理学療法士から、各施設での理学療法士の役割を学ぶ。 2）医療者として理学療法士の持つ責任と心構えについて学ぶ。 3）理学療法士が患者・利用者に対し、どのような接し方をしているか学ぶ。 4）患者・利用者とのコミュニケーションを通して、理学療法士に求められるものを学ぶ。 5）多職種との連携について学ぶ。 6）医療における礼節・態度・接遇について学ぶ。	
2回		
3回		
4回		
5回		
6回		
7回		
8回		
9回		
10回		
11回		
12回		
13回		
14回		
15回		

成績評価	臨床実習指導者の評価および担当教員の評価、提出物、学内発表の内容を踏まえて総合的に判断する。
課題やレポートに関するフィードバック	実習後、学内にて発表・課題提出を行い、事後にフィードバックする。
使用教材教科書	学校指定ケーシー、白靴、実習にふさわしい身だしなみが必要。施設によるが、通院時はスーツ着用。学生評価表やデイリーノート、出欠表など実習書類を持参する。
オフィスアワー	担任や理学療法学科教員

		理学療法学科 昼間部			
科目	心理学	単位	2	コマ数	15
担当講師	鈴木 康弘	学 年		2年生	
資格	臨床心理士・公認心理師・第一種衛生管理者				

科目概要	心理学を専門としない、初めて心理学を学ぶ学生を対象に、教養としての心理学を学ぶ。				
学習の留意点	・予習(教科書を読む)の上で、指定期間内の配信授業を聴講し、必ず小テストに回答すること。 ・規定の出席数に満たない場合、定期試験の受験資格が得られない。 ・指定のテーマについてA4に3枚程度のレポートを提出すること。 ・定期試験は教科書や授業で取り上げた内容を出題する。 ・尚、配布資料や授業動画の無断転用やSNS掲載・複製・スクリーンショット等の行為を禁止とし、問題行為があった場合は単位を取得できない。				
到達目標	心理学の理論が日常や臨床実践において役立つことを理解できる。				
授業形態	講義			配信授業	
関連科目	臨床心理学				

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	教育心理学①	人はなぜ学習につまづくのかという問いを理解できる。 Keyword:学習観、学習方略
2回	教育心理学②	心理学から勉強方法を考えることができる。 Keyword：教訓帰納、仮想的教示
3回	言語心理学①	獲得・習得・学習の違いを説明できる。 Keyword:母語、言語学習
4回	言語心理学②	言語習得の環境を考えることができる。 Keyword:偶発的学習, 全身反応学習法
5回	認知心理学①	人の考えの歪みを理解することができる。 Keyword:認知バイアス, 原因帰属
6回	認知心理学②	人の直感のはたらき方について理解できる。 Keyword: ヒュリスティクス, 批判的思考
7回	脳の心理学①	心理学の立場から脳を理解できる。 Keyword:シナプス、グリア
8回	脳の心理学②	脳に与える影響を理解できる。 Keyword:生活習慣病、脳の可塑性
9回	感情心理学①	感情とは何か理解できる。 Keyword:情動、気分
10回	感情心理学②	気分や情動との付き合い方を理解できる。 Keyword:ポジティブマネジメント
11回	キャリア心理学①	キャリアとは何かを理解できる。 Keyword:心理社会的モラトリアム
12回	キャリア心理学②	青年期とアイデンティティについて説明できる。 Keyword:自律性、授業外学習
13回	集団の心理学①	集団の基本的特徴を理解できる。 Keyword:同調行動、集団規範
14回	集団の心理学②	良い結果を生むための集団活動について理解できる。 Keyword:集団の意志決定, 集団目標
15回	スポーツ心理学	競技や健康スポーツと心の関係について理解できる。 Keyword:心理的スキル, 行動変容

成績評価	・毎回の小テスト 30点 ・レポート 20点 ・定期試験 40点 ・受講態度（発言等）10点
課題やレポートに関するフィードバック	FBは授業内で全体に実施する。
使用教材 教科書	絶対役立つ 教養の心理学 展開編 人生をさらに有意義にすごすために 藤田哲也編著 ミネルヴァ書房
オフィスアワー	非常勤講師につき事務局に問い合わせてください。

		理学療法学科 昼間部			
科目	運動生理学	単位	2	コマ数	15
担当講師	高林礼子	学 年		2年生	
資格					

科目概要	運動生理学は主に運動に対する生理反応を理解する学問である。健常者の運動に対する生理反応を中心に学習し、理解することで今後のリスク管理等につなげる目的で学習する。・健常者の体内で起こる反応などについて理解できる				
学習の留意点	授業の終わりにその日に学習したことを、まとめ、記入させる。 やりっぱなしではなく、復讐の意味も込めて行わせる。				
到達目標	生理学的理解からリスク管理へとつなげる思考を説明できる運動による呼吸・循環・代謝などの変化について説明できる				
授業形態	講義		対面		
関連科目	生理学	0		0	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	筋収縮と筋のエネルギー供給系	筋収縮の説明と筋のエネルギー供給系が理解できる。
2回	筋線維の種類と特徴	金線維の種類と特徴が説明できる。
3回	筋収縮での神経の役割	筋収取 k における神経の役割について理解ができる
4回	換気の運動生理学	換気が運動生理学にどのように関係があるのか説明できる。
5回	ガス交換の運動生理学	ガス交換と運動生理日について説明ができる。
6回	循環の仕組みと働き	循環の仕組みの働きの居ついて説明できる。
7回	循環器系の運動	循環と運動整理の関係について説明できる。生理学、運動学の教科書
8回	関節の運動生理学	可動関節と運動整理の菅家について説明できる。
9回	体温と運動生理学	運動することによって体温がどのように変動するか理解ができる。
10回	内分泌と運動生理学	内分泌と運動の関係について説明できる。
11回	代謝と運動生理学	代謝と運動生理学との関係について理解できる。
12回	身体組成と肥満	身体組成への理解と肥満について説明できるようになる。
13回	骨粗しょう症と運動	骨粗しょう症にはどのような運動がいいのか理解できる。
14回	加齢と運動	フレイルやロコモティブシンドロームなどが説明できる。
15回	トレーニングの効果	様々なトレーニングがあるがその特徴や効果などについて理解できる。

成績評価	毎回、A4用紙1枚程度のレポートを書いてもらいます。それが3割。試験が7割。 合わせて6割以上の点数となったものを合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	毎回、A4用紙1枚程度のレポートの内容をチェックし、返却する。
使用教材 教科書	教科書：リハビリテーション運動生理学 監修 玉木 彰、勝田茂編著 MEDICALVIEW 参考書：生理学の教科書、運動生理学の本
オフィスアワー	メールでの連絡は随時r-takabayashi@nichireha.ac.jp 担当授業の前々後

		理学療法学科 昼間部			
科目	運動学実習	単位	1	コマ数	23
担当講師	吉葉則和	学 年		2年生	
資格	理学療法士免許				

科目概要	運動学で学んだ基礎知識が臨床ではどのようなつながりがあるのかを基本動作や関節運動を分析し結果からどのような考察ができるかを理解する。				
学習の留意点	基礎となる運動学は国家試験問題の出題において頻繁に見かけられる。ここでは身体における運動機能がどのようなメカニズムで行われているかをデータ収集と結果からの考察を通して疾患との結びつきを理解する。				
到達目標	①四肢、頭部体幹の関節運動を理解する。 ②関節運動と基本動作の関連性を理解する。 ③健常動作と病態によっておこる動作の違いを理解する。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	解剖学	運動学		生理学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	関節可動域の確認 下肢	股関節膝関節の可動域を確認し、2関節筋の作用を理解する
2回	2関節筋の作用 演習①膝関節屈曲・伸展時の股関節屈曲運動と伸展運動前編	正しい計測方法とデータの収集
3回	2関節筋の作用 演習①膝関節屈曲・伸展時の股関節屈曲運動と伸展運動後編	発表によるアウトプット
4回	関節可動域の確認 肩甲骨 上肢	肩関節の可動域の確認、肩甲骨腕リズムに作用する関節運動を理解する
5回	肩甲骨腕リズムの計測 演習②前編	正しい計測方法とデータの収集
6回	肩甲骨腕リズムの計測 演習②後編	発表によるアウトプット
7回	肩甲骨周囲筋のトレーニング 前鋸筋トレーニング	関節の構造を理解したうえで、正しい運動方法を提示できる。
8回	骨盤前後傾の違いによる脊椎の運動 演習③前編	正しい分析方法とデータの収集
9回	骨盤前後傾の違いによる脊椎の運動 演習③後編	発表によるアウトプット
10回	座位バランス前方リーと側方リーチ演習④前編	正しい分析方法とデータの収集
11回	座位バランス前方リーと側方リーチ演習④中編	正しい分析方法とデータの収集
12回	座位バランス前方リーと側方リーチ演習④後編	発表によるアウトプット
13回	寝返り動作 演習⑤前編	正しい分析方法とデータの収集
14回	寝返り動作 演習⑤中編	正しい分析方法とデータの収集
15回	寝返り動作 演習⑤後編	発表によるアウトプット
16回	立ち上がり動作 演習⑥前編	正しい分析方法とデータの収集
17回	立ち上がり動作 演習⑥中編	正しい分析方法とデータの収集
18回	立ち上がり動作 演習⑥後編	発表によるアウトプット
19回	歩行周期の確認	各周期を分割して立脚相と遊脚相のポイントを理解する
20回	歩行分析に必要なとなる関節モーメントの理解	立脚相と遊脚相において関節モーメントと外部モーメントの関係を理解する
21回	動画視聴による疾患別歩行動作の特徴	正しい分析方法とデータの収集
22回	健常歩行分析 演習⑦前編	正しい分析方法とデータの収集
23回	健常歩行分析 演習⑦後編	発表によるアウトプット

成績評価	演習を通してまとめた報告書の内容から総合的に判断する。
課題やレポートに関するフィードバック	後日掲示
使用教材 教科書	・参考資料の配布 ・動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践
オフィスアワー	後日掲示

		理学療法学科 昼間部			
科目	生涯発達概論	単位	1	コマ数	8
担当講師	黒木光	学 年		2年生	
資格					

科目概要	理学療法における発達支援の基礎として、生涯にわたる心身の発達過程を概観します。乳児期の発達に焦点を当てて理解を深め、理学療法士として対象者の発達段階に応じた適切な支援を提供するための視点を養います。				
学習の留意点	この講義を最大限に活かすために、皆さんには、以下の点を意識し工夫していただきたいと思います。まず、講義へ積極的に参加することで、学びを深める第一歩を踏み出しましょう。質問や意見交換を通して理解を深めると共に、講義内容を自分の経験や周囲の事例と関連付け、現実世界とのつながりを見出すことで、より深い理解が得られます。講義内容をノートにまとめたり、参考文献を読んだりするなど、能動的な学習も心がけましょう。また、様々な発達段階や背景を持つ人々への理解を深め、多様性を尊重する視点を持つことも重要です。そして、わからないことはそのままにせず、積極的に質問し、疑問点を解消するように努めましょう。これらの点を意識することで、講義内容の理解が深まり、発達の知識をより効果的に活用できるようになるでしょう。				
到達目標	①乳幼児期の運動、社会性、言語の各発達段階における特徴を説明できる。 ②乳幼児期の運動発達を運動だけでなく、解剖学的、神経生理学的に説明できる。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	運動学	解剖学		人間発達学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	背臥位：新生児から3か月 運動発達と筋活動	背臥位：新生児から3か月 運動発達と筋活動を理解する
2回	腹臥位：新生児から3か月 運動発達と筋活動	腹臥位：新生児から3か月 運動発達と筋活動を理解する
3回	背臥位：4か月から6か月 運動発達と筋活動	背臥位：4か月から6か月 運動発達と筋活動を理解する
4回	腹臥位：4か月から6か月 運動発達と筋活動	腹臥位：4か月から6か月 運動発達と筋活動を理解する
5回	背臥位：7か月から12か月 運動発達と筋活動	背臥位：7か月から12か月 運動発達と筋活動を理解する
6回	腹臥位：7か月から12か月	腹臥位：7か月から12か月の運動発達と筋活動を理解する
7回	乳幼児の発達（運動・言語・認知）	乳幼児の発達（運動・言語・認知）を理解する
8回	乳幼児の発達（運動・言語・認知）	乳幼児の発達（運動・言語・認知）を理解する

成績評価	レポート課題で6割以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	授業時に復習機会を設けてフィードバックする
使用教材 教科書	イラストでわかる人間発達学 リハのための人間発達学 第3版
オフィスアワー	毎週月曜日17～18時

		理学療法学科 昼間部			
科目	病理学概論	単位	2	コマ数	15
担当講師	脇 雅子	学 年		2年生	
資格	医学博士				

科目概要	解剖学や生理学で学習した人体の構造と機能もとに、どのような原因で疾病が成立するのか、またその時細胞・組織にはどのような変化が起きているのかを学ぶ学問が病理学である。講義では、病因をはじめとして退行性病変、進行性病変、代謝障害、循環障害、炎症、感染症、免疫、腫瘍、先天異常、老化、死などについて学ぶ。	
学習の留意点	板書による病理学用語を理解し記憶する。解剖学、生理学、病理学との連携を図り、疾病に関し幅広い知識を習得できるよう、復習や積極的な学習をする。	
到達目標	基礎医学としての病理学用語を学習、記憶し、臨床の場で遭遇した疾病の原因・病態を理解し説明できるようにする。解剖学、生理学、病理学の連携を図り、疾病に関する幅広い知識を習得・理解できるようにする	
授業形態	対面授業	講義
関連科目	内科老年学Ⅰ・Ⅱ, 整形外科Ⅰ・Ⅱ, 神経内科学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	病因論	内因、外因：感染症、環境因子、栄養障害
2回	退行性病変	変性、萎縮、壊死
3回	進行性病変	肥大、過形成、化生、異形成、再生、創傷治癒
4回	代謝異常	タンパク質・アミノ酸代謝異常、核酸代謝異常
5回	代謝異常	脂質代謝異常。糖質代謝異常
6回	代謝異常	無機物質代謝異常、色素代謝異常
7回	循環障害	局所の循環障害：充血、うっ血、浮腫、出血、血栓症、塞栓症
8回	循環障害	血栓症、塞栓症、虚血、梗塞、全身の循環障害：高血圧症, 低血圧症
9回	免疫	免疫反応、免疫担当細胞、アレルギー
10回	免疫、炎症	自己免疫疾患、炎症における細胞、急性・慢性炎症
11回	感染症	感染の分類、感染経路、病原体の種類、日和見感染症
12回	腫瘍	腫瘍の命名と分類、悪性腫瘍の進展形式
13回	老化	加齢による各臓器の変化、増加する疾患
14回	先天異常	遺伝性疾患
15回	先天異常	染色体異常

成績評価	定期試験１００％とし、５９％（５９点）以下を不合格とする
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第5版 医学書院
オフィスアワー	授業前後を原則とします

		理学療法学科 昼間部			
科目	臨床心理学	単位	2	コマ数	15
担当講師	鈴木 康弘	学 年		2年生	
資格	臨床心理士・公認心理師・第一種衛生管理者				

科目概要	心理学を専門としない、心理職を目指していない学生を対象に、教養としての臨床心理学を学ぶ。		
学習の留意点	・ 予習(教科書を読む)の上で、指定期間内の配信授業を聴講し、必ず小テストに回答すること。 ・ 規定の出席数に満たない場合、定期試験の受験資格が得られない。 ・ 指定のテーマについてA4に3枚程度のレポートを提出すること。 ・ 定期試験は教科書や授業で取り上げた内容を出題する。 ・ 尚、配布資料や授業動画の無断転用やSNS掲載・複製・スクリーンショット等の行為を禁止とし、問題行為があった場合は単位を取得できない。		
到達目標	臨床心理学の理論が日常や臨床実践において役立つことを理解できる。		
授業形態	講義	配信授業	
関連科目	精神医学, 実習全般		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	パーソナリティの理解	パーソナリティの個人差に注目することができる。 Keyword:ピクファイト, 心理的障害, 感受性差異
2回	うつ病と抑うつ障害	ストレスとの関連を学び、理解できる。 Keyword: 双極性障害, HPA軸, 内在化問題
3回	不安症	怖れる気持ちについて理解できる。 Keyword: 恐怖条件づけ, 扁桃体, 暴露療法
4回	統合失調症	普遍的な心の病について理解できる。 Keyword: 幻覚/妄想, 自我障害, アドヒアランス
5回	心的外傷後ストレス障害	トラウマを理解できる。 Keyword: 再体験/回避/過覚醒、PFA
6回	発達障害	ASDの概要をつかむことができる。 Keyword: 二次障害、心の理論、認知的特性
7回	臨床心理学の理解と方法の歴史	臨床心理学の誕生と各理論の概要をつかむことができる。
8回	精神分析	フロイトの精神分析について理解できる。 Keyword: 心的装置, 発達論, 転移/逆転移, 夢分析
9回	認知行動療法	CBTの概要をつかむことができる。 Keyword: ABC分析、認知再構成法
10回	人間性心理学	ロジャースの人間性心理学について理解できる。 Keyword: 自己一致, 無条件の肯定的関心, 共感的理解
11回	ナラティブ・アプローチ	物語的な見方や考え方を理解できる。 Keyword: ライフストーリー
12回	神経科学と生理心理学	心の生理学的基礎を理解できる。 Keyword: 大脳皮質、身体の生理学
13回	心理アセスメント	心理的見立ての概要を理解できる。 Keyword: ラポール、心理検査
14回	臨床心理学のための統計学	心理検査マニュアルを読むための知識を理解できる。 Keyword: 標準偏差、信頼区間
15回	心理臨床実践	心理臨床学の実践について症例から学ぶことができる。

成績評価	・ 毎回の小テスト 30点 ・ レポート 20点 ・ 定期試験 40点 ・ 受講態度（発言等）10点
課題やレポートに関するフィードバック	FBは授業内で全体に実施する。
使用教材 教科書	絶対役立つ 臨床心理学 カウンセラーを目指さないあなたにも 藤田哲也監修 串崎真志編著 ミネルヴァ書房
オフィスアワー	非常勤講師につき事務局に問い合わせてください。

		理学療法学科 昼間部			
科目	内科学・老年学Ⅰ	単位	2	コマ数	15
担当講師	佐久間肇	学 年		2年生	
資格	総合内科専門医、神経内科専門医、リハビリテーション科専門医				

科目概要	内科学および老年医学は、解剖学や病理学などの基礎知識の理解の上で、リハビリテーションの対象になる疾患、障害の病因、病態、さらには薬物療法、外科的治療などの治療までを系統的に学びます。これらの理解は、各種リハビリテーションの目的や手技に対する理解を深めるためにも必須の知識になります。				
学習の留意点	国家試験において臨床医学領域の中で最も出題の多い領域の一つでもあり、2年生の終わりになれば、他の科目も含めてほとんどの国家試験過去問は解けるだけの授業は受けていることになります。2年生の内にこれらの知識を確実に身に付けましょう。知識を身に着ける方法としては、学習したことをすぐに問題形式で確認していくことが有用とされています。そこで、この授業では、毎回、授業理解の程度を確認するため、国試の過去問を中心に小テストを行いながら授業を進めます。小テストでできなかったところは必ずその日のうちに、プリントを見直し、次には確実にできるようにして下さい。				
到達目標	国家試験に出題される主要な内科疾患、老年病について、病因、病態、症候、治療について理解し、説明できることを最低限の目標とします（授業終わりに行う小テストを確実に解けるようになって下さい）。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	解剖学Ⅱ		病理学概論		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	総論 1	内科的診察の留意点、検査の結果判定のポイントについて理解し、説明できる。
2回	総論 2	障害に対する生体反応、主な内科的症候について理解し、説明できる。
3回	総論 3	総論 2 に続き、各種内科的症候について理解し、説明できる。
4回	総論 4	尿・便検査、血液検査、生理機能検査、画像検査について概要を理解し、説明できる。
5回	呼吸器 1	呼吸器の解剖、症候と病態生理、画像検査についての概要を理解し、説明できる。
6回	呼吸器 2	慢性閉塞性肺疾患、びまん性汎細気管支炎、気管支喘息の病因、病態、診断、治療について、理解し説明できる。
7回	呼吸器 3	間質性肺炎、肺がん、縦隔腫瘍、肺血栓塞栓症、サルコイドーシス、塵肺の病態、診断、治療などについて理解し、説明できる。
8回	呼吸器 4	肺炎、ARDS、特発性気胸、睡眠時無呼吸症候群の病態、診断、治療について理化し、説明できる。
9回	循環器 1	心血管系の解剖と生理、主な検査、不整脈について理解し、説明できる。
10回	循環器 2	高血圧、低血圧、虚血性心疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
11回	循環器 3	弁膜症、心膜炎、心不全の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
12回	循環器 4	心筋疾患、先天性心疾患、大動脈疾患、末梢血管疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
13回	消化器 1	解剖と生理、症候、病態生理、画像検査の概要を理解し、説明できる。
14回	消化器 2	主な食道疾患、胃・十二指腸疾患の病態、診断、治療について説明し、理解できる。
15回	消化器 3	主な小腸疾患、大腸疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。

成績評価	原則、定期試験60%以上を合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	毎回の授業後に小テストを行い、次回の授業初めに解答と説明を行います。
使用教材 教科書	指定教科書なし。毎回、授業範囲の穴埋め形式のプリントを配布します。
オフィスアワー	授業前後を原則としますが、授業中にわからないことがあればその場でも質問を受けます。

		理学療法学科 昼間部			
科目	内科学・老年学Ⅱ	単位	2	コマ数	15
担当講師	佐久間肇	学 年		2年生	
資格	総合内科専門医、神経内科専門医、リハビリテーション科専門医				

科目概要	内科学および老年医学は、解剖学や病理学などの基礎知識の理解の上で、リハビリテーションの対象になる疾患、障害の病因、病態、さらには薬物療法、外科的治療などの治療までを系統的に学びます。これらの理解は、各種リハビリテーションの目的や手技に対する理解を深めるためにも必須の知識になります。				
学習の留意点	国家試験において臨床医学領域の中で最も出題の多い領域の一つでもあり、2年生の終わりになれば、他の科目も含めてほとんどの国家試験過去問は解けるだけの授業は受けていることになります。2年生の内にこれらの知識を確実に身に付けましょう。知識を身に着ける方法としては、学習したことをすぐに問題形式で確認していくことが有用とされています。そこで、この授業では、毎回、授業理解の程度を確認するため、国試の過去問を中心に小テストを行いながら授業を進めます。小テストでできなかったところは必ずその日のうちに、プリントを見直し、次には確実にできるようにして下さい。				
到達目標	国家試験に出題される主要な内科疾患、老年病について、病因、病態、症候、治療について理解し、説明できることを最低限の目標とします（授業終わりに行う小テストを確実に解けるようになって下さい）。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	解剖学Ⅱ	整形外科科学Ⅱ			

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	肝・胆道系、膵臓 1	肝臓・胆道・膵臓の解剖と生理、検査の概要について理解し、説明できる。
2回	肝・胆道系、膵臓 2	主な肝胆疾患、膵疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
3回	血液 1	血液の成分の生理、血液細胞の分化、症候、検査法の概略と主な赤血球系疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
4回	血液 2	主な白血球系の疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
5回	血液 3	主な出血性疾患、血栓性疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
6回	内分泌 1	内分泌腺の解剖と生理、主な下垂体疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
7回	内分泌 2	主な甲状腺・副甲状腺・副腎疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
8回	代謝異常	糖尿病、高尿酸血症、メタボリックシンドローム、アミロイドーシスの病態、診断、治療について理解し、説明できる。
9回	腎臓	腎・泌尿器の解剖と生理、主な腎疾患について理解し、説明できる。
10回	膠原病 1	免疫機構とアレルギー、SLEの病態、診断、治療について理解し、説明できる。
11回	膠原病 2	全身性強皮症、多発性筋炎/皮膚筋炎、MCTD、ベーチェット病の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
12回	膠原病 3	関節リウマチ、強直性脊椎炎、シェーグレン症候群、結節性多発動脈炎の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
13回	老年医学 1	人口の高齢化、身体・精神機能の加齢変化、転倒の要因と予防について理解し、説明できる。
14回	老年医学 2	フレイル、サルコペニアの概念と治療、認知症の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
15回	老年医学 3	がんの疫学、高齢者のがんの特性、がんのリハビリテーションの概要について理解し、説明できる。

成績評価	原則、定期試験60％以上を合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	毎回の授業後に小テストを行い、次回の授業初めに解答と説明を行います。
使用教材教科書	指定教科書なし。毎回、授業範囲の穴埋め形式のプリントを配布します。
オフィスアワー	授業前後を原則としますが、授業中にわからないことがあればその場でも質問を受けます。

		理学療法学科 昼間部			
科目	整形外科学Ⅰ	単位	2	コマ数	15
担当講師	河内 勇樹	学 年		2年生	
資格	理学療法士/鍼灸・あん摩マッサージ指圧師				

科目概要	整形外科学は、上肢、下肢、体幹の運動器官を専門に扱う科で、骨、関節、筋肉、神経などが関係する分野である。骨折や捻挫などの外傷と、変形性関節症や関節リウマチなど、さまざまな疾患がある。これら運動器の外傷や疾患の治療には、リハビリテーションに関わる理学療法士、作業療法士、義肢装具士などの参加が極めて重要である。 更には、運動器疾患の理解は障害者の理解にも繋がり、福祉にも関わる作業療法士にはその理解が必須である。 前期では、整形外科学の概論から、主に全身に関する疾患についての講義を行う。後期では、上肢、下肢、体幹などの部位別の疾患や外傷、およびスポーツなどの特殊な項目の講義を行う。
学習の留意点	整形外科学の学習においては、解剖学・運動学・生理学の知識を確実に定着させ、それをもとに疾患の理解を深めることが重要です。骨・関節・筋・神経の構造や機能を正しく把握し、それらがどのように関連し合い、疾患がどのように発生するのかをイメージしながら学習を進め、各疾患の病態を基礎知識と結びつけながら理解していただきたいです。 また、国家試験対策として、過去の出題傾向を踏まえ、頻出疾患の病態・診断・治療を体系的に整理し、実際の試験問題を解きながら知識の定着を図ることが重要です。本講義でも、基礎知識を土台に疾患を具体的にイメージしながら学習しましょう。
到達目標	整形外科学の講義、前期、後期を通じて、①運動器の構造と機能を理解する、②運動器に生じる主なる疾患や外傷の知識を得る、③運動器疾患の病態、障害を理解して、治療手段につなげる能力を養う、ことを目的とする。
授業形態	対面講義
関連科目	運動学Ⅰ・Ⅱ,検査測定法Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ,運動療法学Ⅰ・Ⅱ,疾患別理学療法Ⅰ

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	整形外科学について	整形外科学とは、リハビリテーションとの関わり合い
2回	診断と治療総論	整形外科診断学、治療法
3回	軟部組織損傷	軟部組織の外傷総論、コンパートメント症候群、熱傷
4回	骨関節損傷総論	骨折総論、関節損傷
5回	肩、肩甲帯	肩関節の解剖、肩の外傷、疾患
6回	肘、前腕	肘関節の解剖、肘関節周囲の外傷と疾患
7回	手関節、手指	手関節・手指の解剖、外傷
8回	手関節、手指	手関節・手指の疾患
9回	股関節、大腿	股関節の解剖、外傷、疾患
10回	膝関節、下腿	膝関節の解剖、外傷、疾患
11回	足関節、足部	足関節の解剖、外傷、疾患
12回	脊椎、脊髄	脊椎、脊髄の解剖、外傷
13回	脊椎、脊髄	脊椎、脊髄の疾患
14回	脊椎、脊髄□	脊椎、脊髄の疾患②
15回	試験対策	2 5 問小テスト実施後に解説

成績評価	テスト100%
課題やレポートに関するフィードバック	FBは全体に実施する
使用教材教科書	整形外科学テキスト(改定第4版) 南江堂
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		理学療法学科 昼間部			
科目	整形外科Ⅱ	単位	2	コマ数	15
担当講師	河内 勇樹	学 年		2年生	
資格	理学療法士/鍼灸・あん摩マッサージ指圧師				

科目概要	整形外科は、上肢、下肢、体幹の運動器官を専門に扱う科で、骨、関節、筋肉、神経などが関係する分野である。骨折や捻挫などの外傷と、変形性関節症や関節リウマチなど、さまざまな疾患がある。これら運動器の外傷や疾患の治療には、リハビリテーションに関わる理学療法士、作業療法士、義肢装具士などの参加が極めて重要である。 更には、運動器疾患の理解は障害者の理解にも繋がり、福祉にも関わる作業療法士にはその理解が必須である。 前期では、整形外科の概論から、主に全身に関する疾患についての講義を行う。後期では、上肢、下肢、体幹などの部位別の疾患や外傷、およびスポーツなどの特殊な項目の講義を行う。
学習の留意点	整形外科の学習においては、解剖学・運動学・生理学の知識を確実に定着させ、それをもとに疾患の理解を深めることが重要です。骨・関節・筋・神経の構造や機能を正しく把握し、それらがどのように関連し合い、疾患がどのように発生するのかをイメージしながら学習を進め、各疾患の病態を基礎知識と結びつけながら理解していただきたいです。 また、国家試験対策として、過去の出題傾向を踏まえ、頻出疾患の病態・診断・治療を体系的に整理し、実際の試験問題を解きながら知識の定着を図ることが重要です。本講義でも、基礎知識を土台に疾患を具体的にイメージしながら学習しましょう。
到達目標	整形外科の講義、前期、後期を通じて、①運動器の構造と機能を理解する、②運動器に生じる主なる疾患や外傷の知識を得る、③運動器疾患の病態、障害を理解して、治療手段につなげる能力を養う、ことを目的とする。
授業形態	対面講義
関連科目	運動学Ⅰ・Ⅱ,検査測定法Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ,運動療法学Ⅰ・Ⅱ,疾患別理学療法Ⅰ

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームの概念、運動器不安定症、フレイル、高齢者の運動器
2回	リウマチ性疾患	関節リウマチ総論
3回	リウマチ性疾患②	悪性関節リウマチ、強直性関節炎、若年性突発性関節炎
4回	関節疾患	関節の役割、病態、全身性関節疾患
5回	感染症	化膿性関節炎、骨髄炎、骨関節の感染症
6回	代謝、内分泌疾患	骨軟化症、くる病、骨粗鬆症、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、巨人症、先端巨大証
7回	骨、軟部腫瘍	骨腫瘍と軟部腫瘍
8回	末梢神経障害 上肢下肢	末梢神経の解剖、評価、上肢下肢の末梢神経損傷
9回	絞扼性末梢神経障害	絞扼性末梢神経障害総論口
10回	脳性麻痺	脳性麻痺の原因、発達、病型
11回	筋ジストロフィー	筋ジストロフィーの原因、病型、症状
12回	骨系統疾患・骨端症	骨系統疾患・骨端症
13回	四肢循環障害、慢性疼痛疾患	四肢循環障害による疾患、慢性疼痛疾患
14回	四肢切断および四肢欠損	切断の原因、術式、合併症など
15回	スポーツ整形外科	障害者スポーツ、スポーツ外傷、スポーツ障害、疲労骨折、RICE， など

成績評価	テスト１００％
課題やレポートに関するフィードバック	FBは全体に実施する
使用教材教科書	整形外科テキスト(改定第4版) 南江堂
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		理学療法学科 昼間部			
科目	神経内科学	単位	2	コマ数	15
担当講師	草野 修輔	学 年		2年生	
資格	リハビリテーション専門医				

科目概要	リハビリテーション医療における神経内科疾患としては、脳卒中、変性性疾患、感染性疾患、腫瘍性疾患など多くの神経系疾患がある。リハビリテーション医療に必要な神経内科領域の知識として、各種疾患だけでなく、解剖学的基礎知識、画像診断学、評価技術などについて理解を深めてもらう。	
学習の留意点	各講義に即したミニテストを理解度の確認とする	
到達目標	1. 神経疾患の理解の基礎となる神経系の解剖・生理について説明できる。 2. 神経疾患の診断に必要な画像診断について、その仕組みと実際の画像診断について説明できる。 3. 各種神経疾患について、病態、症状、診断法、治療法などについて説明できる。 4. 神経疾患の診断、障害の評価などについての評価技術を習得できる。	
授業形態	講義	対面授業
関連科目		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	神経疾患の解剖生理	神経系統の解剖生理について理解する。
2回	神経診断学 1	自律神経系、脳神経系、反射について理解する。
3回	神経診断学 2	運動障害・感覚障害について理解する。
4回	神経診断学 3	高次脳機能障害について理解する。
5回	神経診断学 4	脳波、電気生理学的診断法、画像診断法について理解する。
6回	脳血管障害 1	脳血管障害の分類、画像診断について理解する。
7回	脳血管障害 2	脳血管障害の治療、リハビリテーション、予後について理解する。
8回	感染症、腫瘍性疾患	神経系の感染症、腫瘍性疾患について理解する。
9回	変性性疾患	代表的な変性性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症）について理解する。
10回	脱髄性疾患、ニューロパチー	代表的な脱髄性疾患（多発性硬化症他）・末梢神経障害について理解する。
11回	筋疾患	筋炎、筋ジストロフィー、重症筋無力症などについて理解する。
12回	運動ニューロン疾患、内科的疾患	代表的な運動ニューロン疾患（ALS、SPMAなど）、内科的疾患について理解する。
13回	てんかん、頭痛、頭部外傷他	てんかん、頭痛、頭部外傷などについて理解する。
14回	認知症	認知症の種類、症状、診断、リハビリテーションなどについて理解する。
15回	脳性麻痺、二分脊椎、廃用症候群	脳性麻痺、二分脊椎、廃用症候群について理解する。

成績評価	定期試験：筆記試験50%＋レポート課題50%
課題やレポートに関するフィードバック	毎回講義内容に則したミニテストを行うことで理解度をチェックする。また復習の確認にも用いってもらう。
使用教材 教科書	なし
オフィスアワー	原則として講義日に約60分のオフィスアワーを設ける

		理学療法学科 昼間部			
科目	小児科学	単位	1	コマ数	8
担当講師	草野 修輔	学 年		2年生	
資格	医師、リハビリテーション専門医				

科目概要	PT・OTは発達障害領域のリハビリテーションにおいて、積極的に児とかかわっていく。小児のリハビリテーションを実施する上では、小児科領域における疾患や障害の特性などを把握しておくことは必須の課題である。本講義を通して小児・思春期に特有の疾患・障害、またその治療方法について理解を深める。	
学習の留意点	各講義に即したミニテストを理解度の確認とする	
到達目標	代表的な小児疾患の特徴およびその治療方法について説明することが出来る。	
授業形態	講義	対面授業
関連科目		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	成長・発達	小児科学の総論、成長発達過程について理解する
2回	先天異常	遺伝子病、染色体異常、胎芽病、胎児病などについて理解する
3回	神経疾患	脳性麻痺、二分脊椎について理解する
4回	骨系統疾患 1	骨形成不全症、大理石病、くる病、骨軟化症などについて理解する
5回	筋疾患・脳炎・水頭症	筋ジストロフィー、脳炎、水頭症について理解する
6回	内科的疾患	小児の呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患について理解する
7回	発達障害	学習障害、注意欠如多動性障害、自閉スペクトラム症、精神遅滞について理解する
8回	予防接種・感染症	小児の予防接種、感染症について理解する

成績評価	定期試験50%、レポート課題50%
課題やレポートに関するフィードバック	毎回講義内容に則したミニテストを行うことで理解度をチェックする。また復習の確認にも用いよう。
使用教材 教科書	なし
オフィスアワー	原則として講義日に約60分のオフィスアワーを設ける

		理学療法学科 昼間部			
科目	PTセミナーⅡ	単位	2	コマ数	30
担当講師	高瀬 慎輔	学 年		2年生	
資格					

科目概要	解剖学・生理学は理学療法の勉強の最も基礎となる科目の一つである。国家試験に対応できるレベルまで深く細かい理解を進めるための科目となる。				
学習の留意点	今までに学んだ解剖学と生理学の復習を通して理解を深めてその後の検査測定等でどのようにその知識を活かすのか自身でイメージする。事前学習として教科書を用いて詳細を調べてその概要を他者に説明できるように準備する。他者に説明できないものは十分理解できていないものと同意なため、理解を深めることを徹底期に意識してください。 また、自身の努力が他者のために直結することを意識して自身のため、そして他者のために努力を惜しまないようにしてください。				
到達目標	1．人体の構造、筋や関節について説明できる。 2．各神経の機能について説明できる。 3．各臓器の機能や構造について説明できる。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	解剖学Ⅰ	解剖学Ⅱ		解剖学Ⅲ	
	生理学Ⅰ	生理学Ⅱ		生理学実習	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	骨について①	骨の名称が言える
2回	骨について②	骨の部位が示せる
3回	骨について③	フィードバックを正しく理解できる
4回	関節について①	関節の形状を区別できる
5回	関節について②	各関節の形状を言える
6回	関節について③	フィードバックを正しく理解できる
7回	筋・靱帯について①	筋の構造と靱帯構造が言える
8回	筋・靱帯について②	筋の機能と靱帯機能が言える
9回	筋・靱帯について③	フィードバックを正しく理解できる
10回	中枢神経について①	脳について説明できる
11回	中枢神経について②	脊髄について説明できる
12回	中枢神経について③	フィードバックを正しく理解できる
13回	末梢神経について①	自律神経を理解できる
14回	末梢神経について②	自律神経以外の末梢神経について理解できる
15回	末梢神経について③	フィードバックを正しく理解できる
16回	循環器について①	循環器の構造を言える
17回	循環器について②	循環器の機能を言える
18回	循環器について③	フィードバックを正しく理解できる
19回	呼吸器について①	呼吸器の構造を言える
20回	呼吸器について②	呼吸器の機能を言える
21回	呼吸器について③	フィードバックを正しく理解できる
22回	泌尿器について①	泌尿器の構造を言える
23回	泌尿器について②	泌尿器の機能を言える
24回	泌尿器について③	フィードバックを正しく理解できる
25回	消化器について①	消化器の構造をいえる
26回	消化器について②	消化器の機能が言える
27回	消化器について③	フィードバックを正しく理解できる
28回	内分泌系について①	内分泌系の構造が言える
29回	内分泌系について②	内分泌系の機能が言える
30回	内分泌系について③	フィードバックを正しく理解できる

成績評価	提出物や定期試験を含む総合点で6割以上のものを合格とする
課題やレポートに関するフィードバック	適宜全体に行う
使用教材 教科書	プリントを配布する
オフィスアワー	毎週月曜日12時～13時

		理学療法学科 昼間部			
科目	検査測定法Ⅲ	単位	1	コマ数	23
担当講師	高瀬慎輔、塩澤和人	学 年		2年生	
資格	高瀬慎輔：実務経験19年、 塩澤和人：実務経験19年				

科目概要	この授業は主に中枢神経疾患に用いられる理学療法検査を網羅したものである。実際に検査ができ、結果を解釈できることを目的とした理学療法評価学の科目のうちの一つである。				
学習の留意点	本授業は検査内容が多いことから単元ごとに知識を整理するために国家試験に準じた問題等に取り組んでいただく。中枢神経系の障害がもたらす症状はイメージしづらいことが多い。そこで画像や模擬患者体験等を行い、障害像を理解しやすいように工夫する。臨床での経験を伝えることで中枢神経系疾患に関心をもっていただく。				
到達目標	①各検査の要項と実施方法を理解し、実際に検査ができる。 ②病態に応じて必要な検査項目を抽出できる。 ③検査結果を解釈できる。				
授業形態	実習		対面		
関連科目	解剖学	生理学		運動学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	総論①	中枢神経系の解剖学、生理学、運動学背景を説明できる。
2回	総論②	各検査方法の概要と実際を説明できる。
3回	脳神経検査①	脳神経の概要、Ⅰ．嗅神経、Ⅱ．視神経、Ⅲ．動眼・滑車・外転神経を説明、検査ができる。
4回	脳神経検査②	Ⅳ．三叉神経、Ⅴ．顔面神経を説明、検査ができる。
5回	脳神経検査③	Ⅵ．内耳神経、Ⅶ．舌咽・迷走神経を説明、検査ができる。
6回	脳神経検査④	Ⅷ．副神経、Ⅸ．舌下神経を説明、検査ができる。
7回	反射・痛みの検査①	反射とは、深部腱反射の説明、検査ができる。
8回	反射・痛みの検査②	深部腱反射、表在反射が説明・検査ができる。
9回	反射・痛みの検査③	病的反射が説明・検査ができる。反射所見が記録できる。痛みの検査ができる。
10回	筋緊張・協調性検査①	筋緊張の神経学的基本事項・異常が説明できる。
11回	筋緊張・協調性検査②	筋緊張検査ができる。
12回	筋緊張・協調性検査③	協調性障害、運動失調の分類が説明できる。協調性検査ができる。
13回	片麻痺機能検査①	共同運動と連合反応、片麻痺運動障害の特徴を説明できる。
14回	片麻痺機能検査②	Brunnstrom testを説明、検査ができる。
15回	片麻痺機能検査③	12段階式片麻痺機能テスト、脳卒中機能評価法（SIAS）を説明、検査できる。
16回	高次脳機能検査①	高次脳機能障害を説明できる。失認を説明、検査ができる。
17回	高次脳機能検査②	失認・失行を説明、検査できる。
18回	高次脳機能検査③	失語、認知症を説明、検査できる。
19回	姿勢反射検査①	姿勢反射検査とは、脊髄レベルの姿勢反射を説明できる。
20回	姿勢反射検査②	脳幹レベル・中脳レベル・脳皮質レベルの姿勢反射を説明できる。
21回	バランステスト①	バランスとは、バランスの評価できる。
22回	バランステスト②	ロンベルク試験、マン試験、片足立ち試験ができる。
23回	バランステスト③	ERT、TUG、BBSを検査できる。

成績評価	筆記試験100%
課題やレポートに関するフィードバック	個別もしくは全体に必要なに応じてフィードバックを行う
使用教材 教科書	理学療法評価学 第6版補訂版
オフィスアワー	担当授業の前後およびメール 高瀬：s-takase@nichireha.ac.jp 塩澤：k-shiozawa@nichireha.ac.jp

		理学療法学科昼間部			
科目	検査測定法Ⅳ(整形外科テスト)	単位	1	コマ数	15
担当講師	土手 延恭	学 年		2 年生	
資格	理学療法士				

科目概要	国家試験でも頻出する整形外科疾患の症状を関節毎に捉え、理学療法評価の選定・方法・結果の解釈ができるよう実技演習を中心に講義しつつ、障害特性による日常生活活動や移動能力の問題を考えられるよう学生自身の思考力を促す。				
学習の留意点	整形外科テストの成り立ちを経験しながら、関連する各疾患の特徴を理解して欲しいので、よく考え、積極的に参加し、疑問は手を挙げて担当教員を呼んで下さい。 実施内容を十分に記述することで理学療法記録を作成するのと同様の経験もしていただきたいと思います。 クラスメイト同士で行うとはいえ、丁寧に触らないとお互い学び合うことはできないので、爪切りやアクセサリの管理を徹底してください。またお互い十分に学ぶために不快なく、動かしやすい格好をしてください。 小テストで理解を深めていただきますので復習しましょう。				
到達目標	①整形外科疾患に起こりやすい症状を説明できる。 ②整形外科疾患でよく使われる評価・治療を実践できる。 ③局所的な症状,全身からくる症状を説明できる。 ④PBLを通してADL等への悪影響を説明できる。				
授業形態	実技			対面	
関連科目	解剖学・運動学・生理学	検査測定法 Ⅰ・Ⅱ		整形外科学 Ⅰ・Ⅱ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	講義オリエンテーション・姿勢分析頸部の整形外科テスト（1）	姿勢観察を体験し、局所の問題点の発見や左右差を観察・記録できる頸部の整形外科テストを実施できる
2回	頸部の整形外科テスト（2）	頸部の整形外科テストを実施できる/疾患ごとに整形外科テストを分類できる
3回	肩関節の整形外科テスト（1）	肩関節の整形外科テストの前半部分を実施できる/疾患ごとに整形外科テストを分類できる
4回	肩関節の整形外科テスト（2）	肩関節の整形外科テストの後半部分を実施できる/疾患ごとに整形外科テストを分類できる
5回	肩関節の整形外科テスト（3）	肩関節の整形外科テストを全て復習・実施できる
6回	肘関節・手関節・手指の整形外科テスト	肘関節・手関節・手指の整形外科テストを実施できる/疾患ごとに整形外科テストを分類できる
7回	腰椎の整形外科テスト	腰椎の整形外科テストを実施できる/疾患ごとに整形外科テストを分類できる
8回	骨盤の整形外科テスト	骨盤の整形外科テストを実施できる/疾患ごとに整形外科テストを分類できる
9回	治療演習	簡単なストレッチなどを通して腰椎・骨盤の整形外科テスト結果を変え、治療介入体験を実施する
10回	股関節の整形外科テスト	股関節の整形外科テストを実施できる/疾患ごとに整形外科テストを分類できる
11回	膝関節の整形外科テスト（1）	膝関節の整形外科テストの前半部分を実施できる/疾患ごとに整形外科テストを分類できる
12回	膝関節の整形外科テスト（2）	膝関節の整形外科テストの後半部分を実施できる/疾患ごとに整形外科テストを分類できる
13回	腰椎・骨盤・股関節の整形外科テストの復習	腰椎・骨盤・股関節の整形外科テストをスムーズに実施し、分類できる
14回	足関節の整形外科テスト肩関節の整形外科テストの復習	足関節の整形外科テストをスムーズに実施し、分類できる/肩関節テストの復習を実施できる
15回	総復習・まとめ	各関節・各疾患ごとにまとめ、分類・実施できる

成績評価	定期試験100点満点中60点以上で合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	小テストを採点して返却
使用教材教科書	”病態動画から学ぶ臨床整形外科的テスト～的確な検査法に基づく実践と応用 編集：吉田一也 限元庸夫 HUMANPRESS 担当教員が作成した配布プリントを使用、随時、評価記録用紙などを配布 骨模型、ゴニオメータ等
オフィスアワー	水曜日が研修日のため、それ以外の日は対応可能 学校メール：n-dote@nichireha.ac.jp 学校スマホ：080-7002-3399

		理学療法学科 昼間部			
科目	P B LセミナーⅡ	単位	1	コマ数	15
担当講師	塚本奈々子、高林 礼子、他	学 年		2年生	
資格	理学療法士				

科目概要	症例情報を基に、医学的基礎知識や理学療法評価の理解を深め、グループディスカッションや実技を通じて学ぶ。 3年次のOSCEに向け、評価の復習に加え、各疾患に応じた適切な評価や環境設定について考え、実践力を養う。これらを通じて、理学療法士としての臨床思考を身につけることを目的とする。				
学習の留意点	この授業では、自己学習に加え、学生同士のグループワークを通じて協力しながら問題を乗り越え、共通の目標に向かって取り組むことを学びます。医療者としての心身を鍛え、グループに対する責任感と奉仕の精神を身につけることも重要です。これにより、将来、医療の専門職として社会に貢献するために必要な専門職連携の基盤を育成します。 また、グループでの実技や他学年との交流を経験することで、チームとして明確な目標を持ち、チーム内でのコミュニケーションを大切にしながら、チームワークの重要性を学びます。 ＊他学年との日程調整や教員配置人数により、授業内容は多少前後することがあります。				
到達目標	・グループにおける自分の役割を自覚し、主体的に行動できる。 ・自ら疑問をもち、解決に向けてグループメンバー同士協力して活動できる。				
授業形態	対面授業			講義	
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション	PBLのルールや課題内容について理解、実施できる
2回	症例検討-中枢疾患-	課題に取り組む中で自身の理解が不十分な点を特定し、適切に自己学習を行うことができる。
3回	症例検討-中枢疾患-	自己学習した内容をグループ内で共有し、意見交換ができる。教員からの口頭試問に解答できる。
4回	中枢疾患 実技練習（評価）	評価について適切に説明し、実施できる。また、グループで協力しながら取り組むことができる。
5回	中枢疾患 実技練習（評価）	聞き手を意識し、適切な言葉遣いや声の大きさに配慮しながら、デモを交えて分かりやすく評価について発表できる
6回	中枢疾患実技 実技試験	正確に評価が実施できる
7回	症例検討-整形疾患-	課題に取り組む中で自身の理解が不十分な点を特定し、適切に自己学習を行うことができる。
8回	症例検討-整形疾患-	自己学習した内容をグループ内で共有し、意見交換ができる。教員からの口頭試問に解答できる。
9回	整形疾患 実技練習（評価）	評価について適切に説明し、実施できる。また、グループで協力しながら取り組むことができる。
10回	整形疾患 実技練習（評価）	聞き手を意識し、適切な言葉遣いや声の大きさに配慮しながら、デモを交えて分かりやすく評価について発表できる
11回	他学年合同授業（整形疾患実技 実技試験）	正確に評価が実施できる
12回	総復習 筆記試験	8割以上解答できる
13回	合同授業準備（実技練習）	評価について適切に説明し、実施できる。また、グループで協力しながら取り組むことができる。
14回	他学年合同授業（実技指導、座談会）	他学年に対して実技指導を行い、適切なコミュニケーションを取りながら主体的にリードできる。
15回	PBLふりかえり	解説を通じて課題の疑問点を解決し、学習の成果や自身の成長を振り返ることができる。

成績評価	課題や合同授業・発表への参加で成績をつけます。 合計100点満点で、60点以上を合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	全体に実施する
使用教材 教科書	中枢疾患・整形疾患・評価の授業で使用した教科書や資料、配布資料（オリエンテーションや事前メールでお伝えします） パソコン
オフィスアワー	基本的に授業前後に声をかけてください。それ以外は以下のメールアドレスまでお願いします。 n-tsukamoto@nichireha.ac.jp r-takabayashi@nichireha.ac.jp

		理学療法学科 昼間部			
科目	物理療法 I	単位	2	コマ数	15
担当講師	高林礼子	学 年		2年生	
資格	理学療法士				

科目概要	物理エネルギーを人体に作用させた生理的反応を治療に用いる。代表的な治療として温熱、寒冷、電気、光線、牽引等があるが、それぞれの属性により使い方があり、それを誤ると事故にもつながるので明確に禁忌が提示されている。基本的な使用法と禁忌を学びながら科学的実験の要素を取入れ、物理エネルギーの特性を目で確認して理解を深めていく				
学習の留意点	授業の終わりにその日に学習したことを、まとめ、記入させる。 やりっぱなしではなく、復習の意味も込めて行わせる。物理療法は国家試験に4，5問出題される科目であり、就職後物理療法を使うことが想定される。よって、対象、効果、禁忌などをしっかり理解する必要がある。				
到達目標	○物理的エネルギーの種類と人体に及ぼす効果を理解する。○各治療法の禁忌を理解し覚える。○各治療法を自分で体験する。				
授業形態	講義			演習	
関連科目	生理学				

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	物理療法の概念	電気療法の生理的効果、通電による治療法と禁忌
2回	温熱療法	温熱療法の生理的効果、熱伝導を用いた治療法と禁忌
3回	温熱療法	放射熱を用いた治療法と禁忌
4回	温熱療法	エネルギー変換熱を用いた治療法と禁忌
5回	寒冷療法	寒冷療法の生理的効果
6回	寒冷療法	寒冷を用いた治療法と禁忌
7回	水治療法	水治療法の使用と禁忌
8回	電気療法	電気療法の生理的効果、通電による治療法と禁忌
9回	電気療法	FESとTESの臨床適応
10回	電気療法	骨電気療法の使用と禁忌
11回	光線療法	紫外線・レーザー療法の使用と禁忌
12回	牽引療法	頰椎牽引と腰椎牽引の使用と禁忌
13回	C P M	CPMの効果と各関節毎の違い
14回	バイオフィードバック	バイオフィードバック療法の原理と利用方法
15回	症例検討	疾患に対してどの物理療法で対応するか、またその注意点などをグループで発表。

成績評価	毎回、A4用紙1枚程度のレポートを書いてもらい。それが3割。試験が7割。 合わせて6割以上の点数となったものを合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	毎回、A4用紙1枚程度のレポートの内容をチェックし、返却する。
使用教材 教科書	教科書：物理療法学 吉田英樹 メジカルビュー 参考書：生理学の教科書
オフィスアワー	メールでの連絡は随時r-takabayashi@nichireha.ac.jp 担当授業の前後

		理学療法学科 昼間部			
科目	日常生活活動学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	鍋城 武志	学 年		2年生	
資格	理学療法士免許				

科目概要	人と向かい合うことを基本としている理学療法において、日常生活活動（ADL）は運動療法とともに大きな領域を占めている。寝返りや座位といった基本動作のほかに、生命維持のための食事、更衣、排泄などの身辺動作（セルフケア）、社会性を維持するために必要となる、交通機関の利用、コミュニケーションなどを含めたADLの評価と指導が広く行われている。この授業では、臨床現場でリハビリの対象となりうる代表的な疾患に対して、各々の疾患の特徴を確認しながらADL指導・介助方法を学ぶ。		
学習の留意点	各疾患について原因や症状の特徴、治療法などを理解し、理学療法を開始する際のADL評価、指導についてお伝えします。疾患についての理解が不足している場合は、基礎知識の復習を必ず行ってください。 2年生の他科目との関わりが多い科目です。理解ができない時は他科目の資料等も確認してください。		
到達目標	1. 代表的疾患に対するADL指導、介助法を理解する。 2. 代表的疾患に対するADL訓練・指導ができる。 3. 在宅復帰に向けたADL指導が考えられる。		
授業形態	講義		対面
関連科目	疾患別理学療法Ⅰ	疾患別理学療法Ⅱ	疾患別理学療法Ⅲ
	整形外科学	内科学老年学	神経内科学

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	ガイダンス	授業計画を理解できる ADLⅠの復習をする
2回	疾患別ADL指導（骨・関節）	下肢疾患に対するADLアプローチが理解できる
3回	疾患別ADL指導（骨・関節）	下肢疾患に対するADLアプローチが理解できる
4回	疾患別ADL指導（骨・関節）	上肢疾患に対するADLアプローチが理解できる
5回	疾患別ADL指導（中枢）	片麻痺に対するADLアプローチが理解できる
6回	疾患別ADL指導（中枢）	片麻痺に対するADLアプローチが理解できる
7回	疾患別ADL指導（中枢）	筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症に対するADLアプローチが理解できる
8回	疾患別ADL指導（中枢）	パーキンソン病に対するADLアプローチが理解できる
9回	疾患別ADL指導（中枢）	脊髄損傷、脳性麻痺に対するADLアプローチが理解できる
10回	疾患別ADL指導（中枢）	脊髄損傷、脳性麻痺に対するADLアプローチが理解できる
11回	疾患別ADL 「視力障がい」	障がいの特徴、白杖の役割が理解できる
12回	疾患別ADL 「その他の疾患」	リウマチ、内部障害、高齢者などに対するADLアプローチが理解できる
13回	疾患別ADL 「その他の疾患」	リウマチ、内部障害、高齢者などに対するADLアプローチが理解できる
14回	疾患別ADL指導（中枢）	退院・退所に向けた指導・評価のポイントが理解できる
15回	在宅生活のADL	在宅でのADL指導の留意点が理解できる

成績評価	定期試験100点満点中60点以上で合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	後日提示
使用教材 教科書	医学書院 標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第6版
オフィスアワー	水曜日が研修日のため、それ以外の日は対応可能 詳細は後日提示 学校メール：t-nabeki@nichireha.ac.jp

		理学療法学科 昼間部			
科目	疾患別理学療法Ⅰ-A	単位	1	コマ数	15
担当講師	木下修 塚本奈々子	学 年		2年生	
資格	理学療法士				

科目概要	運動器の構造・機能と、骨折、変形性関節症、リウマチなど整形外科疾患の病態、治療、リハビリテーションについて学ぶ。整形外科治療は、手術や薬物療法で骨・関節・筋肉などの構造的異常や痛みを改善し、運動療法や物理療法で機能回復・疼痛緩和を図り、日常生活動作の改善を目指す。治療によって患者のQOL向上を図る。				
学習の留意点	実技経験をしながら、関節毎の各症状徴を理解して欲しいので、よく考え、積極的に参加し、疑問は手を挙げて担当教員を呼んで下さい。 実施内容を十分に記述することで理学療法記録を作成するのと同様の経験もしていただきたいと思います。 クラスメイト同士で行うとはいえ、丁寧に触らないとお互い学び合うことはできないので、爪切りやアクセサリの管理を徹底してください。またお互い十分に学ぶために不快なく、動かしやすい格好をしてください。 小テストで理解を深めていただきますので復習しましょう。				
到達目標	①主要な整形外科疾患に起こりやすい症状を説明できる。 ②整形外科疾患でよく使われる評価・治療を実践できる。 ③局所的な症状, 全身からくる症状を説明できる。				
授業形態	演習、実技			対面	
関連科目	解剖学・運動学・生理学	検査測定法 Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ		整形外科学 Ⅰ・Ⅱ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	整形外科の疾患：概論・治療	整形外科の概要と機能改善・疼痛軽減、日常生活動作の自立を目指す。
2回	脊髄損傷 1 （全 5 回）概要、病態	ASIAのキーマッスル、検査点について説明できる
3回	脊髄損傷 2 （全 5 回）合併症	合併症について説明できる
4回	脊髄損傷 3 （全 5 回）急性期の理学療法	急性期の理学療法とリスク管理について説明できる
5回	脊髄損傷 4 （全 5 回）回復期の理学療法	回復期の理学療法とリスク管理について説明できる
6回	脊髄損傷 5 （全 5 回）まとめ	症例を通じ、脊髄損傷の理学療法について理解する
7回	上肢の解剖とバイオメカニクスの基礎	上肢の骨・関節・筋肉の構造と機能を理解し、運動 mechanics を説明できる。
8回	肩関節周囲炎（五十肩）	#REF!
9回	腱板断裂	病態、症状、診断、治療法を理解し、適切なリハビリテーションを提供できる。
10回	肘関節の疾患とスポーツ障害	患部の安静保持と機能回復、日常生活動作の再獲得を目指す。
11回	手根管症候群	肘関節の疾患とスポーツ障害の病態、評価、治療を理解する。
12回	#REF!	手根管症候群の病態、診断、治療法を理解し、適切に対応できる。
13回	#REF!	手関節の疾患の病態、診断、治療法を理解し、適切に対応できる。
14回	手関節の疾患	治療・手術手技、リハビリプロトコルの知識習得と臨床応用への理解を深める。
15回	上肢の神経絞扼障害	病態、診断、治療を理解し、適切な対応ができる。

成績評価	小テスト10点・課題提出 1 0 点、定期試験80点、合計100点
課題やレポートに関するフィードバック	授業中にフィードバック、テスト後のフィードバック
使用教材 教科書	ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション 第2版 疾患ごとに最適なりハの手技と根拠がわかる 神野哲也／監，相澤純也，中丸宏二／編 脊髄損傷：配布資料
オフィスアワー	木下：o-kinoshita@nichireha.ac.jp 塚本：n-tsukamoto@nichireha.ac.jp

		理学療法学科昼間部			
科目	疾患別理学療法ⅠB（整形：下肢・体幹）	単位	1	コマ数	15
担当講師	土手 延恭	学 年		2 年生	
資格					

科目概要	国家試験でも頻出する整形外科疾患の症状を関節毎に捉え、理学療法評価の選定・方法・結果の解釈ができるよう実技演習を中心に講義しつつ、障害特性による日常生活活動や移動能力の問題を考えられるよう学生自身の思考力を促す。				
学習の留意点	実技経験をしながら、関節毎の各症状徴を理解して欲しいので、よく考え、積極的に参加し、疑問は手を挙げて担当教員を呼んで下さい。 実施内容を十分に記述することで理学療法記録を作成するのと同様の経験もしていただきたいと思います。 クラスメイト同士で行うとはいえ、丁寧に触らないとお互い学び合うことはできないので、爪切りやアクセサリの管理を徹底してください。またお互い十分に学ぶために不快なく、動かしやすい格好をしてください。 小テストで理解を深めていただきますので復習しましょう。				
到達目標	①主要な整形外科疾患に起こりやすい症状を説明できる。 ②整形外科疾患でよく使われる評価・治療を実践できる。 ③局所的な症状,全身からくる症状を説明できる。 ④PBLを通してADL等への悪影響を説明できる。				
授業形態	実技			対面	
関連科目	解剖学・運動学・生理学	検査測定法 Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ		整形外科学 Ⅰ・Ⅱ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	講義オリエンテーション・姿勢分析	姿勢観察を体験し、局所の問題点の発見や左右差を観察・記録できる
2回	足関節の評価・治療（1）足関節捻挫・脛骨天蓋骨折	足関節の評価・治療を実施・記録できる 拘縮の諸問題を理解できる
3回	足関節の評価・治療（2）	足関節の評価・治療を実施・記録および症状を起こしうる組織が多岐に渡ることを理解できる
4回	股関節の評価・治療（1）大腿骨近位部骨折（骨接合術）大腿骨近位部骨折（人工骨頭置換術）	股関節の筋力強化を実施・記録および股関節の評価・治療を実施・記録できる
5回	股関節の評価・治療（2）変形性股関節症（THA）	股関節の評価・治療を実施・記録および近隣関節へ問題が波及していくことを理解できる
6回	股関節の評価・治療（3）	股関節の筋力強化運動を自ら体験できる
7回	治療演習（1）	すべきことを絞った疑似体験でなく、時間内に問診から評価、治療、再評価の流れ、記録できる
8回	膝関節の評価・治療（1）前十字靱帯損傷（再建術）半月板損傷（切除術、縫合術）	膝関節の評価・治療を実施・記録できる 伸展制限の問題点を理解できる
9回	膝関節の評価・治療（2）変形性膝関節症	膝関節の評価・治療を実施・記録および近隣関節へ問題が波及していくことを理解できる
10回	脊椎の評価・治療（1）腰椎椎間板ヘルニア圧迫骨折	脊椎関節・肋骨の評価・治療を実施・記録できる 体幹の筋力強化を実施できる
11回	脊椎の評価・治療（2）腰部脊柱管狭窄症頸椎症性神経根症/脊髄症	脊椎関節の評価・治療を実施・記録および近隣関節へ問題が波及していくことを理解できる
12回	治療演習（2）	治療演習（1）と比較し、理学療法の一連の流れをスムーズに実施できる（自己分析）
13回	PBL（1）	シナリオを読み解き、患者の全体像を把握し、各評価項目ごとに結果から活動レベルの問題を抽出できる
14回	PBL（2）	抽出された問題点から理学梁哺プログラムを立案でき、その理由を記述できる
15回	PBL発表まとめ	PBLでまとめたものを分かりやすく発表できる

成績評価	PBLに関わる提出物および発表報告にて30点、定期試験70点、合計100点
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション 疾患ごとに最適なりハの手技と根拠がわかる 第2版,監修神野哲也他,羊土社 担当教員が作成した配布プリントを使用、随時、評価記録用紙などを配布 骨模型、ゴニオメータ、メジャー、その他運動療法用具
オフィスアワー	水曜日が研修日のため、それ以外の日は対応可能 学校メール：n-dote@nichireha.ac.jp 学校スマホ：080-7002-3399

		理学療法学科 昼間部			
科目	疾患別Ⅱ-A【中枢】	単位	1	コマ数	15
担当講師	佐藤和世	学 年		2年生	
資格	理学療法士				

科目概要	脳血管疾患としての片麻痺患者の理学療法を学習します。病態を理解し、疾患に対する評価と、理学療法を急性期から生活期にわたり適切に選択できるよう、演習を交えながら講義を実施します。				
学習の留意点	脳血管疾患による突然の片麻痺症状を呈することにより、今までとは異なる生活を強いられることになります。病期による身体機能の変化に加え、障害受容のための精神面の状況も考慮し関わっていくことが必要となります。疾患特性をイメージしにくい分野但也有りますが、実技を通して動きを理解し、気持ちいを想像し、適切な関わり方を考えていけるよう表出の場を作ります。				
到達目標	①脳卒中片麻痺患者の病態を説明できる。②麻痺の回復と神経系・脳の可塑性について説明できる。③急性期、回復期、維持期の理学療法の目的と方法について説明できる。④リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドラインに基づきリスク管理ができる。⑤痙性に対する理学療法を説明できる。⑥片麻痺患者の合併症について説明できる。⑦脳卒中の基礎的な画像を判読できる。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	解剖学	生理学		検査測定法Ⅲ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	総論 中枢神経の構造と機能	脳の構造と機能局在について説明できる
2回	総論 脳血管障害	脳血管障害の分類と疫学を説明できる
3回	中枢性運動障害の病態	脳卒中後片麻痺患者の運動障害の特徴を説明できる
4回	中枢神経損傷からの機能回復	神経可塑性の過程が理解でき、機能回復と結びつけて考えることができる
5回	急性期の理学療法	急性期理学療法の目的とリスク管理について説明できる
6回	急性期の理学療法	急性期のポジショニング・関節可動域訓練・離床の流れについて説明できる
7回	急性期の理学療法	片麻痺患者の基本動作介助を実施できる
8回	回復期の理学療法	随意運動の促通、基本動作、バランス練習が実施できる
9回	回復期の理学療法	片麻痺患者の歩行の特徴を説明できる
10回	回復期の理学療法	片麻痺患者のADLについて説明できる
11回	維持期の理学療法	片麻痺患者の自己管理方法を説明できる
12回	理学療法評価	片麻痺患者の理学療法評価の流れを説明できる
13回	理学療法評価	SIASを実施できる
14回	合併症	肩手症候群、CRPSなど、脳卒中後片麻痺の合併症について説明できる
15回	脳画像	脳血管障害の一般的な画像の判読ができる

成績評価	筆記試験100%
課題やレポートに関するフィードバック	課題は個別にフィードバックします
使用教材教科書	神経障害理学療法学Ⅰ 第2版 中山書店 大畑光司 病気がみえる⑦ 脳・神経 医 療情報科学研究所 メディックメディ 随時、担当教員が作成したプリント、課題を使用
オフィスアワー	授業前後およびメール k-sato@nichireha.ac.jp

		理学療法学科 昼間部			
科目	疾患別Ⅱ B	単位	1	コマ数	8
担当講師	高林 礼子	学 年		2年生	
資格	理学療法士				

科目概要	わが国では急速に高齢化が進み、高齢者が理学療法の対象となる頻度も多くなっている。高齢者に対する理学療法を实践する上で高齢者の特徴の理解や必要な評価、トレーニングの理論などに重きを置いて授業を進める。実例などを交え、具体的なアプローチなどを学ぶ。				
学習の留意点	日本では高齢者が増え続けている。おのずと、実習や臨床に出たときに、高齢者への理解が必要である。特に身の回りに高齢者がいない生徒には、自分たちと高齢者はどのようにちがうのか、その特徴などの理解をいかに深めるかを考えてほしい。				
到達目標	1. 高齢者の特徴を理解し、説明できる。2. 高齢者に対する機能評価を理解し、説明できる。 3. 高齢者に対する理学療法とそのエビデンスを理解し効果的な関わり方を理解する。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	内科・老年学	0		0	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	高齢者の特徴①	高齢者の基礎、老年症候群、フレイルとサルコペニアなど
2回	高齢者の特徴②	認知症、転倒などの理解
3回	加齢に伴う心身機能の変化①	生理的变化、体力や姿勢の変化など
4回	加齢に伴う心身機能の変化②	精神心理・認知機能の変化など
5回	高齢者の機能評価①	身体機能、生活活動能力評価、生活機能評価
6回	高齢者の機能評価②	認知機能や精神・心理機能評価、QOL・社会活動の評価
7回	高齢者に対する理学療法①	筋力、持久力、バランス、歩行トレーニング、身体活動促進に対するアプローチ
8回	高齢者に対する理学療法②	転倒・骨折予防、認知症予防

成績評価	毎回、A4用紙1枚程度のレポートを書いてもらうもしくは小テストを行い、それが3割。試験が7割。 合わせて6割以上の点数となったものを合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	提出されたレポートや小テストの結果をチェックしたのち返却し、どこが理解できていないかを知ってもらう。
使用教材教科書	参考書：高齢者理学療法学（Crosslink 理学療法学テキスト） 池添 冬芽（編集） メジカルビュー社 高齢者理学療法学テキスト(改訂第2版) 細田多穂（監修），山田和政，小松泰喜，木林勉（編集） 南江堂
オフィスアワー	メールでの連絡は随時r-takabayashi@nichireha.ac.jp 担当授業の前後

		理学療法学科 昼間部			
科目	疾患別理学療法Ⅲ－A	単位	1	コマ数	15
担当講師	齋藤 雄	学 年		2年生	
資格	理学療法士・修士(老年学)				

科目概要	「難病」と呼ばれる神経・筋疾患の症例は、臨床の現場でも担当する機会が大変多くある。原因は様々で、まだ解明されていない疾患も大変多く存在する。数ある神経・筋疾患の中でも、臨床の現場で比較的多く見られる疾患にフォーカスし、病態理解、リハビリテーション評価と治療プログラムについて講義を行なう。		
学習の留意点	難病は進行性のものや、命に直結する疾患が多く存在する。場合によっては、近いうちに亡くなってしまう方のリハビリテーションを行わなくてはいけない場面もある。その際、理学療法士の知識や技術に加え、対象者やその家族の心理的側面の理解や、人間としての振る舞い方や言動などが大いに求められる。病態や理学療法の知識・技術だけでなく、求められる人間性や人間力も学んでいく必要がある。なお、授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位は与えない。また、講義の進捗状況により講義内容を変更することがある。		
到達目標	1. 各疾患の病態や特徴を述べることができる。 2. 各疾患の障害構造を評価するための評価項目が選択できる。 3. 各疾患の理学療法プログラムを立案できる。		
授業形態	講義	対面	
関連科目	“生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・実習,内科老年学Ⅰ・Ⅱ,病理学概論,神経内科学”		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	総論・神経系の構造と機能①	授業の目的、神経系の構造と機能を学習する
2回	神経系の構造と機能②	神経系の構造と機能を学習する
3回	筋萎縮性側索硬化症①	病態と症状を理解する
4回	筋萎縮性側索硬化症②	障害像を理解する
5回	筋萎縮性側索硬化症③	評価とリスク管理、理学療法を学習する
6回	重症筋無力症①	病態と症状、障害像を理解する
7回	重症筋無力症②	評価とリスク管理、理学療法を学習する
8回	ポリオ	病態と症状、障害像を理解し、評価とリスク管理、理学療法を学習する
9回	Parkinson病①	病態と症状を理解する
10回	Parkinson病②	障害像を理解する
11回	Parkinson病③	評価とリスク管理を学習する
12回	Parkinson病④	実際の理学療法を学習する
13回	脊髄小脳変性症①	病態と症状、障害像を理解する
14回	脊髄小脳変性症②	評価とリスク管理、理学療法を学習する
15回	まとめ	各疾患における病態・症状・障害像、評価・理学療法を説明することができる

成績評価	定期試験：筆記試験100％
課題やレポートに関するフィードバック	必要に応じて、授業内で全体に行う。
使用教材 教科書	・教科書:病気がみえる vol.7 脳・神経. 医療情報科学研究所. MEDIC MEDIA ・参考書:Crosslink 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ. 中山恭秀 他. MEDICAL VIEW
オフィスアワー	質問は基本的に対面で、授業前後であれば対応可能。

		理学療法学科 昼間部			
科目	疾患別理学療法Ⅲ－B	単位	1	コマ数	15
担当講師	齋藤 雄	学 年		2年生	
資格	理学療法士・修士(老年学)				

科目概要	「難病」と呼ばれる神経・筋疾患の症例は、臨床の現場でも担当する機会が大変多くある。原因は様々で、まだ解明されていない疾患も大変多く存在する。数ある神経・筋疾患の中でも、臨床の現場で比較的多く見られる疾患にフォーカスし、病態理解、リハビリテーション評価と治療プログラムについて講義を行なう。		
学習の留意点	難病は進行性のものや、命に直結する疾患が多く存在する。場合によっては、近いうちに亡くなってしまう方のリハビリテーションを行わなくてはいけない場面もある。その際、理学療法士の知識や技術に加え、対象者やその家族の心理的側面の理解や、人間としての振る舞い方や言動などが大いに求められる。病態や理学療法の知識・技術だけでなく、求められる人間性や人間力も学んでいく必要がある。なお、授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位は与えない。また、講義の進捗状況により講義内容を変更することがある。		
到達目標	1. 各疾患の病態や特徴を述べることができる。 2. 各疾患の障害構造を評価するための評価項目が選択できる。 3. 各疾患の理学療法プログラムを立案できる。		
授業形態	講義	対面	
関連科目	“生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・実習,内科老年学Ⅰ・Ⅱ,病理学概論,神経内科学”		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	脱髄性疾患	病態と症状、障害像を理解する
2回	多発性硬化症①	病態と症状、障害像を理解する
3回	多発性硬化症②	評価とリスク管理、理学療法を学習する
4回	末梢神経障害	病態と症状、障害像を理解する
5回	Charcot-Marie-Tooth病①	病態と症状、障害像を理解する
6回	Charcot-Marie-Tooth病②	評価とリスク管理、理学療法を学習する
7回	Guillain-Barré症候群①	病態と症状を理解する
8回	Guillain-Barré症候群②	障害像を理解する
9回	Guillain-Barré症候群③	評価とリスク管理、理学療法を学習する
10回	筋疾患	病態と症状、障害像を理解する
11回	筋ジストロフィー①	病態と症状を理解する
12回	筋ジストロフィー②	障害像を理解する
13回	筋ジストロフィー③	評価とリスク管理、理学療法を学習する
14回	多発性筋炎・皮膚筋炎	病態と症状、障害像を理解し、評価とリスク管理、理学療法を学習する
15回	まとめ	各疾患における病態・症状・障害像、評価・理学療法を説明することができる

成績評価	定期試験：筆記試験100％
課題やレポートに関するフィードバック	必要に応じて、授業内で全体に行う。
使用教材 教科書	・教科書:病気がみえる vol.7 脳・神経. 医療情報科学研究所. MEDIC MEDIA ・参考書:Crosslink 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ. 中山恭秀 他. MEDICAL VIEW
オフィスアワー	質問は基本的に対面で、授業前後であれば対応可能。

		理学療法学科 昼間部			
科目	疾患別理学療法ⅣA【呼吸器】	単位	1	コマ数	15
担当講師	鍋城 武志	学 年		2年生	
資格	理学療法士免許				

科目概要	人口構造の高齢化に伴う呼吸器疾患患者の増加は世界的規模である。慢性閉塞性肺疾患は死亡原因の第3位である。呼吸リハビリテーションは多くのエビデンスが集積され、特に運動療法の継続が重要視されている。本授業では呼吸器疾患の理学療法ができるようになるために、呼吸器疾患の病態、評価、理学療法について実技を交えて解説する。				
学習の留意点	呼吸リハビリテーションの定義、呼吸不全の原因、評価、リスク管理や国家試験の範囲を中心に授業を展開します。解剖学、生理学、運動学に自信のない学生は積極的に復習を行い、授業中理解できない点は後回しにせず質問をしてください。 定期試験では記述問題があります。学習した内容を説明できるよう理解してください。				
到達目標	1．呼吸器疾患の病態を説明できる。 2．呼吸疾患疾患に必要な評価項目、治療項目を列挙できる。 3．呼吸器疾患の理学療法を理解できる				
授業形態	講義		対面		
関連科目	解剖学		生理学		運動学
	内科学・老年学Ⅰ		検査測定法Ⅰ		運動生理学

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	呼吸リハビリテーションとは	呼吸リハビリテーションの歴史、定義、適応等を理解できる
2回	呼吸器基礎①	呼吸器の解剖学・生理学・運動学・病態を理解できる
3回	呼吸器基礎②	呼吸器の解剖学・生理学・運動学・病態を理解できる
4回	呼吸機能検査	スパイログラム、フローボリューム曲線を理解できる
5回	フィジカルアセスメント①	視診・問診・触診・打診・聴診を理解できる
6回	フィジカルアセスメント②	6分間歩行テスト、Shuttle Walking Test、ADL・QOL評価を理解できる
7回	呼吸理学療法①	コンディショニング、運動療法、ADL指導を理解できる
8回	呼吸理学療法②	コンディショニング、運動療法、ADL指導を理解できる
9回	酸素療法	酸素療法の種類、在宅酸素療法を理解できる
10回	人工呼吸器	種類、構造、換気モード、病態を理解できる
11回	急性期の呼吸リハビリテーション	周術期呼吸リハビリテーション 人工呼吸器管理での呼吸リハビリテーションを理解できる
12回	安定期の呼吸リハビリテーション	COPD患者に対する呼吸リハビリテーションを理解できる
13回	吸引①	意義、感染対策を理解できる
14回	吸引②	吸引の実技を実施する
15回	画像診断まとめ	画像診断の方法を知る 15回の復習

成績評価	定期試験100点満点中60点以上で合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	後日提示
使用教材 教科書	中山書店 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学呼吸 第3版
オフィスアワー	水曜日が研修日のため、それ以外の日は対応可能 詳細は後日提示 学校メール：t-nabeki@nichireha.ac.jp

		理学療法学科 昼間部			
科目	疾患別理学療法IVB	単位	1	コマ数	15
担当講師	高瀬 慎輔	学 年		2年生	
資格	理学療法士				

科目概要	内部障害は外部からは障害があることが分かりにくい疾患である。身体の中で何が起きているかを理解し、理学療法士にとって重要なリスク管理に活かす知識を得るとともに、循環・代謝疾患別のそれぞれの治療について学ぶ				
学習の留意点	理学療法では、いかにしたらできるようになるかという障害学的分析に加えて、なぜそのような状態なのか、その症状や症候はどこから来ているのか、医学的情報を収集し、病態生理を理解する症候学的分析も重要である。「症状の正しい観察」こそが臨床理学療法の第一歩であり、観察を通じた患者の理解こそが内部障害理学療法の最大の醍醐味でもある。 本授業では、循環代謝障害に対する理学療法について、病態の理解、評価、理学療法等を解説する。授業方法は、「講義」「ケーススタディ」「ディスカッション」「グループ発表」で構成される。他者の意見や考えも取り入れながら理解を深める努力が必要である。				
到達目標	1. 各疾患の病態を説明し、評価、理学療法、リスク管理ができる。 2. 心電図から不整脈の種類とリスク管理を説明できる。 3. 適切な運動強度を接客できる。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	疾患別理学療法IVA	生理学Ⅰ		生理学Ⅱ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	心リハの概要	目的や効果を理解できる
2回	起立性低血圧	正常な反応と原因について理解し説明できる
3回	虚血性心疾患①	心不全のメカニズムを理解できる
4回	虚血性心疾患②	心疾患の理学療法を提案できる
5回	不整脈と心電図①	刺激伝導系を理解できる
6回	不整脈と心電図②	正常洞調律を理解できる
7回	不整脈と心電図③	心房細動、心房粗動、期外収縮を理解できる
8回	不整脈と心電図④	ブロック波形を説明できる
9回	不整脈と心電図⑤	虚血と梗塞の心電図を理解できる
10回	代謝疾患①	評価、低血糖の危険を説明できる
11回	代謝疾患②	糖尿病の病態と合併症を説明できる
12回	代謝疾患③	運動療法を説明できる
13回	代謝疾患④	食事療法を説明できる
14回	代謝疾患⑤	薬物療法を説明できる
15回	代謝疾患⑥	糖尿病療養指導能力が身に着く

成績評価	定期試験を含む総合点で6割以上のものを合格とする
課題やレポートに関するフィードバック	FBは全体に実施する
使用教材 教科書	プリントにて資料配布
オフィスアワー	毎週月曜日12時～13時

		理学療法学科 昼間部			
科目	理学療法技術論Ⅰ	単位	1	コマ数	15
担当講師	黒木光	学 年		2年生	
資格					

科目概要	理学療法技術論は、理学療法士が対象者の機能障害に対し、運動療法などの具体的な技術を用いてアプローチするための基礎を学ぶ科目です。本科目では、運動学、生理学、解剖学に基づいた評価・治療の原則を理解し、基本的な理学療法技術に加え、臨床で有用なスキルを習得します。				
学習の留意点	この講義を最大限に活かすために、皆さんには、以下の点を意識し工夫していただきたいと思います。まず、講義へ積極的に参加することで、学びを深める第一歩を踏み出しましょう。質問や意見交換を通して理解を深めると共に、講義内容を自分の経験や周囲の事例と関連付け、現実世界とのつながりを見出すことで、より深い理解が得られます。講義内容をノートにまとめたり、参考文献を読んだりするなど、能動的な学習も心がけましょう。また、様々な発達段階や背景を持つ人々への理解を深め、多様性を尊重する視点を持つことも重要です。そして、わからないことはそのままにせず、積極的に質問し、疑問点を解消するように努めましょう。これらの点を意識することで、講義内容の理解が深まり、人間発達学の知識をより効果的に活用できるようになるでしょう。				
到達目標	①基礎知識の習得：運動学・解剖学に基づいた、理学療法技術の理論的根拠を理解できる。 ②基本技術の習得：主要な理学療法技術（運動療法、物理療法）を安全かつ正確に実施できる。 ③臨床応用力の基盤：対象者の状態を評価し、適切な理学療法技術を選択・応用するための思考力をつける。				
授業形態	実習			対面	
関連科目	解剖学	運動学		生理学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	筋骨格系理学療法に対するアプローチの概要	概要のキーポイントを3つ挙げて、説明できる。
2回	身体機能評価	立位姿勢の観察ができる。
3回	身体機能評価	立位姿勢の所見から、検査項目を挙げることができる。 その理由についても説明できる。
4回	身体機能評価	上肢の自動運動の評価を説明できる。 自動運動の検査を実施できる。
5回	身体機能評価	下肢の自動運動の評価を説明できる。 自動運動の検査を実施できる。
6回	身体機能評価	上肢の筋長の評価ができる
7回	身体機能評価	下肢の筋長の評価ができる
8回	身体機能評価	協調動作の観察ができる。
9回	Post Isometric Relaxation	上肢帯のPIRが実施できる。
10回	Post Isometric Relaxation	下肢帯のPIRが実施できる。
11回	体幹の評価と治療	呼吸と体幹安定性の理論を説明できる。
12回	体幹の評価と治療	呼吸と体幹安定性の理論を説明できる。 治療を実施できる。
13回	ペアで評価治療の演習	モデルを対象に評価治療の流れを実践できる
14回	ペアで評価治療の演習	モデルを対象に評価治療の流れを実践できる
15回	評価と治療の発表	実技の発表ができる

成績評価	授業課題、実技発表の評価で、6割以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	授業時に復習機会を設けてフィードバックする
使用教材 教科書	参考書： ヤンダアプローチ マッスルインバランスに対する評価と治療 三輪書店 運動機能障害症候群のマネジメント 医歯薬出版株式会社
オフィスアワー	毎週月曜日17時～18時

		理学療法学科 昼間部			
科目	理学療法技術論Ⅳ（PNF）	単位	6	コマ数	15
担当講師	内山 結城	学 年		2年生	
資格	内山：実務経験18年。IPNFA(国際PNF協会)認定セラピスト。 病院施設スポーツ整形クリニック等での経験後、現在はスポーツトレーナーとしても選手のケアや技術向上に携わっている。				

科目概要	PNF（固有需要性神経筋促通法）はDr. カバットと理学療法士であるマギーノットにより開発された治療コンセプトである。元々はポリオの治療に開発されたが、現在では脳性麻痺や中枢神経疾患だけではなく整形分野にも取り入れられており、特に日本においてはスポーツ分野で応用が注目されている。今インターネット検索するといろいろなPNFの情報がみつかるが、中には間違った情報も多い。本授業ではIPNF A認定セラピストによって正しい国際基準のPNFフィロソフィー、基本原理、パターン、テクニックを講義と実技を通して学んでいくとができる。本授業は「講義」、「実技」、「グループ（ペア）ワーク」で構成されている				
学習の留意点	1年次では様々な運動療法の種類や特性を学んだが、この授業ではその武器の使い方をPNFを通して身に着けていく				
到達目標	各病態を理解し基本的な運動療法を学習する。 ①運動療法の意義・目的を説明できる。 ②必要に応じた運動療法を選択することができる ③各病態を理解し基本的な運動療法を実施することができる。=授業設計シートID33				
授業形態	講義		対面		
関連科目	解剖学	生理学		運動学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	総論	PNFの歴史と概要を説明できる
2回	フィロソフィー	PNFフィロソフィー（大項目5つ）を説明できる
3回	基本原理①	虫様筋握り、適切なタッチを実施できる
4回	基本原理②	内・外受容性刺激
5回	肩甲帯パターン	前方挙上、後方下制 イニシエーションとレプリケーションを実施できる
6回	肩甲帯パターン	前方下制、後方挙上 イニシエーションとレプリケーションを実施できる
7回	骨盤帯パターン	前方挙上、後方下制 イニシエーションとレプリケーションを実施できる
8回	骨盤帯パターン	前方下制、後方挙上 イニシエーションとレプリケーションを実施できる
9回	上肢パターン	伸長刺激、牽引、内・外受容性刺激、ストレッチテクニック、強調のタイミング 屈曲・外転・外転のストレートパターンを実施できる
10回	上肢パターン	伸長刺激、牽引、内・外受容性刺激、ストレッチテクニック、強調のタイミング 伸展・内転・内旋ストレートパターンを実施できる
11回	下肢パターン	コンビネーションアイソトニック、ダイナミックリバーサルを用いながら屈曲・内転・外旋の膝を曲げながらのパターンを実施できる
12回	下肢パターン	コンビネーションアイソトニック、ダイナミックリバーサルを用いながら伸展・外転・内旋膝を伸ばしながらのパターンを実施できる
13回	マットアクティビティー	歩行誘導、LR, MST、TST, PSW、マスイクステンション、マスイクステンションが実施できる
14回	スタビライジングテクニック	疾患への応用を考えながらスタビライジングテクニックを実施できる
15回	まとめ	これまで学んだすべてのパターンとテクニック、基本原理を実施できる

成績評価	小テスト30%、グループ（ペア）ワーク20%、本試験50%（実技）
課題やレポートに関するフィードバック	授業序盤あるいは終盤に小テストを行う。
使用教材 教科書	臨床に役立つPNF 松田 現 運動と医学の出版社 担当教員が作成した配布プリントを使用、随時、評価記録用紙などを配布
オフィスアワー	基本火曜日15：30～17：00 ※木曜日以外のスケジュールが空いている時間は対応いたします

		理学療法学科 昼間部			
科目	臨床見学実習Ⅰ	単位	1	コマ数	45
担当講師	理学療法学科全教員	学 年		2年生	
資格	理学療法士				

科目概要	臨床見学実習Ⅱでは、1年次・前期科目で学習したリハビリテーションの役割、理学療法士の仕事内容、について実際に理学療法士の下で考え方や治療法などを実習する。 基礎医学・検査法を学んで理学療法士の施設での役割や仕事内容を見学することにより、自身の将来像を思い描き、どのような理学療法士を目指すのか目標を立てる3年次につなげる。 臨床見学実習Ⅱでは主に医療機関、介護福祉施設や通所介護・訪問リハなどの見学実習となる。				
学習の留意点	医療人としてふさわしい態度がとれているかどうかを最重要としてご指導ください。その上で、1年次から2年次の学びを踏まえて、より知識・技術が定着するようご指導ください。 現場の状況や学生の学びに資すると考えられる状況であれば、一部検査測定等の理学療法評価も実施機会が得られるようご配慮下さい。 3年次から長期の実習になり、各種理学療法評価・理学療法治療学、臨床医学等の知識・技術を総合的に学び、主体的に学ぶ姿勢等も問われてきます。事後の学内発表等で、より理解が深まるよう、臨床推論等も学生の能力に合わせ、ご指導下さい。				
到達目標	臨床現場では、実習生であっても礼節や態度、挨拶や身だしなみ等に気を付け、社会人として常識のある行動・態度で臨むことが求められる。そのため、普段から医療人として相応しい接遇・態度・行動に気を付け普段の生活から実践することが求められる。前期の授業から臨床見学実習に出るための学習を行い、理学療法士の業務内容、医療者としての考え方などを復習したうえで実習に臨むこと。 1．臨床現場の理学療法士の役割、具体的な仕事内容を説明できる。 2．病院・介護・福祉現場で働く専門職としての心構えを理解し、説明できる。 3．この見学から何を不得、今後何に取り組むべきかを明確にし、説明できる。 4．患者・利用者とのコミュニケーションを通じて、理学療法士に求められるものを学ぶ。				
授業形態	実習		対面		
関連科目	解剖学・生理学・運動学	検査測定法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		臨床医学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	1）病院・施設の理学療法士から、各施設での理学療法士の役割を学ぶ。 2）医療者として理学療法士の持つ責任と心構えについて学ぶ。 3）理学療法士が患者・利用者に対し、どのような接し方をしているか学ぶ。 4）患者・利用者とのコミュニケーションを通して、理学療法士に求められるものを学ぶ。 5）多職種との連携について学ぶ。 6）医療における礼節・態度・接遇について学ぶ。	
2回		
3回		
4回		
5回		
6回		
7回		
8回		
9回		
10回		
11回		
12回		
13回		
14回		
15回		

成績評価	臨床実習指導者の評価および担当教員の評価、提出物、学内発表の内容を踏まえて総合的に判断する。
課題やレポートに関するフィードバック	実習後、学内にて発表・課題提出を行い、事後にフィードバックする。
使用教材 教科書	学校指定ケーシー、白靴、実習にふさわしい身だしなみが必要。施設によるが、通院時はスーツ着用。学生評価表やデイリーノート、出欠表など実習書類を持参する。
オフィスアワー	担任や理学療法学科教員

理学療法 学科 昼間 部			
科 目	医学英語	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	黒木豊域	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	米国ユタ州プロボ市ワサチ・メンタルヘルスセンターでのセラピストの経験をもとに、クライアントと英語での対話の訓練を行ないます。	

授業の位置づけ	グローバル化するわが国において、外国人観光客・在留外国人は年々増加傾向にある。これに伴い、PT・OTが外国人患者への支援行う機会の増大が見込まれている。この科目では、PT・OTが、英語にて患者に接し、医療用語を用いてリハビリ現場で会話ができるようになることを目指す。すなわち、最初の接遇からはじまり、問診、説明、肢位の指示などの特定の状況における会話を英語でできるようになるために、ロールプレイ演習を行う。中学や高等学校教育の英語と異なり、会話する英語の習得を目標とし、毎回の授業は声を出して話すことに焦点が当てられている。また、人体や施術に関わる英語の専門用語を習得することも目標としている。		
到達目標	1．人体に関してや一般的な医療用語の英単語を覚え活用することができる 2．支援現場において用いることのできるフレーズを活用できる 3．支援現場における英会話を構成し、活用できる。		
授業形態	講義・演習		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	Introduction	シラバスの説明、 ロールプレイ：笑顔と挨拶
2回	問診 1	ロールプレイ：痛む部位を聞いてみよう 次回の単語
3回	問診 2	ロールプレイ：痛みの種類や程度を聞いてみよう 単語テスト 1
4回	問診 3	ロールプレイ：痛みの経過を聞いてみよう 次回の単語
5回	肢位設定	ロールプレイ：基本的な肢位を指示してみよう 単語テスト 2
6回	評価 1	ロールプレイ：バイタルサインを確認しよう 次回の単語
7回	評価 2	ロールプレイ：自動稼動域を測定してみよう 単語テスト 3
8回	評価 3	ロールプレイ：筋力を測定してみよう 次回の単語
9回	評価 4	ロールプレイ：歩行評価をしてみよう 単語テスト 4
10回	移乗動作	ロールプレイ：移乗動作の練習をしてみよう 次回の単語
11回	治療	ロールプレイ：ホームエクササイズの指導 単語テスト 5
12回	Long Play	試験のためのロールプレイの計画
13回	Long Play	試験のためのロールプレイの練習
14回	試験	単語試験 とLong Play試験
15回	試験	単語試験 とLong Play試験

成績評価	ロールプレイ 30 単語テスト 25 定期試験 単語 25 Long Play 20 総合 100%から学校の評価規準に準じて成績評価とする。	受講上のルール・留意点	・英単語を覚える ・表情豊かに大きな声で発表する
------	--	-------------	-----------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
ロールプレイは、ペアごとにの発表を評価票を用いて評価する。フィードバックは発表終了後に行なう。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書	PT・OTが書いたリハビリテーション英会話	三木貴弘ほか	MEDICAL VIEW
オフィスアワー	授業終了後		

理学療法学科 昼間 部			
科 目	解剖学Ⅳ	単位・時間数	1単位 ・ 30時間
担当講師	外部講師／PT教員	学 年	2年生及び3年生
実績経験	資格	大学医学部、歯学部解剖学講座の教員	

授業の位置づけ	本授業は大学医学部、歯学部のご協力のもと、「骨格系・筋肉系・神経系」を中心とした人体の基本構造を学び、三次元的に理解し、医の倫理、生命の尊厳を自ら学びとることを目標としている。 今まで学習した解剖学、生理学について、復習しておくこと。 大学施設にて「講義」「実習」を行う。		
到達目標	1．人体の構造と機能について、基本構造を説明することができる。 2．医療従事者を目指す者として、医の倫理を理解し、生命を尊厳を尊厳することができる。		
授業形態	講義・演習・実習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	解剖見学実習①	「骨格系・筋肉系」の構造について
2回	解剖見学実習②	「神経系」の構造について
3回	事前学習	骨格、関節と靱帯
4回	事前学習	骨格、関節と靱帯
5回	事前学習	筋系
6回	事前学習	筋系
7回	事前学習	神経系
8回	事前学習	神経系
9回	事前学習	内臓系
10回	医の倫理①	医の倫理について
11回	医の倫理②	生命の尊厳について
12回	解剖見学実習③	骨格、関節と靱帯
13回	解剖見学実習④	筋系
14回	解剖見学実習⑤	神経系
15回	解剖見学実習⑥	内臓系

成績評価	レポート課題100%	受講上のルール・留意点	実習に臨むにあたり、礼節を保ち、医療従事者を目指す者として態度に十分気をつけること。
------	------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
レポート課題について、フィードバックは全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	授業で使った解剖学、生理学等の教科書		
参考書	授業で使った解剖学、生理学等の教科書		
オフィスアワー	担当授業の前後		

理学療法学科 昼間部			
科目	社会学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	千田 佳遠里	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	人間が社会性を再び獲得する重要性を、国立障害者リハビリテーションセンターの勤務経験をふまえ、医学的リハビリから社会的リハビリの訓練過程の実例を示しながら講義に活用している。	
	高等学校教員社会一種免許		

授業の位置づけ	人間がいかにして社会的存在となり、市民社会の一員となっていくのか、家族集団を中心に社会集団を通して考察する。 社会事象を正確に捉え、自分と社会の関係をも把握していく。さらに、違いをもった人間どうしが共生できる社会について解説し学びを深めていく。		
到達目標	人間は社会の中でしか生きていくことができない。ゆえに、文化を学習し社会的人間となる意義と共生社会の重要性について理解できるようになる。		
授業形態	講義	対面	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	リハビリテーションと社会学	リハビリテーションは人間の尊厳と社会性を取り戻す働きかけ
2回	社会学とはどのような科学か	関係の科学社会学、社会の概念、社会学の成立、
3回	社会学の基本概念	集団の概念・類型、基礎集団と機能集団、社会学の対象領域、医療社会学
4回	コミュニケーション論	コミュニケーションのとり方、他者との出会い、グループワーク
5回	コミュニケーション論	効果的コミュニケーション、グループワーク、自己開示、相互理解
6回	人口減少社会を考える	日本の総人口、人口推計、感染症との共存
7回	社会的人間	社会的人間の形成、社会化の概念、文化の概念、パーソナリティーの概念
8回	社会的人間	文化の構造、顕在的文化・潜在的文化、言語的社会化
9回	社会的人間	文化の機能、パーソナリティーの形成、社会化のメカニズム、
10回	社会学で考える 人権	感性で捉える人権、人権とは何か、人権の三本柱、グループワーク
11回	社会学で考える 人権	差別の本質・構造、差別行為、多様性と異質性を受け入れる共生社会
12回	基礎集団 家族	家族の概念・特質、 家族形態の変動「核家族化・小家族化」
13回	基礎集団 家族	家族の実態「世帯構造と世帯状況、貧困世帯の現状」、家族の変動と現代化
14回	基礎集団 家族	家族機能の縮小化、家族の構造とジェンダーの視点
15回	日本の現状と抱える問題点	日本の人口動態・人口構造、少子高齢人口減少社会の動向、格差社会等

成績評価	試験50％、レポート50％ 原則として60点以上で合格とする	受講上のルール・留意点	授業時間の3分の1以上欠席した者には単位を与えない
------	-----------------------------------	-------------	---------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
必要に応じて対応する

	書名	著書名	出版社名
教科書	概要を冊子にしたもの及びPPT資料を配布		
参考書	放送大学 社会学入門、 人権読本-じんけんの詩、他	森岡清志、他 今野俊彦編著	NHK出版 明石書店
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	精神医学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	河邊 宗知	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	実務経験 22年 作業療法士として、精神科病院、精神科訪問看護、発達支援センターにで臨床を行う。また作業療法士養成機関で教員を努めている。	
	作業療法士/公認心理師		

授業の位置づけ	理学療法の臨床においても、精神障害を持つ患者や、高齢期の患者は多く、基本的な精神医学の知識は必要であると思われる。また、理学療法士国家試験においても、問題数も多く必要な知識であるといえる。 1. 精神障害に対して、症状の特徴、経過、基本的知識を習得する。 2. 精神障害者を同じ社会で生きる人として、全人的に理解し、将来的にリハビリテーションを提供する臨床家としてかかわるために基本的知識を習得する		
到達目標	精神医学の歴史および現状について説明することが出来る 主要な精神疾患の症状について説明することが出来る 精神疾患の経過や治療、生活上の困難さについて説明できる		
授業形態	講義	併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	総論	精神障害と診断基準（従来の診断法と操作的診断法：ICD、DSM）、精神医学の歴史、脆弱性ストレスモデル
2回	総論	精神機能の障害と精神症状（意識、注意、知能、パーソナリティ、記憶、感情、自我障害、知覚障害、思考障害、病識）
3回	総論	てんかん（分類、症状）
4回	疾患論	依存症（アルコール、その他の物質使用障害、嗜癖行動障害）
5回	疾患論	認知症、高次脳機能障害
6回	疾患論	統合失調症①（主要な精神症状、精神症状の特徴）
7回	疾患論	統合失調症②（症状と生活障害、治療、リハビリテーション）
8回	疾患論	気分障害①（大うつ病）
9回	疾患論	気分障害②（双極性障害、その他の気分障害）
10回	疾患論	神経症性障害①（不安、強迫、ストレス関連障害、解離性障害）
11回	疾患論	神経症性障害②（身体表現性障害、その他の神経症性障害）生理的障害（摂食障害他）
12回	疾患論	パーソナリティ障害（パーソナリティ概説、ICD・DSMに基づく障害分類、治療・援助）
13回	疾患論	生理的障害（摂食障害、睡眠障害ほか）、行動の障害、性の障害
14回	疾患論	器質性精神障害（認知症ほか）
15回	総論	精神科リハビリテーション、コンサルテーション・リエゾン精神医学、多職種連携、精神専門療法、作業療法・理学療法との関連について

成績評価	定期試験80% 授業での課題、授業内での確認テスト20%	受講上のルール・留意点	授業内で適宜課題や知識確認テストを行うため、授業ごとにその内容の理解を深め、不明な点は質問をしていただきたい。
------	---------------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
授業内容の理解を深めるため、授業内で課題の実施や、知識確認テストを行う。結果については、次回の授業で補足、フィードバックを行う予定。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学第4版増補版	編集：上野武治	医学書院
参考書	授業毎の配布資料		
オフィスアワー	主として、授業内、授業前後の時間に質問を受け付ける。 必要に応じて、メールでの連絡をしていただきたい m-koube@nichireha.ac.jp		

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	リハビリテーション医学概論Ⅱ	単位・時間数	2単位・ 30時間
担当講師	高瀬 慎輔 /石川 秀志	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	高瀬：理学療法士として、回復期病棟、急性期病院、デイサービス、障害者福祉施設、介護予防事業、訪問リハ、教育機関に携わった実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士（高瀬） 文学博士・キャリアコンサルタント（石川）		

授業の位置づけ	リハビリテーション医学基礎知識修得。更には、リハビリテーションと深い関連を有する福祉・医療・保健等について知識の修得。		
到達目標	リハビリテーションの各論を知る前の概論を知り、医療福祉保健の知識習得さらに、理学療法士のかかわりについて理解する		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	リハビリテーションの定義	リハビリテーションの定義について復習する
2回	リハビリテーションにおけるPTの役割	ケース1
3回		ケース2
4回		ケース3
5回	リハビリテーションにおけるPTの役割	ケース4
6回		ケース5
7回		ケース6
8回	保健・福祉分野	社会福祉とは 憲法の13条・25条を考えてみる
9回		社会福祉の歴史 日本の社会福祉の歴史
10回		社会福祉の歴史 ヨーロッパにおける社会福祉の歴史
11回		社会福祉法制と行財政
12回		最低生活保障と生活保護制度
13回		児童家庭福祉の課題
14回		障害者総合支援法 障がい者の自立と福祉
15回		高齢者の生活と福祉

成績評価	高瀬：レポートにて評価（50%） 石川：	受講上のルール・留意点	筆記用具ノートなどを準備して必要に応じて記録などをしましょう。
------	-------------------------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
講義時間内もしくは講義後に対応

	書名	著書名	出版社名
教科書（高瀬）	なし（資料配布します）		
教科書			
オフィスアワー	担当授業の前後		

理学療法学科 昼間部			
科 目	公衆衛生	単位・時間数	1単位・ 15時間
担当講師	今井敏夫	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	大学において長年にわたり衛生・公衆衛生学並びに生理学の講義・実習に携わっていた。日本歯科大学 名誉教授	
	歯学博士 薬剤師		

授業の位置づけ	公衆衛生学は人間の疾病や健康の事象と環境要因との係わり合いを考究する科学である。ここでは家族、地域社会の背景を見極めることによって予防医学的、社会医学的視野を広げ、実践活動に役立つ知識を習得し将来の医療組織チームの一員となることを目標とする。		
到達目標	わが国の保健・医療・福祉の現状とその対策について、さらに関連する諸問題について考究できる能力を習得する		
授業形態	講義	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	公衆衛生学概論	公衆衛生学の歴史、公衆衛生学の考え方、健康と疾病の概念
2回	予防医学	予防医学の概念（第1・2・3次予防）健康を左右する諸要因、健康増進・ヘルスプロモーションについて
3回	保健統計	わが国人口の現状、人口静態・動態統計、生命表について
4回	疫学概論	疫学の概念及び疫学の方法論について
5回	感染症の予防	わが国の感染症の現状とその予防対策について
6回	食品と健康	食品衛生の現状及び健康との関わり合いについて
7回	生活習慣病	生活習慣病の疫学と予防対策について
8回	環境と健康	環境問題と健康との関わり合い、生活環境、地球環境問題について

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない。
------	----------	-------------	-------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

理学療法学科			昼 間 部
科 目	総合セミナー	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	高瀬 慎輔	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	理学療法士として、回復期病棟、急性期病院、デイサービス、障害者福祉施設、介護予防事業、訪問リハ、教育機関に携わった実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	今までに学んだ運動学の復習を通して理解を深めて評価実習につなげることができるようにする。 1. 歩行周期について説明できる。 2. 関節運動について説明できる。				
到達目標	運動学的知識を実習における統合と解釈に活用できる。				
授業形態	講義・演習		対面授業		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	筋力と重力	筋の活動張力と重力
2回	筋力と重力	ベクトル
3回	モーメント	モーメント トルク
4回	身体とてこ	1～3のてこについて
5回	関節の形状	各形状について
6回	四肢と体幹の運動	肩甲帯
7回	四肢と体幹の運動	肩関節
8回	四肢と体幹の運動	肘関節
9回	四肢と体幹の運動	手関節 手根骨
10回	四肢と体幹の運動	体幹
11回	四肢と体幹の運動	股関節
12回	四肢と体幹の運動	膝関節
13回	四肢と体幹の運動	足関節 足根骨
14回	姿勢	姿勢とその制御
15回	歩行	歩行周期

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	授業中の説明を良く聞き、理解を深める
------	----------	-------------	--------------------

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 s-takase@nichireha.ac.jp		

理学療法学科 昼間部			
科目	病態運動学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	塩澤 和人	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	塩澤 和人： 実務経験 18年 理学療法士として、回復期・急性期病院、デイサービス、障害者福祉施設、介護予防事業、教育機関に携わった実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	日常生活の中で、効率よく円滑に基本的動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）を行うことは重要である。整形疾患、中枢神経系疾患その他の疾患において基本動作獲得を目指すうえで、異常姿勢・動作の理解は不可欠である。この授業では、姿勢・動作分析をととして異常姿勢や異常動作の仮説検証能力を身に付ける。		
到達目標	①障害によって起こる姿勢や運動の異常を分析し、原因を考えることができる。 ②改善に必要な治療プログラムの作成の手がかりを得ることができる。 ③異常姿勢や異常動作によって発生すると予想される二次的障害の対策の手がかりを得ることができる。		
授業形態	講義・実習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	姿勢分析	授業のオリエンテーション、姿勢分析のポイント
2回	動作分析	運動力学、動作分析のポイント
3回	寝返り	正常動作と異常動作
4回		演習
5回	起き上がり	正常動作と異常動作
6回		演習
7回	立ち上がり	正常動作と異常動作
8回		演習
9回	歩行	正常歩行と異常歩行
10回		演習
11回	整形疾患の症例検討	病態、異常動作、異常歩行
12回		演習
13回	中枢疾患の症例検討	病態、異常動作、異常歩行
14回		演習
15回	まとめ	総復習

成績評価	演習レポート：50% 筆記試験：50%	受講上のルール・留意点	演習ではジャージ、Tシャツ、短パン等の動ける服装で参加してください。
------	------------------------	-------------	------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
演習レポートは添削してフィードバックする。

	書名	著書名	出版社名
教科書	動作のメカニズムがよくわかる 実践 動作分析 第2版	監修：上杉雅之、編著：西守隆	医歯薬出版
参考書	標準理学療法学 病態運動学	編集：星文彦、新小田幸一、臼田滋	医学書院
オフィスアワー	担当授業の前後		

科 目	理学療法研究法		単位・時間数	1単位・15時間
担当講師	高林 礼子		学 年	3年生 前期
実績経験	資格	実務経験27年（総合病院・老人福祉施設・障害者施設・訪問等）の経験を踏まえて講義を行う。		
	理学療法士			

授業の位置づけ	リハビリテーションや理学療法における研究の意義を考え，研究に必要な基本的な知識や方法論を習得する．		
到達目標	研究の目的，研究様式，研究の流れ，方法について学ぶ．研究の倫理について学ぶ．文献の探し方，文献レビューの方法について学ぶ．また，模擬データを用いて，統計ツールにて検定を行う． 1．研究の一連の過程について説明することが出来る 2．各研究デザインの相違について説明することが出来る 3．研究倫理の重要性について説明することが出来る 4．文献レビューの重要性について説明し、文献検索を行うことが出来る 5．統計学の基本的事項（記述統計と推測統計、尺度、代表値、仮説検定等）について説明できる 6．統計ツールの基本的操作および統計ツールを用いて、基本的な統計処理を行うことが出来る		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	研究の進め方	研究とは？ 研究デザインの基礎知識
2回	研究データの集め方	研究データとは 研究データの集め方
3回	文献検索	文献を探す方法 【課題】課題：文献検索演習（医中誌WEB等を用いて）
4回	研究計画書を作成	研究計画書の作成
5回	調査研究/質的研究	アンケート調査（質問項目，選択肢の作成）
6回	データの分析法	量的研究のデータ分析
7回	データの分析法	質的研究のデータ分析
8回	発表に向けて	まとめ パワポや論文のまとめ方

成績評価	レポート	受講上のルール・留意点	データの分析の際には、出来たらエクセルの入ったP Cを準備
------	------	-------------	-------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
授業内容の理解を深めるため、必要に応じて、

	書名	著書名	出版社名
教科書	配布資料		
参考書	理学療法研究法	編著：対馬栄輝	石躍出版株式会社
オフィスアワー	授業前後 メールr-takabayashi@nichireha.ac.jp		

理学療法学科 昼間部			
科目	専門基礎医学演習Ⅰ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	外来講師	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	長年医療現場で臨床と教育に携わってこられた医師、理学療法士から講義を実施します。	

授業の位置づけ	専門基礎医学演習Ⅰでは、今まで修学した内容を振り返る。 1. 今まで修学した科目を振り返り、知識および技術の習得を目指す。 この授業で習得した学習方法をPBLやOSCEに活用する。		
到達目標	今まで修学した知識と技術を再確認し、習得できる		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画			
回数	項目	講義内容	
1回 ～ 15回	基礎医学	解剖学・生理学・運動学	
	基礎医学	解剖学・生理学・運動学	
	基礎医学	解剖学・生理学・運動学	
	基礎医学	解剖学・生理学・運動学	
	基礎医学	解剖学・生理学・運動学	
	臨床医学	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
	臨床医学	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
	臨床医学	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
	臨床医学	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
	臨床医学	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
	理学療法	理学療法の評価と技術	
	理学療法	理学療法の評価と技術	
	理学療法	理学療法の評価と技術	
	理学療法	理学療法の評価と技術	
	理学療法	理学療法の評価と技術	
成績評価	定期試験：筆記試験100%	受講上のルール・留意点	グループワークがメインとなるため他者に迷惑を かけないことを常に心がけること

課題やレポートに関するフィードバック
レポート課題は、授業中全体に対しフィードバックし、レポートは個別に対応する。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	検査測定セミナー（OSCE）	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	内山結城、塚本奈々子	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	・内山：実務経験17年。IPNFA(国際PNF協会)認定セラピスト。病院施設スポーツ整形クリニック等での経験後現在はスポーツトレーナーとしても選手のケアや技術向上に携わっている。	
	理学療法士	・塚本 奈々子 実務経験20年目。理学療法士として、総合病院、訪問リハ、デイケア、教育機関に勤務。実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	

授業の位置づけ	この授業では、基本的な理学療法評価法について、学生の小グループ（模擬患者・治療者・評価者役）に分かれて演習を行います。臨床実習Ⅰに必要なとなる知識・技術・コミュニケーションについて学習をする。臨床場面に即した患者を想定し、実践できるように講義・実技を行い 临床上必要な検査測定技能、機能障害に対する介入について学習する。 後日、臨床実習Ⅰに出る前に、各自に対して実技試験を実施します（日程は後日発表する）。		
到達目標	臨床に必要な知識・技術・態度について学習し実践できる。特にコミュニケーション能力は理学療法士にとって重要能力である。理学療法士に最低限必要な評価の検査測定法を身につけていること重要である。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	授業概要を説明し、グループの役割、OSCEの目的説明
2回		授業概要を説明し、グループの役割、OSCEの目的説明
3回	整形外科疾患①	整形外科疾患に対する検査項目の確認
4回	整形外科疾患②	整形外科疾患に対する検査項目の確認、演習
5回	整形外科疾患③	整形外科疾患に対する検査項目の確認、演習
6回	整形外科疾患④	整形外科疾患に対する検査項目の確認、演習
7回	整形外科疾患⑤	整形外科疾患に対する検査項目の確認、演習
8回	中枢神経疾患①	中枢神経疾患に対する検査項目の確認
9回	中枢神経疾患②	中枢神経疾患に対する検査項目の確認、演習
10回	中枢神経疾患③	中枢神経疾患に対する検査項目の確認、演習
11回	中枢神経疾患④	中枢神経疾患に対する検査項目の確認、演習
12回	中枢神経疾患⑤	中枢神経疾患に対する検査項目の確認、演習
13回	総合演習	理学療法評価の総合演習
14回	総合演習	理学療法評価の総合演習
15回	まとめ	総括

成績評価	レポート100%	受講上のルール・留意点	服装：上下ジャージ（短パン、Tシャツも可）、もしくは上下白衣でマスク着用、アクセサリ等貴金属を外す、髭は剃り、長い髪は束ねる スマートフォン：授業中は禁止（鞄に入れておく） 授業前準備：PC、プロジェクターにPC画面が映し出され、マイクはスピーカーから音が出る状態にしておく（授業前に内山にプリント等確認にくること） 授業に向かう姿勢：授業開始の号令から出席確認の間は私語厳禁（終礼時も同様）授業を妨げるような不真面目反抗的な態度は慎むこと
------	----------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
レポート課題は、授業中全体に対しフィードバックし、レポートは個別に対応する。

	書名	著書名	出版社名
参考書	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版	監修 才藤 栄一	金原出版株式会社
	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定法編 第2版補訂版	監修 才藤 栄一	金原出版株式会社
	OSCE/Post-CC OSCEに役立つ 医学生のための基本的臨床手技	車谷 典男，古家 仁（監修）	診断と治療社
オフィスアワー	授業時間以外で質問のある場合には、事前にメールで予約をしてください。 Mail：y-uchiyama@nichireha.ac.jp（内山）、n-tsukamoto@nichireha.ac.jp（塚本）		

理学療法 学科 昼 間 部			
科 目	運動動作解析学	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	佐藤和世・塩澤和人	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	佐藤和世：実務経験22年 理学療法士として、急性期・回復期病院、療養型病床、クリニックに勤務。実務経験を活かし事例を交えながら講義を行う。 塩澤和人：実務経験18年 理学療法士として、回復期・急性期病院、デイサービス、障害者福祉施設、介護予防事業、教育機関に携わった実務経験を活かし、事例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	この授業では、基本動作となる寝返り動作、起き上がり動作、起立・着座動作、歩行の4項目を観察し運動学的な用語を用いて説明できるを目的とする。基礎的な解剖とバイオメカニクスを用いて各動作を分析し問題点を探索できるとともに治療に繋がる実技を行う。		
到達目標	観察した動作を図や適切な用語を用いて記載できる・表出できる		
授業形態	講義、実習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	姿勢分析	イントロダクション
2回	姿勢分析	臥位・坐位・立位姿勢の観察と分析
3回	寝返り動作分析	寝返り動作の観察と分析
4回	寝返り動作分析	寝返り動作の観察と分析
5回	起き上がり動作分析	起き上がり動作の観察と分析
6回	起き上がり動作分析	起き上がり動作の観察と分析
7回	起立・着座動作分析	起立・着座動作の観察と分析
8回	起立・着座動作分析	起立・着座動作の観察と分析
9回	歩行分析	歩行動作の観察と分析
10回	歩行分析	歩行動作の観察と分析
11回	寝返りの評価と介入	治療介入を含めた寝返り動作の評価
12回	起き上がりの評価と介入	治療介入を含めた起き上がり動作の評価
13回	起立・着座の評価と介入	治療介入を含めた起立・着座の評価と介入
14回	歩行の評価と介入	治療介入を含めた歩行の評価と介入
15回	まとめ	まとめの解説

成績評価	授業内での課題提出（100％）	受講上のルール・留意点	動きやすい服装で参加すること
------	-----------------	-------------	----------------

課題やレポートに関するフィードバック
個別もしくは全体に必要な応じてフィードバックを行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践	石井慎一郎	メジカルビュー社
参考書	動作練習 臨床活用講座 動作メカニズムの再獲得と統合	石井慎一郎	メジカルビュー社
オフィスアワー	授業前後およびメール 佐藤：k-sato@nichireha.ac.jp 塩澤：k-shiozawa@nichireha.ac.jp		

理学療法学科 昼間 部			
科 目	P B L セ ミ ナ ーⅢ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	塚本奈々子、高林 礼子、他 P T 教員	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	・塚本奈々子：実務経験 2 0 年 理学療法士として、大学病院、地域の回復期、療養型病院、訪問リハ、デイケア、教育機関に勤務。実務経験を活かし、事例を交えながら講義を行う。 ・高林 礼子：実務経験 2 7 年 急性期病院、特養、通所、訪問の他、教育機関にも常勤として勤務。実務経験を活かし講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	臨床実習Ⅰへ向けて症例への評価～プログラム立案までを実際に行い、今まで学んだ医学的基礎知識や基礎的な理学療法評価への理解を深める。チームで共同して症例に取り組むことで共通の目的に向かって一緒に活動することを通して、 理学療法の専門職として社会に貢献するのに必要な連携の基盤づくりを行う。また、これまでの基礎学習で身につけたコミュニケーション能力やチームワークの重要性を通して、医療現場における専門職連携を理解する。		
到達目標	1．症例情報から評価項目を選択できる。 2．正確な検査を実施できる。 3．評価情報から問題点をICFにまとめられる。 4．評価結果からゴール設定、プログラムの立案ができる。		
授業形態	講義・演習・実習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	授業の目的と実施内容について 臨床実習Ⅰについて
2回	症例検討	上級生の症例検討に参加し、症例検討の方法を学ぶ
3回		
4回	様々な症例について 症例情報の整理と理解	症例情報を整理し、全体像をまとめる。症例に適した評価を実施する。
5回		〃
6回		〃
7回		〃
8回		〃
9回		〃
10回		〃
11回		〃
12回		〃
13回		〃
14回		〃
15回	まとめ	今回成長できた点を確認し、実習にむけて今後の課題を整理する

成績評価	課題や授業内小テスト	受講上のルール・留意点	ただ課題をこなすのではなく、10月からの実習での立ち振る舞いを意識して臨んでください。
------	------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書			
オフィスアワー	質問は基本的に対面で、授業中・前後にしてください。		

		学療法学科	昼間部
科 目	義肢装具学 I	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	木下 修・石垣 栄司	学 年	3年生 前期
実績経験	資 格	義肢装具士として42年、製作・適合判定に従事していました。 理学療法士として32年、総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・ディサービス・保健所・教育機関は大学・大学院などに従事していました。	
	理学療法士（33年） 義肢装具士（43年）		

授業の位置づけ	リハビリテーション関連職種では、理学療法士の装具治療に対する役割は重要になっている。 近年では、急性期より装具を治療の一環として処方されている。 治療で使用する装具の装着だけではなく、日常生活動作・応用動作に使用できるように適合・チェックアウトなど治療効果を上げる上で重要な役割を担っている。 そこで、より実践的な装具療法を学習し、基礎から応用性のある学習を解説する。 授業方法、義肢装具室で装具を触りながら講義・ディスカッションなどで授業を進める。		
到達目標	基礎疾患を理解した上で、障害と装具の基礎知識を学習する。 治療場面の多様化に対応できるように応用する能力をつける。 装具の概念などの基礎知識と構造と疾患の流れを理解する。		
授業形態	対面：座学：講義 実習（弾性包帯・歩行分析）		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	総論・概念	装具総論・概念・歴史
2回	各論：下肢装具	下肢装具総論・下肢の機能解剖学
3回		長下肢装具
4回		短下肢装具・シューホン装具
5回		膝・足関節装具
6回		その他の装具：免荷装具・股装具
7回	靴型装具	足部の解剖と機能解剖学について
8回		靴型装具各論
9回		インソール（足底板）
10回	体幹装具 頰椎装具 胸腰対装具 腰椎	体幹の解剖・運動の機能について
11回		頰椎・胸椎・腰椎について
12回		側弯症装具について
13回	上肢装具： 肩・肘装具 手関節・手指装具	上肢の解剖と運動の機能について
14回		肩・肘・対立・把持装具
15回	実技	弾性包帯・足底板

成績評価	課題レポート・小テスト 筆記試験で評価をします。	受講上のルール・留意点	積極的に行動し発言をしてください
------	-----------------------------	-------------	------------------

課題やレポートに関するフィードバック
レポート課題は、授業中全体に対しフィードバックし、レポートは個別に対応する

	書名	著書名	出版社名
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学	高田治実	羊土社
オフィスアワー	授業時間以外で質問のある場合には、事前にメールで予約をしてください。 o-kinoshita@nichireha.ac.jp		

理学療法学科 昼間 部			
科 目	義肢装具学 II	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	石垣 栄司	学 年	3年生
実績経験	資格	実務経験33年。理学療法士として、総合病院・維持期病院・教育機関に勤務。 総合病院ではPTとして義肢ソケットの作成，組み立て，アライメント修正などを行ってきた。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	切断は、脳卒中や骨折，呼吸循環疾患などと比べ学生時，また臨床場面でも遭遇する機会が少ない疾患である。そのため，学内での学習では構造・部品名，特殊な用語などイメージしにくい内容が多いものの，国家試験では毎年出題されている。 講義では，実際の義肢や動画を見ながら学習しイメージしやすいように説明する。 義足を覚える基本となる大腿義足では異常歩行(ダイナミックアライメント)に演習(グループワークと発表)を取り入れ異常歩行を理解してもらう。		
到達目標	切断の原因とその治療について説明できるようになる。 義足の種類・適合・アライメントについて理解する。 切断の評価を理解し，臨床場面で行えるようになる。 切断の理学療法を理解する。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	義肢学総論	歴史，疫学，原因，適応，切断高位と切断手技，支給サービス，義肢の分類(義手含)
2回	下肢切断の理学療法評価	形態測定，断端評価，筋力評価，関節可動域評価，感覚検査，疼痛評価，皮膚感応テスト
3回	義足の継手	股継手，膝継手，足継手，その他部品
4回	大腿義足ソケット	大腿義足ソケットの種類・特徴，懸垂装置，ソケットの評価
5回		
6回	大腿義足アライメント	ベンチアライメント，スタティックアライメント
7回		ダイナミックアライメント演習
8回		ダイナミックアライメント演習・発表
9回	下腿義足ソケット	下腿義足ソケットの種類・特徴，懸垂装置，評価
10回	下腿義足アライメント	ベンチアライメント，スタティックアライメント
11回	下腿義足アライメント	ダイナミックアライメント
12回	股義足，膝義足	股義足の種類と適合，股義足のアライメント，膝義足の種類と適合
13回	サイム・足部義足	サイム義足の種類と適合，サイム義足のアライメント，足部義足の種類と特徴
14回	下肢切断の理学療法	術前の理学療法，良肢位保持，断端管理，義足装着時期，術後の理学療法等
15回		

成績評価	筆記試験80% 演習・発表20% 授業時間数の2/3以上出席していない者には試験を受験させず単位を与えない	受講上のルール・留意点	積極的な参加を求めます。 詳細は初講日に説明します。
------	---	-------------	-------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
適宜，個人及び全体に対して実施します。

	書名	著書名	出版社名
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版	監修:高田治実/編集:豊田輝，石垣栄司	羊土社
参考書			
オフィスアワー	月・火・木・金 メールでの連絡は随時 e-ishigaki@nichireha.ac.jp		

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	疾患別理学療法Ⅴ【脳性麻痺】	単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	村木 正昭	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	理学療法士として病院に勤め、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方へ理学療法を実践してきた経験を活かし、事例を交えた情報提供と実技練習を多く盛り込んだ講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	脳性麻痺は、肢体不自由児の47.5%を占める。理学療法士が関わる発達障害領域の中で治療を提供する機会が最も多い疾患です。脳性麻痺児に関わる際に、理学療法士は運動獲得をサポートします。その中で、患児が自分で動けた時に見せる笑顔をたくさん引き出すこと、患児・保護者の気持ちを理解し共に支援していくことが求められます。「発達」に関する知識を提供し活かせる知識とするためにビデオをたくさん用いて解説し症例検討も行います。また、患児に安心感を感じてもらえるために「手当て」や「ポジショニング」の実技練習も行います。脳性麻痺を含む小児理学療法を「ハビリテーション（（これから）獲得する）」の視点から解説し、各領域の特徴も説明します。また、国家試験対策として過去問を通して解説していきます。		
到達目標	①脳性麻痺の定義、原因、症状、介入のポイント、特徴的な二次障害について説明することができる。 ②脳性麻痺のタイプに応じて、必要な評価項目を選択し説明することができる。 ③脳性麻痺を含む小児理学療法の特徴を理解することができる。 ④ビデオを用いた症例検討を通し観察した内容を記録し報告することができる。		
授業形態	講義・対面授業		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	小児理学療法概論	小児理学療法の特徴、評価の方法と進め方、臨床における枠組みの活用を学ぶ。定型運動発達を復習する。
2回	定型発達と評価・介入	全般的発達、筋・骨格系、神経系、呼吸・循環系、姿勢と粗大運動、歩行、目と手・上肢機能、日常生活活動と遊びの発達を学ぶ。評価と介入について知識を得る。
3回	脳性麻痺：概論・評価	定義・発生原因・症状・分類・早期介入の意義について、適切な用語を用いて説明できる。粗大運動能力の評価、反射・反応の評価、姿勢観察、摂食嚥下、保護者評価の内容と方法を学び選択することができる。
4回	脳性麻痺：介入	患者・家族中心のチームアプローチ、包括的な関わり、具体的支援方法を学び個別性を考慮した内容を選択することができる。
5回	ファシリテーションテクニック	愛護的触り方、動かし方を実技を通して学び、症状別の実技にも活かすことができる。
6回	痙直型１：概論	『痙性』について、上位運動ニューロン障害とし、病態の成人と小児の違いを適切な用語を使い説明できる。
7回	痙直型２：片麻痺	片麻痺を呈する対象児の歩行を分析し、その個別性をふまえて、治療目標を立てることができる。
8回	痙直型３：両麻痺・四肢麻痺	両麻痺、または四肢麻痺の脳性麻痺児の治療目標をたてることができる。
9回	痙直型４：両麻痺・四肢麻痺（実技）	脳性麻痺を想定し、姿勢制御を実技を通して演習する。
10回	動揺性姿勢筋緊張：概論１	動揺性姿勢筋緊張を呈するアテトーゼ型の原因・病態の違いを、適切な用語を使い説明できる。
11回	動揺性姿勢筋緊張：概論２	動揺性姿勢筋緊張を呈する失調型の原因・病態の違いを、適切な用語を使い説明できる。
12回	動揺性姿勢筋緊張３（実技）	アテトーゼ型の不随運動と失調型の測定障害に対する治療の立案を実技を通して演習する。
13回	重症心身障害児：NICU	重症新障害児の定義と新生児集中治療室（NICU）の役割について、適切な用語を用いて説明できる。NICUの姿勢管理を実技を通して学ぶ。
14回	小児整形疾患・二分脊椎・発達障害：概論	二分脊椎の機序と脳性麻痺との理学療法上の観点の違いを説明できる。
15回	環境調整・補装具・二次障害予防	対象者に対する家庭療育と、補装具などの活用について、ライフステージと二次障害予防の視点を踏まえて理解する。

成績評価	定期試験（筆記のみ）（6割） 授業中の小テスト（2割） 授業中の小レポート（2割）	受講上のルール・留意点	①定期試験は別日程にて実施 ②定期試験は筆記テストのみとする ③授業中の小テストは前講義分を翌講義時に実施予定 ④授業中の小レポートはビデオ症例検討をまとめる ⑤授業時間数の3分の1以上欠席したものには単位を与えない
------	---	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックはコメントを記載し各自に返却する。フィードバックの要点は全体に伝える。

	書名	著書名	出版社名
教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 小児理学療法学	藪中良彦、木元稔、坂本仁	メジカルビュー社
参考書	『脳性まひ児の家庭療育』第4版	Eva Bower	医歯薬出版
参考書	『アテトーゼ・失調・低緊張の評価と治療』		協同医書出版
参考書	『正常発達 脳性麻痺の治療アイデア』第2版	Jung Sun Hong	三和書店
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科 目	理学療法技術論Ⅱ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	畠山・村井・石垣		学 年	3年生 後期
実績経験	資格	畠山：1985理学療法士免許取得。リハ施設の認可等に当たる。平成9年、鍼灸資格取得、同年より日本リハビリテーション専門学校勤務となる。 村井：実務経験30年。1992年より中枢疾患を中心とした病院で勤務。2005年に鍼師・灸師・あんまマッサージ指圧師を取得。その後教育機関で専任として勤務 石垣：理学療法士として33年。総合病院・維持期病院・教育機関に勤務。 総合病院ではPTとして義肢ソケットの作成，組み立て，アライメント修正などを行ってきた		
	畠山：理学療法士、鍼師・灸師 村井:理学療法士、鍼師・灸師・按摩マッサージ師			

授業の位置づけ	軟部組織系のインジケーターは痛みのコントロール。分節間の立ち直り反応を含めた張力としての筋緊張及び筋膜の関係を疼痛の制御を通じて、具体的に運動の変換を追求する。姿勢分析、運動分析を含めた動作分析の中で、仮説立証作業の一環として軟部組織への治療手技を学ぶ。		
到達目標			
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回		MTA総論・コースオリエンテーション
2回	筋調整 (MTA)	痛みの評価（原因となる筋の探し方）
3回		基本手技Ⅰ
4回		基本手技Ⅱ
5回		上肢の治療
6回		下肢の治療
7回	筋膜リリース	概論
8回		クロスハンドテクニック
9回		腰仙減圧Ⅰ・Ⅱ フォースクロジャ-、フォームクロジャ-
10回		横断面リリースと分節
11回		後頭課リリース、プルテクニック（U/E・L/E）
12回		体幹の治療
13回	神経モビライゼーション	U/E 正中、橈骨、尺骨神経
14回		L/E SLUMP test
15回	テーピング	トリガーポイントとスパイラルテープ、キネシオテープ

成績評価	レポート課題	受講上のルール・留意点	他者に対する礼儀と配慮、必要であれば補講又は実技練習を設ける
------	--------	-------------	--------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
メールでの添付にて提出、添削によるフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	妹尾チューニングアプローチ入門	高田 治実	今日同意書出版
参考書			
オフィスアワー	担当授業の前後		

科 目	理学療法技術論Ⅲ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	黒木光／雨宮淳／高橋浩平／桑島泰輔／鈴木章規		学 年	3年生 後期
実績経験	資 格	実務経験 20年以上、総合病院・整形外科クリニック・地域にて活動している専門家が講義・実技演習をおこなう。 黒木光：Movement links／DNS認定療法士、国際ボイタセラピスト 雨宮淳：オーソディックスソサエティー認定フットトレーナー 高橋浩平：栄養サポートチーム専門療法士（学会認定） 桑島泰輔：米国呼吸療法認定療法士 鈴木章規：Movement links／DNS認定療法士、国際ボイタセラピスト		
	理学療法士、他			

授業の位置づけ	この授業では筋骨格系の障害に対する評価と治療を講義と実技を通して解説する。理学療法士に必要な観察眼と思考力の向上を高めることが目的である。オムニバス形式で臨床内容を学ぶ。PTの視点からの栄養学、インソールの専門家による足・歩行の評価と足底挿板の作成、急性期病院の理学療法についておこなう。授業方法は講義が50%、実技演習が50%である。		
到達目標	姿勢と動作の評価を行い、それを説明できるようになる。 治療技術について関心を持ち、患者モデルの問題にあった治療手技を選択することができる。		
授業形態	講義・演習	併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	概論（鈴木章規・黒木）	筋骨格系障害の評価
2回	評価（鈴木章規・黒木）	発達運動発達をベースにした運動・姿勢観察
3回	評価（鈴木章規・黒木）	発達運動発達をベースにした運動療法
4回	薬学	薬学の基本
5回	薬学	薬学の基本
6回	薬学	疾患と薬物療法
7回	薬学	疾患と薬物療法
8回	栄養学（高橋浩平）	PTと栄養学の関わり
9回	栄養学（高橋浩平）	栄養学をどうPTの現場で使うか
10回	急性期（桑島）	ICUでのPTの仕事
11回	急性期（桑島）	実際の理学療法について
12回	足底板（雨宮・米村）	概論：足の評価と治療
13回	足底板（雨宮・米村）	評価
14回	足底板（雨宮・米村）	足底板作成
15回	足底板（雨宮・米村）	再評価・修正

成績評価	演習課題100% 授業時間数の3分の1以上 欠席した者は試験は受験させず、単位を与えない	受講上のルール 留意点	動きやすい服装（半袖、短パン）、観察しやすい服装を用意ください。ジーパンや体の線が見にくい服装は控えてください。 お互いの身体を利用しながら学習をおこないますので、互いに気遣いましょう。 足底板の作成時はご自身の靴を使いますので、中敷がある靴をご用意ください。（普段履いている靴で大丈夫です）
------	--	----------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
毎回、授業の疑問点について、授業シートでFBする。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 h-kuroki@nichireha.ac.jp		

理学療法 学科 昼間部			
科目	理学療法技術論Ⅴ【中枢】	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	佐藤和世	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	佐藤和世：実務経験22年 理学療法士として、急性期・回復期病院、療養型病床、クリニックに勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	中枢神経疾患に対する最新のリハビリテーション治療を理解する。神経発達学的治療を通して正常運動や姿勢反射を理解する。		
到達目標	中枢神経系理学療法の概要を説明できる 治療実技を実践できる		
授業形態	講義、実習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	総論	脳卒中の概念 脳卒中の運動療法について
2回	各論	神経の可塑性と運動療法
3回	各論	運動学習理論
4回	各論	脳卒中の評価
5回	各論	最新リハビリテーション治療の使い分け
6回	各論	動作分析の仕方
7回	脳卒中後遺症者に対するボバースアプローチ	ボバース概念
8回		キーポイントオブコントロールと支持面
9回		急性期の病態を学ぶ
10回		急性期の病態に合わせた治療手技
11回		痙性期の病態を学ぶ
12回		痙性期の病態に合わせた治療手技
13回		適応回復期の病態を学ぶ
14回		適応回復期の病態に合わせた治療手技
15回	まとめ 臨床推論	脳卒中後遺症者の個別性の捉え方を学ぶ

成績評価	授業内の課題の提出（100％）	受講上のルール・留意点	実技に際しては動きやすい服装で参加する
------	-----------------	-------------	---------------------

課題やレポートに関するフィードバック
個別もしくは全体に必要なに応じてフィードバックを行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	「脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ～基礎編～（運動と医学の出版社の臨床家シリーズ）」	古澤正道 著・編集	運動と医学の出版社
参考書	脳卒中 理学療法の理論と技術	原寛美 吉尾雅春 編集	メジカルビュー社
オフィスアワー			

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	スポーツ臨床治療学	単位・時間数	1単位・15時間
担当講師	橋本 悠太	学 年	3年生・前期
実績経験	資格	実務経験 医療機関 13年	
	理学療法士	「理学療法士として運動器・整形外科疾患に対して行ってきた実務経験を活かし臨床での実践例を踏まえ講義を行う」	

授業の位置づけ	近年、国内のスポーツ人口は増え続けており、それに伴いスポーツに関連した傷害も増えてきた。整形外科分野においてもスポーツ傷害に対するリハビリテーションが重要視されてきている。理学療法士として臨床現場に立つ際に幅広い知識や技術を備え、対象者のニーズに応えられるようにすることをこの授業の位置づけとする。 この授業では講義形式で進めていくが、実技も交えながら臨床現場で役立つ実践的な内容を多く含んだ授業となる		
到達目標	整形外科領域の臨床現場で頻出するスポーツ障害に対する理解を深め、スポーツ分野での疾患に対応する知識と技術を向上させる		
授業形態	「講義・演習」	「対面授業」	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	スポーツ臨床治療の概論	総論 障害と外傷の違い、スポーツリハビリテーションの特徴、臨床推論の進め方
2回	膝関節のスポーツ傷害に対する評価と治療	膝関節周囲のスポーツ疾患について臨床推論を用いて学ぶ
3回	足関節のスポーツ傷害に対する評価と治療	足関節周囲のスポーツ疾患について臨床推論を用いて学ぶ
4回	股関節のスポーツ傷害に対する評価と治療	股関節周囲のスポーツ疾患について臨床推論を用いて学ぶ
5回	体幹のスポーツ傷害に対する評価と治療	体幹周囲のスポーツ疾患について臨床推論を用いて学ぶ
6回	肩関節のスポーツ傷害に対する評価と治療	肩関節周囲のスポーツ疾患について臨床推論を用いて学ぶ
7回	肘関節のスポーツ傷害に対する評価と治療	肘関節周囲のスポーツ疾患について臨床推論を用いて学ぶ
8回	手のスポーツ傷害に対する評価と治療	手関節周囲のスポーツ疾患について臨床推論を用いて学ぶ

成績評価	授業態度20%	受講上のルール・留意点	・授業時間数の3分の1以上欠席したものには単位を与えない ・授業内の課題に関しては内容の理解度をチェックするものとして毎週の授業ごとに筆記形式で行う ・レポートは授業内容のまとめとして、A4レポート用紙に800字から1000字程度でまとめる内容とする。
	授業内課題30%		
	レポート50%		

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書	パワーズ運動生理学 体力と競技力向上のための理論と応用	パワーズ・スコット（著）内藤久士 他（訳）	メディカルサイエンスインターナショナル
オフィスアワー			

科 目	理学療法管理学		単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	臼杵 寛、下村 周平		学 年	3年生 後期
実績経験	資格	下村：実務経験16年（病院、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。 臼杵：実務経験23年（病院、老健、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。		
	理学療法士			

授業の位置づけ	理学療法士を養成する教育内容が改正され、2020年度より新たに「理学療法管理学」が必修化された。理学療法士には臨床に関する知識や技術を習得する事は当然のこととして、得た知識や技術を対象者に提供する際に必要な管理、医療保険や介護保険に関する管理、その他情報やリスク、感染に関する管理や教育に関する管理など、様々な管理(マネジメント)が要求される。この授業では理学療法士に必要とされる様々な管理(マネジメント)について、講義と演習を通して学修する。		
到達目標	臨床実習前後に知っておくべき医療機関の分類と組織の機能、チーム医療について理解する。 理学療法業務に必要な医療保険制度、介護保険制度について理解する。 様々な業務における管理(業務、情報、リスク、感染、教育など)について理解する。		
授業形態	講義・演習		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	総論と病院の分類・組織	理学療法管理学が必要とされる背景、病院の組織・部門とその機能
2回	専門職とチームケア	リハビリテーションに関わる専門職・事務職の役割と特徴、委員会とチーム
3回	専門職とチームケアの演習	項目に関するグループワーク・発表
4回	医療保険制度と介護保険制度	医療保険制度と介護保険制度の特徴・体系・サービス
5回	診療・介護報酬と収益構造	臨床におけるリハビリテーション料の算定、介護報酬・診療報酬の支払い、人件費とコスト
6回	診療報酬とコストの演習	項目に関するグループワーク
7回	診療報酬とコストの演習	項目に関する発表
8回	業務管理	理学療法士の業務の流れ、他職種との業務調整、労務管理など
9回	情報管理	診療記録・電子カルテなどの分類と管理、コミュニケーション技術
10回	リスク管理	医療・介護におけるコンプライアンス、インシデントとアクシデントなど
11回	リスク管理の演習	項目に関するグループワーク・発表
12回	感染症管理	感染と感染症の概要、感染症の予防、感染対策
13回	権利擁護と職業倫理	インフォームドコンセント、個人情報保護、職業倫理、ハラスメントなど
14回	卒前教育	診療参加型臨床実習、臨床教育
15回	卒後教育 PTの政治政策への関与	生涯学習、人事考課、就職活動、職能団体と政治への関与など

成績評価	レポート課題100%	受講上のルール・留意点	演習は積極的に取り組んでください。 詳細は初講日に説明します。
------	------------	-------------	------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
適宜、個人及び全体に対して実施します。

	書名	著書名	出版社名
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法管理学	長野 聖 (責任編集)	中山書店
オフィスアワー	下村：授業前後及びメール (s-shimomura@nichireha.ac.jp) 臼杵：授業前後及びメール (h-usuki@nichireha.ac.jp)		

理学療法学科 昼間部			
科目	地域理学療法学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	下村 周平	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	実務経験16年（病院、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、 実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	この授業では地域包括支援体制に帰属するリハビリテーションについて学ぶ。なかでも、理学療法分野の役割について学び、環境ごとに求められる理学療法の役割をその特徴を理解し、説明できるようになることを目的とする。 幅広い環境で理学療法を実践するために、チームアプローチを理解し、その規範に基づき行動するための理解が求められる。		
到達目標	1．地域リハビリテーションについて理解し説明することができる 2．その中での理学療法士の役割や実務を理解し説明することができる 3．地域の中での多職種連携やチームアプローチを理解し説明することができる		
授業形態	講義・演習		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	総論 地域理学療法学①	地域理学療法とは
2回	総論 地域理学療法学②	地域理学療法と関連する制度の変遷
3回	総論 地域理学療法学③	地域包括ケアについて
4回	各論 地域理学療法学④	障害者総合支援法
5回	各論 保険制度①	介護保険制度①仕組み
6回	各論 保険制度②	介護保険制度②給付
7回	各論 介護保険サービス①	通所リハの機能と理学療法士の役割
8回	各論 介護保険サービス②	通所介護、短期入所等
9回	各論 介護保険サービス③	訪問リハの機能と理学療法士の役割
10回	各論 介護保険サービス	訪問、介護予防事業、総合事業
11回	各論 介護保険サービス	介護老人保健施設、介護老人福祉施設の機能と理学療法士の役割
12回	各論 介護保険サービス	疾患別にみる地域理学療法の特徴
13回	各論 介護保険サービス	災害支援における理学療法士の関わり
14回	各論 連携・対人支援技術	多職種連携・対人支援技術
15回	各論 連携・対人支援技術	終末期の関わり方

成績評価	レポート課題100%	受講上のルール・留意点	演習には積極的に参加すること
------	------------	-------------	----------------

課題やレポートに関するフィードバック
適宜、個人及び全体に実施。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書	適宜紹介		
オフィスアワー	下村：授業前後及びメール（s-shimomura@nichireha.ac.jp）		

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	地域理学療法学演習		単位・時間数 1単位・15時間
担当講師	下村 周平、臼杵 寛		学 年 3年生 前期
実績経験	資 格	下村：実務経験16年（病院、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。 臼杵：実務経験23年（病院、老健、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の 位置づけ	この授業では、対象者が病院や施設から住み慣れた場所（自宅）へ移行する上で必要な介護保険や生活環境整備などの知識などを整理し、実際の場面にて使える知識としていきます。 また、その知識をもとに様々な手続きの手順や方法について演習を行い理学療法士としての関わり方や支援方法について学びます。		
到達目標	1．地域包括ケアを理解し、実際に使える知識を養う。（ケアプランの模擬作成） 2．生活環境整備の目的や評価について理解し、手順や具体的な方法について説明できる。 3．住宅改修や福祉用具導入の目的を理解し説明できる。		
授業形態	講義・演習		

授業計画		
回数	項 目	講義内容
1回	住宅改修 演習	家屋評価、住宅改修の演習
2回	住宅改修 演習	家屋評価、住宅改修の演習
3回	住宅改修 演習	家屋評価、住宅改修の演習
4回	住宅改修 演習	家屋評価、住宅改修の演習
5回	ケアプラン作成	実際にケアプラン作成を行い、支援方法の考え方を学ぶ
6回	ケアプラン作成	実際にケアプラン作成を行い、支援方法の考え方を学ぶ
7回	ケアプラン作成	実際にケアプラン作成を行い、支援方法の考え方を学ぶ
8回	ケアプラン作成	実際にケアプラン作成を行い、支援方法の考え方を学ぶ

成績 評価	レポート課題100%	受講上のルール・留意点	演習には積極的に参加すること
----------	------------	-------------	----------------

課題やレポートに関するフィードバック
適宜、個人及び全体に実施。

	書 名	著 書 名	出版社名
教科書	参考書などは適宜紹介		
オフィスアワー	下村：授業前後及びメール（s-shimomura@nichireha.ac.jp） 臼杵：授業前後及びメール（h-usuki@nichireha.ac.jp）		

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	生活環境論	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	高林 礼子	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	実務経験27年（総合病院・老人福祉施設・障害者施設・訪問等）の経験を踏まえて講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	私たちの生活に密着した広範囲な視点から理学療法学を考えることで、日々の暮らしに役立つ理学療法士を教育していく。		
到達目標	日常生活活動の一要素である生活環境を住宅及び福祉用具の視点から再考し、新しい分野である生活環境学を理解できる。		
授業形態	講義及び演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	概論	生活環境のとらえ方 と日本における生活環境の特徴と課題
2回	法制度	生活環境整備に関する法制度
3回	介護保険	介護保険における福祉用具と住宅改修
4回	生活環境整備 総論	生活環境整備の進め方
5回	生活環境整備 各論	生活環境整備の基本〔段差・スペース・床材・手すり・建具〕
6回	生活環境整備 各論	玄関・アプローチ・廊下・階段の環境整備
7回	生活環境整備 各論	トイレの環境整備
8回	生活環境整備 各論	浴室・脱衣室の環境整備
9回	生活環境整備 各論	台所・食堂・居間・寝室の環境整備
10回	生活環境整備 実際	疾患別環境整備①〔中枢神経障害〕 グループワーク
11回	生活環境整備 実際	疾患別環境整備②〔運動器障害〕 グループワーク
12回	生活環境整備 実際	地域における住環境整備と交通 グループワーク
13回	課題発表	レポート発表
14回	福祉用具の見学	国際福祉機器展見学
15回		

成績評価	定期試験：7筆記試験、レポート	受講上のルール・留意点	確認テスト、グループワークに参加しないと加点されないので、欠席しないこと。
------	-----------------	-------------	---------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著者名・出版社	
参考文献	教科書：『標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学』 参考書：『生活環境学テキスト』	鶴見隆正 編集 医学書院	医学書院
		細田多穂 監修	南江堂
オフィスアワー	授業前後、メールr-takabayashi@nichireha.ac.jp		

理学療法学科 昼間部			
科 目	臨床実習 I	単位・時間数	8単位・360時間
担当講師	理学療法学科教員	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・ディサービス・保健所・教育機関などに従事しています。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	学内で学んできたことを医療・介護・福祉の実習施設において、症例を担当し、理学療法で取り扱う主な疾患と障害の評価を通して、対象者の抱えている問題点の抽出を実施し、対象者にとって適切となる治療プログラムの作成ができる。 その際、評価項目の抽出法や問題点に対する解釈・統合について、根拠を持って指導者に説明ができる。		
到達目標	医療機関や介護施設内で実習生としての立場を自覚しながら学ぶことができる。 対象者の抱える問題に対し評価項目の抽出ができる。 評価の結果から解釈統合し、問題点に対するゴール、治療プログラムの作成ができる。 1. 実習指導者へ適切な報告・連絡・相談を行い、患者・利用者に対して適切な態度で接することができる。 2. 選択した評価項目を適切な方法で、患者・利用者の状態を管理しながら評価を実施できる。 3. 検査測定の結果と対象者の動作を関連付けて統合解釈し、ゴール設定ができる。 4. 対象者に必要となる治療プログラムの作成ができる 5. 評価結果をわかりやすく指導者や患者・利用者に説明ができる。その際疑問・質問に対し対応できる。 6. 指導者からの指導に対し謙虚に受け取り、修正と改善ができる。		
授業形態	臨床実習		

授業計画	理学療法の評価実習では、評価に関する検査測定の知識、技術を実習指導者の下で、担当症例に対し、一連の評価項目の抽出（カルテからの情報収集、問題点の考察、検査測定からの統合と解釈に基づく問題点の抽出）を通して、臨床問題解決能力と実践能力を実施する。 1. 実習前学習：評価実習で必要な知識・技術の定着を図る。 ① PBL学習において症例に対する問題解決能力を学習する。 ② OSCEによって技術の能力を評価する。 2. 評価実習（全国の医療施設・介護施設で実施する） 1) 患者・利用者に適切な検査測定の選択し評価を実施する。 2) 他部部門から患者・利用者に必要な情報収集を実施する。 3) 評価および情報収集から得られたデータをもとに統合と解釈ができる。 4) 得られたデータを整理・記録し、ゴール設定を実施する。 5) 対象者に必要となる治療プログラムの作成ができる。 （その際、実習指導者へ説明し、アドバイスをもらうことができる） 3. 実習地での報告会や学内発表で自身が経験・体験した内容について報告を行う。 4. 臨床実習Ⅱ（総合臨床実習）に向けて担当教員からフィードバックを受け、次の実習につなげる。		
------	---	--	--

成績評価	臨床実習地の総合的評価 実習後の学内発表を総合的評価する。	受講上のルール・留意点	臨床実習地での遅刻・早退・欠席は認めない。 実習指導者に対し、報告・連絡・相談は必ず行う 感染対策に対して、施設の規則に準じて行動する
------	----------------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
実習地での課題やレポートのフィードバックは実習地で実施する。 実習終了後、担当教員からもフィードバックを実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	臨床実習手引き	学校の資料	
参考書			
オフィスアワー	各実習担当教員・担任		

		理学療法学科 昼間部			
科目	専門基礎医学演習Ⅱ	単位	2	コマ数	30
担当講師	外来講師	学 年		4年生	
資格					

科目概要	専門基礎医学演習Ⅱでは、今まで修学した内容を振り返る。 1．今まで修学した科目を振り返り、知識および技術の習得を目指す。 この授業で習得した学習方法をPBLやOSCEに活用する。				
学習の留意点	学生が主体的に取り組めるように、グループの営みを日々確認し、適切にワークが進むように経過を観察し、状況に応じて介入する。				
到達目標	今まで修学した知識と技術を再確認し、習得できる				
授業形態	講義		対面		
関連科目	解剖学・生理学・運動学	理学療法評価学 理学療法治療学		臨床医学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	解剖学・生理学・運動学	
2回	解剖学・生理学・運動学	
3回	解剖学・生理学・運動学	
4回	解剖学・生理学・運動学	
5回	解剖学・生理学・運動学	
6回	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
7回	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
8回	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
9回	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
10回	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
11回	理学療法の評価と技術	
12回	理学療法の評価と技術	
13回	理学療法の評価と技術	
14回	理学療法の評価と技術	
15回	理学療法の評価と技術	

成績評価	筆記試験で60点以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	レポート課題は、授業中全体に対しフィードバックし、レポートは個別に対応する。
使用教材 教科書	配布資料を活用
オフィスアワー	

		理学療法学科 昼間部			
科目	理学療法特論Ⅱ	単位	2	コマ数	30
担当講師	理学療法学科全教員	学 年		4年生	
資格	理学療法士				

科目概要	臨床現場では、医師の指示のもと、理学療法を実践し、日々理学療法評価および治療、そのための臨床推論を実施する。臨床実習Ⅰ・Ⅱを終了しているが、臨床現場に十分な準備をして臨むため、不足している生理学的知識を深く習得するためのカリキュラムとなる。				
学習の留意点	学生が主体的に取り組めるように、グループの営みを日々確認し、適切にワークが進むように経過を観察し、状況に応じて介入する。				
到達目標	神経系・脈管系・内臓系・発生の構造と機能を理解する				
授業形態	講義			対面	
関連科目	解剖学・生理学・運動学	理学療法評価学 理学療法治療学		臨床医学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	体温	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
2回	基礎代謝	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
3回	エネルギー代謝	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
4回	免疫①	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
5回	免疫②	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
6回	呼吸①	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
7回	呼吸②	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
8回	呼吸③	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
9回	循環①	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
10回	循環②	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
11回	循環③	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
12回	消化器①	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
13回	消化器②	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
14回	排尿	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
15回	排便	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる

成績評価	筆記試験で60点以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	採点結果から苦手分野を把握し、重点的に取り組んでもらう部分を個別にフィードバックする。
使用教材 教科書	配布資料を活用
オフィスアワー	

		理学療法学科 昼間部			
科目	理学療法特論Ⅲ	単位	2	コマ数	30
担当講師	理学療法学科全教員	学 年		4年生	
資格	理学療法士				

科目概要	臨床現場では、医師の指示のもと、理学療法を実践し、日々理学療法評価および治療、そのための臨床推論を実施する。臨床実習Ⅰ・Ⅱを終了しているが、臨床現場に十分な準備をして臨むため、不足している運動学的知識を深く習得するためのカリキュラムとなる。				
学習の留意点	学生が主体的に取り組めるように、グループの営みを日々確認し、適切にワークが進むように経過を観察し、状況に応じて介入する。				
到達目標	神経系・脈管系・内臓系・発生の構造と機能を理解する				
授業形態				対面	
関連科目	解剖学・生理学・運動学	理学療法評価学 理学療法治療学		臨床医学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	機能解剖学①	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
2回	機能解剖学②	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
3回	機能解剖学③	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
4回	機能解剖学④	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
5回	動作解析①	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
6回	動作解析②	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
7回	姿勢①	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
8回	姿勢②	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
9回	歩行①	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
10回	歩行②	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
11回	歩行③	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
12回	運動制御①	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
13回	運動制御②	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
14回	運動学習①	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
15回	運動学習②	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる

成績評価	筆記試験で60点以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	採点結果から苦手分野を把握し、重点的に取り組んでもらう部分を個別にフィードバックする。
使用教材 教科書	配布資料を活用
オフィスアワー	

		理学療法学科 昼間部			
科目	理学療法特論Ⅳ	単位	2	コマ数	30
担当講師	理学療法学科全教員	学 年		4年生	
資格	理学療法士				

科目概要	臨床現場では、医師の指示のもと、理学療法を実践し、日々理学療法評価および治療、そのための臨床推論を実施する。臨床実習Ⅰ・Ⅱを終了しているが、臨床現場に十分な準備をして臨むため、不足している臨床医学の各々の領域の知識を深く習得するためのカリキュラムとなる。				
学習の留意点	学生が主体的に取り組めるように、グループの営みを日々確認し、適切にワークが進むように経過を観察し、状況に応じて介入する。				
到達目標	神経系・脈管系・内臓系・発生の構造と機能を理解する				
授業形態				対面	
関連科目	解剖学・生理学・運動学	理学療法評価学 理学療法治療学		臨床医学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	骨関節障害①	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
2回	骨関節障害②	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
3回	骨関節障害③	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
4回	神経・筋障害①	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
5回	神経・筋障害②	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
6回	神経・筋障害③	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
7回	神経・筋障害④	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
8回	神経・筋障害⑤	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
9回	内部障害①	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
10回	内部障害②	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
11回	内部障害③	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
12回	内部障害④	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
13回	精神障害①	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
14回	精神障害②	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる
15回	小児疾患	グループワーク実施後、小テストにて授業内容を理解できる

成績評価	筆記試験で60点以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	採点結果から苦手分野を把握し、重点的に取り組んでもらう部分を個別にフィードバックする。
使用教材 教科書	配布資料を活用
オフィスアワー	

		理学療法学科 昼間部			
科目	臨床実習Ⅱ	単位	16	時間数	720
担当講師	理学療法学科全教員	学 年		4年生	
資格	理学療法士				

科目概要	臨床実習Ⅱは、医療・福祉の施設での検査測定実習と治療実習を通して診療チームの一員として診療に参加し、基本的なリハビリテーション実施能力、理学療法実施能力を修得する。 1．急性期リハビリテーション、回復期リハビリテーション、地域（老人保健施設、通所施設）リハビリテーション、在宅（訪問）リハビリテーションの実際を経験し、その意義、必要性と役割について修得する。 2．全人的リハビリテーションを実施する際に必要な知識と技術を修得する。 3．最後の臨床実習として積極的行動し、専門職として相応しい態度・コミュニケーションで臨むこと。				
学習の留意点	医療人としてふさわしい態度がとれていることを前提にご指導ください。その上で、リスク管理や専門知識が深まること、理学療法評価を患者・利用者を通してスキルアップできること、臨床推論の機会を得られるようご配慮下さい。立案して理学療法プログラムの実施、改善による修正なども経験できるようにお願い致します。 学生が、診療参加型実習を通して、理学療法士の仕事の仕方や、他職種との連携等も学ぶ機会を作っていただきけうようご配慮下さい。 実習後、学内にてパワーポイント12枚のスライドにて発表を行います。可能であれば、伝達方法のご指導もお願い致します。				
到達目標	これでの臨床実習（早期見学実習：1年次、見学実習：1・2年次、検査測定実習：2年次、臨床実習Ⅰ：3年次）で積み上げてきたコミュニケーション能力、理学療法検査能力をもとに、指導者の指示のもと基本的理学療法が実施できることを目標とする。 まとめの臨床実習として、評価の検査・測定および患者像に対する評価を適切に実践し、問題点や患者情報から統合・解釈することによって問題点を抽出し、理学療法プログラムの立案および実施を学習する。 ①理学療法士としての礼儀・礼節・接遇が体现でき、基本的なルールを遵守することができる。 ②医療安全についての基本事項を理解し、実践することができる。 ③状況に応じて、必要なタイミングで指導者やスタッフに連絡・報告・相談ができる。 ④基本的な理学療法実践能力： （患者・スタッフ等とのコミュニケーション、医療面接、理学療法、多職種連携）を修得する。 ⑤理学療法で必要なカルテ記載、情報提供書や申し送り書に触れ、実際に体験する。 ⑥診療の現場におけるカンファレンスに参加し、報告できる。 ⑦情報の入手法（論文検索）、適否の判断、診療への応用について、指導者と検証する。 ⑧機会があれば、学会や講習会、講演会等に参加する。				
授業形態	実習		対面		
関連科目	基礎科目全般	専門基礎科目全般		専門科目全般	

授業計画		
回数	授業内容	行動目標
1回	これでの臨床実習（早期見学実習：1年次、見学実習：1・2年次、検査測定実習：2年次、臨床実習Ⅰ：3年次）で積み上げてきたコミュニケーション能力、理学療法検査能力をもとに、指導者の指示のもと基本的理学療法が実施できることを目標とする。 まとめの臨床実習として、評価の検査・測定および患者像に対する評価を適切に実践し、問題点や患者情報から統合・解釈することによって問題点を抽出し、理学療法プログラムの立案および実施を学習する。 ①理学療法士としての礼儀・礼節・接遇が体现でき、基本的なルールを遵守することができる。 ②医療安全についての基本事項を理解し、実践することができる。 ③状況に応じて、必要なタイミングで指導者やスタッフに連絡・報告・相談ができる。 ④基本的な理学療法実践能力： （患者・スタッフ等とのコミュニケーション、医療面接、理学療法、多職種連携）を修得する。 ⑤理学療法で必要なカルテ記載、情報提供書や申し送り書に触れ、実際に体験する。 ⑥診療の現場におけるカンファレンスに参加し、報告できる。 ⑦情報の入手法（論文検索）、適否の判断、診療への応用について、指導者と検証する。 ⑧機会があれば、学会や講習会、講演会等に参加する。	
2回		
3回		
4回		
5回		
6回		
7回		
8回		
9回		
10回		
11回		
12回		
13回		
14回		
15回		

成績評価	臨床実習指導者の評価および担当教員の評価、提出物、学内発表の内容を踏まえて総合的に判断する。
課題やレポートに関するフィードバック	実習後、学内にて発表・課題提出を行い、事後にフィードバックする。
使用教材 教科書	学校指定ケーシー、白靴、実習にふさわしい身だしなみが必要。施設によるが、通院時はスーツ着用。評価器具や学生評価表やデイリーノート、出欠表など実習書類を持参する。
オフィスアワー	担任や理学療法学科教員